

| | | | | |
|--------|----------|------|----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | アジア経済と環境 | 後期 | 月3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 呉 錫畢 | 2年 | メールで簡略に書いて、研究室に来ること。 | |

| | | |
|-------|--|-----------------------------|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 急速なアジアの経済成長は、同時に環境問題も急速に現れている。しかし、環境問題は一国だけの問題で留まることではない。この講義では、経済が急成長している東アジア、特に日本、韓国、台湾、中国、インド等を中心に、経済成長の背景を見た上で、どのような環境問題に直面しているのか。アジアの環境問題を、日本の経験から考えながら、資料やビデオ、写真等を通して考察する。 | 日本の公害経験よりアジア諸国の環境と経済問題を考える。 |
| 到達目標 | 環境及び経済問題に対して日本の経験からアジアを理解する。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びのヒント |
| | <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>1週目：アジア的経済成長 2週目：アジア的環境問題 3週目：中国の社会変化と経済 4週目：中国のエネルギー状況 5週目：中国の経済成長と環境問題 6週目：日本の経済成長と産業公害 7週目：日本のエネルギーと経済 8週目：台湾の経済成長と環境問題 9週目：韓国の経済成長と環境問題 10週目：インドの経済と社会変化 11週目：インドのエネルギーと環境問題 12週目：国際エネルギー情勢の現状1 13週目：国際エネルギー情勢の現状2 14週目：持続的発展に関する世界サミット概観 15週目：地球温暖化とCOP3・COP15におけるアジア経済の観点 16週目：期末試験</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義資料を配布する。そして、講義内容と関連する文献をそのつど紹介する。 ①井出亜夫編（2004）、『アジアのエネルギー・環境と経済発展』、慶応義塾大学出版社。②『井上 真(編集)、 『アジア環境白書』、東洋経済新報社。</p> |
| | <p>学びの手立て</p> <p>アジアの環境問題に関する本やビデオを通してレポートを作成する。</p> |
| 評価 | <p>期末試験（30%）、レポート（30%）、出欠（40%）。</p> |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>地球環境問題をアジアの経験より考える。</p> |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|---------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | エコビジネス論 | 後期 | 金 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 齋藤 星耕 | 1年 | 5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 本講義では、今後の成長が見込まれているエコビジネスの分類や市場動向、主要国での動向、課題、法規制、利害関係者などを概説するとともに、企業見学などにより実際の事業を見聞きして、エコビジネスの現状と課題を考察することを目的とする。 | エコビジネスには様々な分野があり、発展途上の分野もあります。社会と政治の状況、技術の進展の影響を受けて、日々状況が変化しています。本講義をきっかけに皆さんが積極的に学び、皆さんの中から、関連分野へ就職したり、将来自らエコビジネスを立ち上げる人が出ることを期待しています。 |
| 到達目標 | ①エコビジネスに関連する用語や特徴を理解し、説明できる。 ②エコビジネスの実務者の取り組みを見聞きして理解すると共に、その事業の課題を説明できる。 | |

| | | | |
|----------------|--|----------------------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義説明、エコビジネスの意義と展開 | 配布資料の見直し |
| | 2 | エコビジネスの体系：位置づけ、成立要件、分類など | 配布資料の見直し |
| | 3 | エコビジネスの市場動向①：エネルギー、エコプロダクツ・マテリアル | 配布資料の見直し |
| | 4 | エコビジネスの市場動向②：ソフトサービス系、廃棄物・リサイクル | 配布資料の見直し |
| | 5 | エコビジネスの国際比較：ドイツ、米国、中国など | 配布資料の見直し |
| | 6 | 野外実習：エコビジネス企業の見学① | レポート作成 |
| | 7 | 野外実習：エコビジネス企業の見学② | レポート作成 |
| | 8 | 環境経営戦略 | 配布資料の見直し |
| | 9 | 環境マネジメントシステム | 配布資料の見直し |
| | 10 | バイオミクリー（生物模倣）技術 | 配布資料の見直し |
| | 11 | エコビジネスと法規制 | 配布資料の見直し |
| | 12 | ステークホルダーの連携：金融、大学、NPO・NGOなど | 配布資料の見直し |
| | 13 | エコビジネスの取り組み事例①講話 | レポート作成 |
| 14 | エコビジネスの取り組み事例②講話 | レポート作成 | |
| 15 | エコビジネスの今日的課題・まとめ | 配布資料の見直し | |
| 16 | 試験 | | |
| テキスト・参考文献・資料など | テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。 参考文献：岸川善光編著「エコビジネス特論」（2010、学文社） | | |
| 学びの手立て | 履修の心構え： ・原則として毎回、講義の最後に小テストを実施する。注意深く講義の内容を聞きノートをとること。 ・企業見学および外部講師による講話の回ではレポートを課す。 ・企業見学および講話の日程は、先方のご都合により講義スケジュールが変更されることがある。 ・毎回出欠確認を行う。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に必ずメールにて連絡すること。 | | |
| 評価 | 期末試験（40%）と、小テスト及びレポート（60%）により評価する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目：「環境法」「環境政策論Ⅰ・Ⅱ」「環境会計」「環境経営」「産業と環境」「廃棄物論」 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|----------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | エネルギーと社会 | 前期 | 金1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -玉栄 章宏 | 2年 | 電話:090-8412-1064 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | エネルギーに関する国内外の状況を把握すると共に、将来ますます深刻化してゆく地球環境の変化とエネルギーについて、多角度からその関連性を解説する。化石燃料から非化石燃料へ、さらには化石燃料の高度利用やクリーン化技術など、真に持続可能な社会を実現するための基本的な考え方を身につけ、国内のみならず、国際的にも対応できる種々の知識を習得することを目標とする。 | 国内外、県内のエネルギーに関する新聞、テレビ、ネット情報などを大いに参考にしてください。 |
| 到達目標 | 現代社会においてエネルギー政策は大変重要である。学んだことを学内で発表したり、新聞投稿などが出来ることを期待する。 | |

| | | | |
|-------|--|--------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義説明、講師自己紹介 | |
| | 2 | 世界のエネルギー需要とエネルギー資源 | |
| | 3 | 太陽光発電① | |
| | 4 | 太陽光発電② | |
| | 5 | 風力発電① | |
| | 6 | 風力発電② | |
| | 7 | 水力・地熱発電 | |
| 8 | バイオマスエネルギー | | |
| 9 | 燃料電池システム（家庭用、自動車） | | |
| 10 | スマートハウス | | |
| 11 | ヒートポンプとその応用 | | |
| 12 | エンジン発電システム・コージェネレーション | | |
| 13 | スマートグリッド | | |
| 14 | カーボン・オフセット | | |
| 15 | 将来の低炭素型社会とエネルギー | | |
| 16 | 試験 | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。DVDや各種配布資料など（ファイルに綴じ、毎回持参する）。 | | |
| | 学びの手立て 授業でわからないことがあれば、積極的に質問してください。また、授業中はスマホで検索して学びに活かすとは大いに勧めます。但し、試験中はスマホの使用は禁止です。 | | |
| | 評価 ・ 期末試験によりに評価する。再試験は実施しない。 ・ 欠席日から2週間以上過ぎた欠席届は受け取らないので注意する。 ・ 以下の場合、単位は与えない ・ 3分の1以上の欠席（欠席理由は考慮しない）。 ・ 出席で代筆が明らかとなった場合、期末試験を受けなかった場合、試験で不正をした場合。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 授業で学んだことを卒業論文に取り上げる場合や、受講後にもっと勉強したいこと等があれば、遠慮なく連絡ください。電話:090-8412-1064、e-mail:tamae-ak@amber.plala.or.jpです。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|-------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習 I | 前期 | 水 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 齋藤 星耕 | 3年 | 5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 演習では、研究することを学ぶ。先行研究を読み解く力、研究計画を立てる力、研究を遂行する力、データを適切に解釈する力、科学的に議論できる力を養う。同時に、各人が具体的なテーマに協力して取り組みながら、自らの独自の研究課題に到達する。 | 三年次から始まる演習では研究する力を養います。研究とは、自らが新しい知識を生み出すということです。これは、「まだ分かっていないこと」を探り当てるところから始まります。現代でも、人類にはまだ分かっていないことだらけです。チームに分かれて課題に取り組みながら、研究の作法を学んでいきます。 |
| 到達目標 | 文献を読み解き、提示されているデータの意味を理解できる。文献の内容や、自分自身の研究成果をプレゼンテーション出来る。科学的な内容について討論することが出来る。適切な研究計画を立てることができる。計画に基づいて研究を実行できる。自ら取得したデータを分析でき、適切な結論を導ける。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びのヒント |
| | <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>2~16 生命科学、食品開発、再生可能エネルギーの社会実装の各課題に、校外研修先事業所の協力のもと、チームに分かれて取り組む： 校外研修先：1. 琉球大学分子生命科学研究施設 校外研修先：2. コルネとサンドのお店 Pippi / 宜野湾市観光振興協会 校外研修先：3. 一般社団法人沖縄県環境・エネルギー研究開発機構 「時間外学習の内容」：チームごとに課題に取り組む</p> <p>ゼミでは、輪番により、文献紹介、研究計画、研究発表を行う。 また、適宜、ゲスト講師を招いて特別講義を行う。</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。</p> |
| | <p>学びの手立て</p> <p>ゼミでは、文献紹介、チームでの課題の計画・進捗の報告を行う。チームごとの課題を進めるには、ゼミの時間外での取り組みが必要である。各人の積極的な貢献を期待する。やむを得ない欠席や遅刻の場合は、教員に直接、事前に連絡すること。また研修先での活動においても、遅刻・欠席の場合には先方の受け入れ担当者の方に事前に連絡をとり、失礼のないようにすること。</p> |
| 評価 | 出席状況、課題への取り組み、発表、レポートなどを総合的に評価する。 |

| | |
|-------|----------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 演習II, 演習III, 演習IV |
|-------|----------------------------------|

| | | | | |
|--------|------|------|------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習 I | 前期 | 月 4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 呉 錫畢 | 3年 | 研究室5508、メールでのアポを取ってくる こと。 | |

| | | |
|-------|--------------------------------------|-------------------|
| 学びの準備 | ねらい 討論の基本を身に付ける。 | メッセージ 悩む力を鍛える。 |
| | 到達目標 自分の意思を相手にきちんと伝えて討論ができるようにする。 | |

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 学びの準備 | 到達目標 自分の意思を相手にきちんと伝えて討論ができるようにする。 |
| | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目：学問とは 2週目：口頭発表の作法と技法 3週目：レジュメの作り方 4週目：調査及びボランティア対象地域を選定 5週目～7週目：対象地域について勉強会 8週目～11週目：グループで地域活性化について議論 12週目～15週目：議論しながら企画書を作成 16週目：総括 |
| | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など 小林・船曳編（1994）『知の技法』、東京大学出版会。 沖縄タイムス南部総局（2013）『十五の春』、沖縄タイムス社。 |
| | |

| | |
|-------|-------------------------|
| 学びの実践 | 学びの手立て 議論が成り立つようにする。 |
| | |

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 学びの実践 | 評価 演習参加への積極性、個人とグループでの議論内容・姿勢。 |
| | |

| | |
|-------|------------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 企画の点検とディベート準備・演習 II |
|-------|------------------------------------|

※ポリシーとの関連性 自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得させるための専門科目の提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|------|------|---------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習 I | 前期 | 水 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 小川 護 | 3年 | メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい (1) 経済地理学の調査・研究に必要な地域調査の考え方や手法の把握。(2) 調査によって得られたデータを用いて基礎的な地域分析手法を用いて空間的な特性の一端を明らかにする。(3) 夏休みを利用して、沖縄本島内の特定地域を選定して地域農業と環境問題をテーマとする地域調査を実施する予定である。 | メッセージ 演習 I はGISを含めた専門的調査方法、分析を中心とする積み上げ型専門科目です。休まないようにしてください。 |
| | 到達目標 地域に関する諸課題解決のための調査、分析を行うスキルを身につける。それらを基礎として、卒論執筆のための基礎づくりを行う。 | |

| | | | |
|-------|---|----------------------|----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 経済地理学の地域調査の目的と役割 | 配布プリント・テキストの確認 |
| | 2 | 調査の種類について | 配布プリント・テキストの確認 |
| | 3 | データの種類と資料の活用方法 | 配布プリント・テキストの確認 |
| | 4 | 仮説の構築と検証 | 配布プリント・テキストの確認 |
| | 5 | 調査票の設計と調査実施方法 | 配布プリント・テキストの確認 |
| | 6 | ヒアリング調査について | 配布プリント・テキストの確認 |
| | 7 | 調査データの集計方法の設計と実際(3回) | 配布プリント・テキストの確認 |
| | 8 | 基本統計量の説明と算出(3回) | 配布プリント・テキストの確認 |
| 9 | 夏休みの地域調査準備(3回) | 配布プリント・テキストの確認 | |
| 10 | 夏休みにおける地域調査(2泊3日) | 調査資料の整理と分析 | |
| 11 | まとめ | 報告会にむけての資料作成 | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |
| 16 | | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 野間晴雄他「ジオ・パルNEO —地理学・地域調査便利帖—」第2版、2014年、海青社、定価2625円 | | |
| | 学びの手立て 出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習 I での発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受ける事。 | | |
| | 評価 演習 I での出席状況、発表・発言などの参加度、課題提出等で総合的に判断する。 | | |

| | |
|-------|----------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 演習 II |
|-------|----------------------|

| | | | | |
|--------|-------|------|-----------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅰ | 前期 | 月4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 友知 政樹 | 3年 | メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 演習ⅠⅡ（3年次ゼミ）の目的は、琉球（沖縄）の自治・自己決定権（琉球独立）や基地問題とその解決に関連付けた社会調査・研究の全段階を経験的に学習することを通して、社会調査の理論と方法を体得することである。データを通して実社会と対峙し、問題発見および解決能力の涵養を目指して欲しい。 | メッセージ 琉球（沖縄）を良くしたいという熱意のある学生を求む！一緒に目から血が出るほど勉強しましょう！ |
| | 到達目標 社会調査の理論と方法を教科書や先行研究より事前に学習した上で、地域環境政策の立案・実施・評価するとの想定のもと、それに必要な社会調査を設計・実施し、収集したデータを分析し、報告書にまとめることである。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの準備 | 到達目標 社会調査の理論と方法を教科書や先行研究より事前に学習した上で、地域環境政策の立案・実施・評価するとの想定のもと、それに必要な社会調査を設計・実施し、収集したデータを分析し、報告書にまとめることである。 |
| | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ① 4月～5月 社会調査に関する事前学習 ② 6月～7月 政策ならびに調査テーマの設定 ③ 8月～9月 調査準備 ④ 10月 第1回目調査の実施と結果の分析 ⑤ 11月 政策の立案と実施 ⑥ 12月 第2回目調査の実施と結果の分析 ⑦ 1月～3月 総まとめと報告書作成 |
| | テキスト・参考文献・資料など 『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』 大谷信介(著), 後藤範章(著), 永野武(著), 木下栄二(著), 小松洋(著). ミネルヴァ書房(2005/02). |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など 『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』 大谷信介(著), 後藤範章(著), 永野武(著), 木下栄二(著), 小松洋(著). ミネルヴァ書房(2005/02). |
| | 学びの手立て 毎回出席すること。 |

| | |
|-------|---------------------------------|
| 学びの実践 | 学びの手立て 毎回出席すること。 |
| | 評価 ゼミへの貢献度や提出物などにより総合的に評価する。 |

| | |
|-------|---------------------------------|
| 学びの実践 | 評価 ゼミへの貢献度や提出物などにより総合的に評価する。 |
| | |

| | |
|-------|-----------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 演習Ⅱ（3年次ゼミ後期） |
|-------|-----------------------------|

| | | | | |
|--------|------------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習 I | 前期 | 月 4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 山川 (矢敷) 彩子 | 3年 | メール: a.yamakawa@okiu.ac.jp 研究室: 9号館505室、 実験室: 3号館505室 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 演習Iでは、サンゴ礁や海洋生物、海岸環境を対象に、専門書の購読、聞き取り調査、および現地調査等を実施する。 | メッセージ 演習 I は事前の予備登録で許可された学生のみ、登録可能とする。 |
| | 到達目標 ・サンゴ礁やサンゴ礁生物に関する基礎的な知識を身に付ける。 ・干潟調査、イノー調査、聞き取り調査等の野外調査の仕方を身につける。 ・生データをグラフにすること、科学レポートの書き方、パワーポイントプレゼンテーションを習得する。 ・卒業研究のテーマを決める。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの準備 | 到達目標 ・サンゴ礁やサンゴ礁生物に関する基礎的な知識を身に付ける。 ・干潟調査、イノー調査、聞き取り調査等の野外調査の仕方を身につける。 ・生データをグラフにすること、科学レポートの書き方、パワーポイントプレゼンテーションを習得する。 ・卒業研究のテーマを決める。 |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>演習I (前期) は主に以下の3つからなる。</p> <p>(1) サンゴ礁と海岸生物に関する講義と実習 サンゴ礁とはなにか、海岸にどのような生物が生息しているか調べ生物の役割や体の構造について野外実習と室内実験から学ぶ。実習は週末に集中で実施する。</p> <p>(2) レポート作成・発表 (1)の実習後、データを処理・分析し考察を加えレポートとしてまとめる。</p> <p>(3) 輪読 自然科学に関する専門書を読み込み、レジメを作成し、パワーポイントで発表する</p> <p>スケジュール (予定) は以下の通りである。天候等により変更の可能性はある。</p> <p>第1~2週 オリエンテーションなど 第3~5週 Coral Reef Studiesの実施 第6~8週 海岸実習およびレポート作成 第9~13週 専門書の輪読 第14~15週 4年次の卒研中間発表会の参加</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特に指定しない。適宜紹介する。</p> |

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。適宜紹介する。 |
|-------|-----------------------------------|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>学びの手立て</p> <p>山川ゼミは出席重視です。まずは毎回出席し、課題も提出しましょう。</p> <p>ゼミの内容を効果的に学習するために、山川が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講すること。</p> |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | <p>評価</p> <p>単位取得には、3分の2以上の出席、課題 (レポート、レジメ) の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。</p> <p>評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。</p> <p>欠席する場合には、事前に必ず連絡をすること。メールによる連絡を受け付ける。</p> <p>授業参加度30%、課題の取組姿勢、出来60%、プレゼンテーション10%とする。</p> |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習II、環境資源論 (山川ゼミ必修)、産業と環境 (山川ゼミ必修) 生物学I・II、自然科学概論I・II、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、など。</p> |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習 I | 前期 | 水 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 新垣 武 | 3年 | takeshi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 環境関連の調査を通じて、情報収集能力・分析能力・プレゼンテーション能力・報告書作成能力を高め、物事を幅広い視点から理解する能力も身につける。 | メッセージ 1. 環境問題に興味がある学生 2. 化学実験とか数値計算が嫌いでない学生 3. 将来は環境関連の知識や技術を活かした職業を目指している学生を歓迎します。 |
| | 到達目標 環境関連のテーマについての調査計画を作成して実施できるようになる。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの準備 | 到達目標 環境関連のテーマについての調査計画を作成して実施できるようになる。 |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>数名程度のグループ毎にテーマを選択して、それについての、調査を行い、発表を行う。 テーマは次の中から選定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水質汚濁と底質汚染 2. 大気汚染 3. 騒音問題 4. 太陽光発電 5. その他 <p>発表は3段階に分けて行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) テーマの設定とテーマの選定理由及びその内容（15-20分） 第2週目（前期）、第17週目（後期） 2) 調査の中間報告（20分程度） 第8週目（前期）、第23週目（後期） 3) 最終報告（30-40分） 最後の2週（前期及び後期） <p>発表は全員が行い、調査結果はレポートとしてまとめる。 前期の最初の週と後期の最後の週は個人面談を行う。</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。</p> |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。</p> |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | <p>学びの手立て</p> <p>身近な環境関連の問題に興味をもって考える習慣を身につけましょう。演習は講義と違って教師とのコミュニケーションが重要なので欠席は極力避けましょう。</p> |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>評価</p> <p>授業参加度、発表状況、レポートなどにもとづき評価する。</p> |
|-------|--|

| | |
|-------|---------------------------------|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習 II</p> |
|-------|---------------------------------|

| | | | | |
|--------|---------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習 I | 前期 | 水 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 根路銘 もえ子 | 3年 | nerome@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 本演習では、沖縄の主力産業である観光産業の現状を把握し、今後の発展について議論する。また、観光情報産業において活用されている地理情報システム (GIS) の基本について学習し、GISを利用した演習も行う。これらを通して、観光産業と情報産業の融合について考える。 | メッセージ ゼミでは調査・まとめ・報告・ディスカッションが重要です。自ら積極的に動き、ゼミ内でも活発に交流して下さい。ゼミでわからないことがあれば気軽に相談して下さい。 |
| | 到達目標 ・文書作成およびデータ分析の基本を修得する。 ・GISに関する基礎知識を身につける。 ・沖縄観光の問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 学習形態としては、沖縄の観光をテーマとするインターネットおよび現地調査を行い、情報の収集、収集データの分析、GIS演習、文献の講読を行う。 また、調査結果、分析結果、GIS演習内容、輪読それぞれにおいて、発表報告会を行う。 (1) データ収集・分析手法の学習 アンケート調査結果をExcelを用いて集計・分析する。 (2) GIS学習 GISの基本的用語や動向を学習する。 (3) 観光テーマに関する調査 グループ単位でテーマに関する調査および発表 |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは講義時に指定する。 参考文献は講義時に紹介する。 |
| | 学びの手立て 履修の心構え ・ゼミへしっかりと出席することで、GISへの理解が深まり、また沖縄観光の課題について明確にすることが可能になります。 学びを深めるために ・新聞記事を読むこと、ゼミ生同士のディスカッションが学びを深める助けになります。 |
| | 評価 平常点 (講義への取組、課題の内容、課題の提出) 50%、各課題の最終発表50%。 |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 (1) 関連科目: 「観光情報論」は観光情報について学習できます。「地理情報システム論I・II」はGISについて学習できます。 (2) 次のステージ: 前期「演習I」で学んだことを踏まえて、後期「演習II」へ活かして下さい。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習 I | 前期 | 水 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋 伊津子 | 3年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 受講者が主体的に学び、金融・経済に関して自らの意見を持ち、卒業論文のテーマ、方向性を設定することをねらいとする。 | メッセージ ゼミは学生が作りあげるものだと思います。主体的に、積極的に取り組んで下さい。 |
| | 到達目標 金融・経済に関してテーマを設定し、調査し、論文を作成できる。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週 ガイダンス 第2週～第6週 FP3級程度の金融知識を学ぶ。 第7週 各人で興味のあるテーマについて報告する。 第8週～第9週 グループで論文テーマを設定する。 第10週～第14週 設定したテーマに関する先行研究をまとめる。 第15週～第16週 グループでゼミ論文の前半部分を完成させる。後期の作業の方向性を決定し、計画を立てる。中間報告。 |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。参考文献・資料は適宜紹介する。 |
| | 学びの手立て ・授業の時間外にも必要に応じて指導します。 ・やむをえない事情で遅刻・欠席する場合は必ず事前に連絡すること。 |
| | 評価 ・平常点（50%）＋ 報告点（50%） |

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「演習II」、「演習III」、「演習IV」 |
|-------|--------------------------------------|

| | | | | |
|--------|-------|------|-------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習 I | 前期 | 月 4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 前泊 博盛 | 3年 | | |

| | | |
|-------|------|-------|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 到達目標 | |

| | |
|-------|------|
| 学びの準備 | 到達目標 |
| | |

| | |
|-------|---------------------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) |
| | テキスト・参考文献・資料など |
| | 学びの手立て |
| | 評価 |

| | |
|-------|----------------|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など |
| | 学びの手立て |
| | 評価 |
| | 次のステージ・関連科目 |

| | |
|-------|----------------|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など |
| | 学びの手立て |
| | 評価 |
| | 次のステージ・関連科目 |

| | |
|-------|----------------|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など |
| | 学びの手立て |
| | 評価 |
| | 次のステージ・関連科目 |

| | |
|-------|-------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
|-------|-------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習 I | 前期 | 月 4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 3年 | メールで問い合わせてください。 t.toguchi@ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>社会に出るための準備を主目的に、輪読から地域経済の抱える問題を解決する知識や各自の問題意識を明確にし、フィールドワークを通して実問題を考える。</p> | <p>今まで学習した座学を基に実社会の問題を解決する方法を学ぶことで、実社会に役立つ知識を蓄えましょう。</p> |

| |
|---|
| 到達目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 輪読を通して知識を蓄え、知的好奇心を持つ。 ・ 調査方法の学習とデータの扱いについて学ぶ。 ・ 調査結果をまとめ、発表を行う。 |

| | | | |
|-------|--------|---------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 授業計画について説明 | |
| | 2 | 輪読1 | 配布資料を参照 |
| | 3 | 輪読2 | |
| | 4 | 輪読3 | |
| | 5 | 輪読4 | |
| | 6 | 輪読5 | |
| | 7 | 輪読6 | |
| | 8 | 輪読7 | |
| | 9 | 輪読8 | |
| | 10 | 調査の説明1 | 配布資料を参照 |
| | 11 | 調査の説明2 | |
| | 12 | 調査の準備と調査票の作成1 | 配布資料を参照 |
| | 13 | 調査1 | |
| | 14 | 調査2 | |
| | 15 | 調査結果の考察1 | |
| | 16 | 調査結果の報告1 | |
| | 17 | 輪読9 | |
| | 18 | 輪読10 | |
| | 19 | 輪読11 | |
| | 20 | 輪読12 | |
| | 21 | 輪読13 | |
| | 22 | 輪読14 | |
| | 23 | 輪読15 | |
| | 24 | 調査の説明3 | 配布資料を参照 |
| | 25 | 調査の準備と調査票の作成2 | 配布資料を参照 |
| | 26 | 調査3 | |
| | 27 | 調査4 | |
| | 28 | 調査結果の考察 | |
| | 29 | 調査結果の発表2 | |
| 30 | 討論 | | |
| 31 | 総括 | | |

| | |
|-----------------------|---|
| 学 | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適時，資料を用意して配布します。 |
| び の 実 践 | <p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に輪読する本について図書館を利用することが望ましい。 |
| | <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠とレポート提出，発表内容で評価を行う。 |
| 学 び の 継 続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域経済学Ⅰ」や「地域経済学Ⅱ」の知識をフィールドワークを通して実証し，より専門的な分野を学習する。 |

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、演習（ゼミ）などの実体験できる科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|--------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習 I | 前期 | 水 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 砂川 かおり | 3年 | 研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@oki.u.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--------------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 環境政策論ゼミ入門として、沖縄と香港におけるエコビジネスの現状と課題について学ぶ。 | メッセージ ・何事にも積極的に取り組んで、楽しいゼミにしていこう。 |
| | 到達目標 環境政策論ゼミ入門として、沖縄と香港におけるエコビジネスの現状と課題について学ぶ。グループで、県内におけるヒアリングの実施、海外調査の計画策定・実施、報告書作成、発表ができるようになる。受講生のレベルを考慮しつつ、語学関係の資格も取得する。 | |

| | | | |
|-------|---|--|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス、成績・時間割確認、メール設定、学外ゼミ日程決定、インターンシップの説明等 | 銀のアンカーを読み、まとめる。 |
| | 2 | 香港の環境問題の現状について（ごみ問題、省エネビル、スマートシティー） | レポート（1）作成。香港ゼミ準備 |
| | 3 | 沖縄の環境取り組み（1） 廃棄物処理施設 巡検 | レポート（2）作成。香港ゼミ準備 |
| | 4 | 沖縄の環境取り組み（2） 壺川スクエアビル（DBJ Green Building認証取得） 巡検 | レポート（3）作成。香港ゼミ準備 |
| | 5 | 沖縄の環境取り組み（3） 浦添市内のスマートシティ開発について講話 | レポート（4）作成。香港ゼミ準備 |
| | 6 | 沖縄の環境取り組み（4） ラムサール登録湿地 漫湖・水鳥湿地センター 巡検 | レポート（5）作成。香港ゼミ準備 |
| | 7 | 沖縄の環境取り組み（5） 沖縄のエコビジネスの現状と課題 | レポート（6）作成。香港ゼミ準備 |
| | 8 | 香港におけるゼミ調査の進め方・調査準備の説明 グループ毎のテーマを決める | グループで事前調査。香港ゼミ準備 |
| 9 | 香港ゼミ事前準備 | 香港ゼミ準備 | |
| 10 | 香港ゼミ調査実施 | 香港ゼミ調査結果をまとめる | |
| 11 | グループ毎にPPT作成・添削 | グループ毎にPPT完成 | |
| 12 | グループ毎にPPT発表 | グループ毎に報告書作成 | |
| 13 | グループ毎に調査報告書作成・提出 | 報告書の内容を読み返してみる | |
| 14 | グループ毎に調査報告書添削・修正 | グループ毎に報告書修正 | |
| 15 | グループ毎に調査報告書完成・再提出 | 前期の学習内容振り返り | |
| 16 | キャリアセミナー（1）（予定） / 夏季休暇課題発表、まとめ・授業評価アンケート実施 | インターンシップ、課題をする。 | |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは、特に指定なし。 参考文献は、適宜紹介する。 | | |
| | 学びの手立て ・欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。 | | |
| | 評価 2/3以上の出席、調査への参加、課題等の提出を単位取得の最低条件とする。 評価の割合：授業参加度（15%）、レポート6つ（30%）、香港ゼミ調査PPT発表（20%）、調査報告書（35%） | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「演習III・IV」、「エネルギーと社会」、英語（TOEIC講座） |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深め、科学的な手法を用いて、実社会の課題に取り組む。

[/演習]

| | | | | |
|--------|-------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 後期 | 水2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 齋藤 星耕 | 3年 | 5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 演習では、研究することを学ぶ。先行研究を読み解く力、研究計画を立てる力、研究を遂行する力、データを適切に解釈する力、科学的に議論できる力を養う。同時に、各人が具体的なテーマに協力して取り組みながら、自らの独自の研究課題に到達する。 | 演習I（前期）に引き続き、研究する力を養います。チームに分かれて課題に取り組みながら、研究の作法を学んでいきます。後期の終わりにはこれまでの成果を論文をまとめ、卒業研究への道筋をつけていきます。 |

| |
|--|
| 到達目標 |
| 文献を読み解き、提示されているデータの意味を理解できる。 文献の内容や、自分自身の研究成果をプレゼンテーション出来る。科学的な内容について討論することが出来る。 適切な研究計画を立てることができる。計画に基づいて研究を実行できる。自ら取得したデータを分析でき、適切な結論を導ける。 |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント |
| | <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>1 オリエンテーション 2～16 生命科学、食品開発、再生可能エネルギーの社会実装の各課題に、校外研修先事業所の協力のもと、チームに分かれて取り組む： 校外研修先：1. 琉球大学分子生命科学研究施設 校外研修先：2. コルネとサンドのお店 Pippi / 宜野湾市観光振興協会 校外研修先：3. 一般社団法人沖縄県環境・エネルギー研究開発機構 「時間外学習の内容」：チームごとに課題に取り組む</p> <p>ゼミでは、輪番により、文献紹介、研究計画、研究発表を行う。 また、適宜、ゲスト講師を招いて特別講義を行う。</p> |

| |
|---|
| テキスト・参考文献・資料など |
| テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。 |

| |
|---|
| 学びの手立て |
| ゼミでは、文献紹介、チームでの課題の計画・進捗の報告を行う。チームごとの課題を進めるには、ゼミの時間外での取り組みが必要である。各人の積極的な貢献を期待する。やむを得ない欠席や遅刻の場合は、教員に直接、事前に連絡すること。また研修先での活動においても、遅刻・欠席の場合には先方の受け入れ担当者の方に事前に連絡をとり、失礼のないようにすること。 |

| |
|-----------------------------------|
| 評価 |
| 出席状況、課題への取り組み、発表、レポートなどを総合的に評価する。 |

| |
|------------------------------|
| 学びの継続 |
| 次のステージ・関連科目 演習Ⅱ, 演習Ⅲ, 演習Ⅳ |

| | | | | |
|--------|---------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 後期 | 水2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 根路銘 もえ子 | 3年 | nerome@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 本演習では、沖縄の主力産業である観光産業の現状を把握し、今後の発展について議論する。また、観光情報産業において活用されている地理情報システム（GIS）の基本について学習し、GISを利用した演習も行う。これらを通して、観光産業と情報産業の融合について考える。 | メッセージ ゼミでは調査・まとめ・報告・ディスカッションが重要です。自ら積極的に動き、ゼミ内でも活発に交流して下さい。ゼミでわからないことがあれば気軽に相談して下さい。 |
| | 到達目標 ・GISの基本操作を修得する。 ・沖縄観光の問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。 ・卒業論文を執筆するための基本的知識および技術を身につける。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 演習形態としては、沖縄の観光をテーマとするインターネットおよび現地調査を行い、情報の収集、収集データの分析、GIS演習、文献の講読を行う。 また、調査結果、分析結果、GIS演習内容、輪読それぞれにおいて、発表報告会を行う。 (1) GIS演習 ・地図データ：国土数値情報、基盤地図情報等 ・使用GIS：MANDARA ・演習内容：空間データの種類、空間データ構造、地図測地系と座標系、レイヤの構造、レイヤの編集、デジタル地図の表示と装飾、重ね合わせ分析法、ジオコーディング、GPSデータ取得とレイヤ構造 (2) 観光産業の現状把握 「観光要覧」や「観光白書」等の講読 (3) 観光テーマに関する調査 グループ単位でテーマに関する調査および発表 |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは講義時に指定する。 参考文献は講義時に紹介する。 |
| | 学びの手立て 履修の心構え ・ゼミへしっかりと出席することで、GISへの理解が深まり、また沖縄観光の課題について明確にすることが可能になります。 学びを深めるために ・新聞記事を読むこと、ゼミ生同士のディスカッションが学びを深める助けになります。 |
| | 評価 平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）50%、各課題の最終発表50%。 |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：「観光情報論」は観光情報について学習できます。「地理情報システム論Ⅰ・Ⅱ」はGISについて学習できます。 (2) 次のステージ：3年次ゼミで学んだことを踏まえて、卒業論文へ活かして下さい。 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|-----------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 後期 | 月4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 山川（矢敷） 彩子 | 3年 | メール：a.yamakawa@okuu.ac.jp 研究室：9号館505室、 実験室：3号館505室 | |

| | | |
|-------|---|---------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 演習Ⅱでは、サンゴ礁や海洋生物、沖縄の自然環境を対象にグループ研究等を実施し、実際に自分たちでデータをとることで理解を深める。 | 演習Ⅱは演習Ⅰ（山川ゼミ）を取得した学生のみ、登録可能とする。 |

| | |
|-------|---|
| 学びの準備 | 到達目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・干潟調査、イノー調査、聞き取り調査等の野外調査の仕方を身につける。 ・調査で得られた生データを整理しグラフや表にすること、科学レポートの書き方、パワーポイントプレゼンテーションを習得する。 ・自分が興味を持って取り組む卒業研究のテーマを決める。 |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>演習Ⅱ（後期）は主に以下の3つからなる。</p> <p>(1) 生物や自然環境に関するグループ研究 サンゴ礁、干潟、やんばる、河川、タイモ畑、湧水、海岸ゴミなど沖縄の自然環境やそこに生息する生物に関して、教員の指導の下、グループで調査研究をおこなう。</p> <p>(2) レポート作成・発表 (1)で得られたデータを処理・分析し考察を加えレポートとしてまとめる。基本的なグラフや表の作成はもちろん、レジメやパワーポイントを用いて発表をおこなう。</p> <p>(3) 卒業研究のテーマの決定と予備調査の実施 グループ研究実施後、自ら取り組む卒業研究のテーマを選定し、研究計画をたて、予備調査を実施する。春休みには、本調査に入れるようにする。</p> <p>スケジュール（予定）は以下の通りである。</p> <p>第1週 オリエンテーション 第2～8週 グループ研究の実施、レジメ報告 第9～11週 グループ研究のレポート作成、プレゼンテーション 第12～16週 卒業研究のテーマ選定、研究計画発表、予備調査の実施</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特に指定しない。適宜紹介する。</p> |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | <p>学びの手立て</p> <p>グループ研究や卒業研究では、生きもの相手の調査の場合、とにかく、外へ出ること。億劫がらずに、ダメモトで行動を起こす。そうすると、いずれ結果はついてきます。</p> <p>ゼミの内容を効果的に学習するために、山川が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講すること。</p> |
| | <p>評価</p> <p>単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。</p> <p>評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。</p> <p>欠席する場合には、事前に必ず連絡をすること。メールによる連絡を受け付ける。</p> <p>授業参加度30%、課題の取組姿勢、出来60%、プレゼンテーション10%とする。</p> |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習Ⅲ、Ⅳ、環境資源論（山川ゼミ必修）、産業と環境（山川ゼミ必修）生物学Ⅰ・Ⅱ、自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、など。</p> |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性 自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得させるための専門科目の提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|------|------|-----------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 後期 | 水2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 小川 護 | 3年 | メールでお願いします。ogawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい (1)経済地理学の調査・研究に必要な地域調査の考え方や手法の把握。(2)調査によって得られたデータを用いて基礎的な地域分析手法を用いて空間的な特性の一端を明らかにする。(3)夏休みを利用して、沖縄本島内の特定地域を選定して地域農業と環境問題をテーマとする地域調査を実施する予定である。演習Ⅱでは、得られたデータをもとに、分析をおこない、最終的に報告書にまとめる。 | メッセージ 演習ⅡではGISを含めた専門的調査方法、分析を中心とする積み上げ型専門科目です。休まないようにしてください。 |
| | 到達目標 地域に関する諸課題解決のための調査、分析を行うスキルを身につける。それらを基礎として、卒論執筆のための基礎づくりを行う。 | |

| | | | |
|-------|--|----------------|----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 夏休みの地域調査報告会 | 調査結果の整理 |
| | 2 | 空間データの種類と取得 | 配布プリント、テキストの復習 |
| | 3 | 空間データ構造 | 配布プリント、テキストの復習 |
| | 4 | 地図測地系と座標系 | 配布プリント、テキストの復習 |
| | 5 | レイヤーの編集 | 配布プリント、テキストの復習 |
| | 6 | レイヤーの構造 | 配布プリント、テキストの復習 |
| | 7 | デジタル地図の表示と装飾① | 配布プリント、テキストの復習 |
| | 8 | デジタル地図の表示と装飾② | 配布プリント、テキストの復習 |
| 9 | バッファーとティポリゴン | 配布プリント、テキストの復習 | |
| 10 | 重ね合わせ分析法① | 配布プリント、テキストの復習 | |
| 11 | 重ね合わせ分析法② | 配布プリント、テキストの復習 | |
| 12 | 通路ネットワーク分析法① | 配布プリント、テキストの復習 | |
| 13 | 通路ネットワーク分析法② | 配布プリント、テキストの復習 | |
| 14 | 三次元表現について、GPSデータ取得とレイヤー作成 | 配布プリント、テキストの復習 | |
| 15 | 経済地理学論文購読(5回) | 発表論文、レジュメの準備 | |
| 16 | 報告書執筆と配布 | 報告書分担執筆 | |
| | テキスト・参考文献・資料など 野間晴雄他「ジオ・パルNEO —地理学・地域調査便利帖—」第2版、2014年、海青社、定価2625円 出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習Ⅱでの発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受けること。 | | |
| | 学びの手立て 出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習Ⅰでの発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受けること。 | | |
| | 評価 演習Ⅱでの出席状況、発表・発言などの参加度、課題提出等で総合的に判断する。 | | |

| | |
|-------|------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 演習Ⅲ、演習Ⅳ |
|-------|------------------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 後期 | 月4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 3年 | t. toguchi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 社会に出るための準備を主目的に、地域経済の抱える問題を自ら解決する方法を獲得し、フィールドワークを通して実証する。 | メッセージ 今までの学習を基に自ら調査を行い実証分析を行うことで、実社会の問題解決を熟考する。 |
| | 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習から自ら課題を持ち、課題解決の方法を学習する。 課題について調査を行い、課題解決の方法を計量分析と通して提示する。 調査結果をまとめ、次年度の研究課題を模索する。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 社会に出るための準備を主目的に、地域経済の抱える問題を自ら解決する方法を獲得し、フィールドワークを通して実証する。 | メッセージ 今までの学習を基に自ら調査を行い実証分析を行うことで、実社会の問題解決を熟考する。 |
| | 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習から自ら課題を持ち、課題解決の方法を学習する。 課題について調査を行い、課題解決の方法を計量分析と通して提示する。 調査結果をまとめ、次年度の研究課題を模索する。 | |

| | | | |
|-------|----------------|------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 授業計画について説明 | 配布資料を参照 |
| | 2 | 調査計画1 | 配布資料を参照 |
| | 3 | 調査計画2 | |
| | 4 | 調査に向けた参考資料のサーベイ1 | |
| | 5 | 調査に向けた参考資料のサーベイ2 | |
| | 6 | 参考資料の輪読1 | 配布資料を参照 |
| | 7 | 参考資料の輪読2 | |
| | 8 | 参考資料の輪読3 | |
| | 9 | 参考資料の輪読4 | |
| | 10 | 調査1 | 配布資料を参照 |
| | 11 | 調査2 | |
| | 12 | 調査結果の考察 | |
| | 13 | 企業研究1 | 配布資料を参照 |
| | 14 | 企業研究2 | |
| | 15 | 研究課題の作成 | |
| 16 | 総括 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など <ul style="list-style-type: none"> 適時、資料を用意して配布します。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> 自身の課題に関連する本や資料について図書館を利用することが望ましい。 卒業論文に向けて、自らの課題や分析方法について指導教員に報告を行う。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 評価 <ul style="list-style-type: none"> 出欠とレポート提出、発表、卒業論文で評価を行う。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 <ul style="list-style-type: none"> 自ら調査を通じて問題を実証し、卒業論文として結果を提示する。実社会でその経験を活かす。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|-------|------|-------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 後期 | 月 4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 前泊 博盛 | 3年 | | |

| | | |
|-------|------|-------|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 到達目標 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの準備 | |
|-------|--|

| | |
|-------|---------------------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) |
| | テキスト・参考文献・資料など |
| | 学びの手立て |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | |
|-------|--|

| | |
|-------|----|
| 学びの実践 | 評価 |
|-------|----|

| | |
|-------|-------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
|-------|-------------|

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、演習（ゼミ）などの実体験できる科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|--------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 後期 | 水 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 砂川 かおり | 3年 | 研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--------------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい エコプロ2018に参加し、県内外の団体の環境ビジネス・環境取り組み等への理解を深める。 | メッセージ ・何事にも積極的に取り組んで、楽しいゼミにしていこう。 |
| | 到達目標 エコプロ2018にて調査を実施し、結果をまとめ、発表できるようにする。 卒論発表会へ参加し、卒論作成について理解を深める。 キャリアセミナーを通して、就活に対する意識も高めていく。 また、受講生のレベルを考慮しつつ、語学関係の資格も取得する。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの準備 | 到達目標 エコプロ2018にて調査を実施し、結果をまとめ、発表できるようにする。 卒論発表会へ参加し、卒論作成について理解を深める。 キャリアセミナーを通して、就活に対する意識も高めていく。 また、受講生のレベルを考慮しつつ、語学関係の資格も取得する。 |
|-------|--|

| | | |
|-------|---------------------------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | |
| | 回 | テーマ |
| | 1 | ガイダンス、成績・時間割確認、夏季休暇中の活動報告、夏季休暇中課題の提出など |
| | 2 | エコプロ2018事前準備（1）エコプロ2018の説明、参加登録、旅行手配。後期の目標・計画提出。 |
| | 3 | キャリアセミナー（1） |
| | 4 | エコプロ2018事前準備（2）参加登録、名刺作成、調査報告の作成方法説明 |
| | 5 | エコプロ2018事前調査（1） |
| | 6 | エコプロ2018事前調査（2） |
| | 7 | エコプロ2018事前準備（3） |
| | 8 | エコプロダクツ2018 参加・調査（12/6～8） |
| | 9 | エコプロ2018 調査結果 レポート作成・提出 |
| | 10 | エコプロ2018 調査結果 レポート添削・再提出、卒論発表会参加（3限目）、ゼミ懇親会 |
| | 11 | エコプロ2018 PPT原稿作成・提出 |
| | 12 | エコプロ2018 PPT添削・再提出 |
| | 13 | エコプロ2018 PPT発表(1) |
| | 14 | エコプロ2018 PPT発表(2) |
| | 15 | 2018年度 卒論ポスターセッション 見学（1月25日予定） |
| 16 | まとめ、授業評価アンケート、キャリアセミナー（2） | |
| | | 時間外学習の内容 |
| | | 後期の予定を考える |
| | | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | | 就活の計画を考える。 |
| | | 名刺を完成させる。 |
| | | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | | 学外ゼミの準備 |
| | | 収集した資料の整理 |
| | | 引用方法の再確認 |
| | | PPTの原稿作成 |
| | | PPTの引用方法の再確認 |
| | | 発表練習 |
| | | 発表練習 |
| | | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | | 卒論テーマ案について考える。 |
| | | 春季休暇中の計画を立て、実行。 |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など テキスト：指定なし。適宜、資料を配布する。 参考文献：①砂川ゼミの卒論集、②花井等・若松篤『論文の書き方 マニュアル』有斐閣アルマ、2011年、③その他、適宜紹介する。 |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びの手立て ・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。 ・自己管理をしっかりして、就活などで欠席する場合には、個別に指導を受けること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 評価 2/3以上の出席が必要です。 その上で、評価の割合は、エコプロ2018参加報告書（40%）・発表（30%）、授業参加度（30%）とします。 |
|-------|--|

| | |
|-------|------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「演習Ⅲ・Ⅳ」 |
|-------|------------------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 後期 | 水2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋 伊津子 | 3年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 受講者が主体的に学び、金融・経済に関して自らの意見を持ち、卒業論文のテーマ、方向性を設定することをねらいとする。 | メッセージ ゼミは学生が作りあげるものだと思います。主体的に、積極的に取り組んで下さい。 |
| | 到達目標 金融・経済に関してテーマを設定し、調査し、論文を作成できる。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週～第6週 ヒアリング調査の準備及び実施。 第8週 ヒアリング調査の結果報告 第9週～第15週 ゼミ論文作成（ヒアリング調査のまとめ、データ分析） 第16週 論文完成、最終報告 |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。参考文献・資料は適宜紹介する。 |
| | 学びの手立て ・授業の時間外にも必要に応じて指導します。 ・やむをえない事情で遅刻・欠席する場合は必ず事前に連絡すること。 |
| | 評価 ・平常点（50%）＋ 報告点（50%） |

| | |
|-------|----------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」 |
|-------|----------------------------------|

| | | | | |
|--------|-------|------|-----------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 後期 | 月4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 友知 政樹 | 3年 | メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 演習ⅠⅡ（3年次ゼミ）の目的は、琉球（沖縄）の自治・自己決定権（琉球独立）や基地問題とその解決に関連付けた社会調査・研究の全段階を経験的に学習することを通して、社会調査の理論と方法を体得することである。データを通して実社会と対峙し、問題発見および解決能力の涵養を目指して欲しい。 | メッセージ 琉球（沖縄）を良くしたいという熱意のある学生を求む！一緒に目から血が出るほど勉強しましょう！ |
| | 到達目標 社会調査の理論と方法を教科書や先行研究より事前に学習した上で、地域環境政策の立案・実施・評価するとの想定のもと、それに必要な社会調査を設計・実施し、収集したデータを分析し、報告書にまとめることである。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの準備 | 到達目標 社会調査の理論と方法を教科書や先行研究より事前に学習した上で、地域環境政策の立案・実施・評価するとの想定のもと、それに必要な社会調査を設計・実施し、収集したデータを分析し、報告書にまとめることである。 |
| | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ① 4月～5月 社会調査に関する事前学習 ② 6月～7月 政策ならびに調査テーマの設定 ③ 8月～9月 調査準備 ④ 10月 第1回目調査の実施と結果の分析 ⑤ 11月 政策の立案と実施 ⑥ 12月 第2回目調査の実施と結果の分析 ⑦ 1月～3月 総まとめと報告書作成 |
| | テキスト・参考文献・資料など 『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』 大谷信介(著), 後藤範章(著), 永野武(著), 木下栄二(著), 小松洋(著). ミネルヴァ書房(2005/02). |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など 『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』 大谷信介(著), 後藤範章(著), 永野武(著), 木下栄二(著), 小松洋(著). ミネルヴァ書房(2005/02). |
| | 学びの手立て 毎回出席すること。 |

| | |
|-------|---------------------------------|
| 学びの実践 | 学びの手立て 毎回出席すること。 |
| | 評価 ゼミへの貢献度や提出物などにより総合的に評価する。 |

| | |
|-------|----------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 演習ⅢⅣ（4年次ゼミ） |
| | |

| | | | | |
|--------|------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 後期 | 水 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 新垣 武 | 3年 | takeshi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 環境関連の調査を通じて、情報収集能力・分析能力・プレゼンテーション能力・報告書作成能力を高め、物事を幅広い視点から理解する能力も身につける。 | メッセージ 演習Ⅰで学んだ経験を生かして、継続して調査研究の手法などを学びましょう。 |
| | 到達目標 環境関連のテーマについての調査計画を作成して実施できるようになる。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの準備 | 到達目標 環境関連のテーマについての調査計画を作成して実施できるようになる。 |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>数名程度のグループ毎にテーマを選択して、それについての、調査を行い、発表を行う。 演習Ⅰとは異なったテーマを次の中から選定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水質汚濁と底質汚染 2. 大気汚染 3. 騒音問題 4. 太陽光発電 5. その他 <p>発表は3段階に分けて行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) テーマの設定とテーマの選定理由及びその内容（15-20分） 第2週目（前期）、第17週目（後期） 2) 調査の中間報告（20分程度） 第8週目（前期）、第23週目（後期） 3) 最終報告（30-40分） 最後の2週（前期及び後期） <p>発表は全員が行い、調査結果はレポートとしてまとめる。 前期の最初の週と後期の最後の週は個人面談を行う。</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。</p> |
| | <p>学びの手立て</p> <p>身近な環境関連の問題に興味をもって考える習慣を身につけましょう。演習は講義と違って教師とのコミュニケーションが重要なので欠席は極力避けましょう。</p> |
| | <p>評価</p> <p>授業参加度、発表状況、レポートなどにもとづき評価する。</p> |

| | |
|-------|--------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 演習Ⅲ |
|-------|--------------------|

| | | | | |
|--------|------|------|-------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 後期 | 月4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 呉 錫畢 | 3年 | 研究室5508、メールでアポをとって来ること。 | |

| | | |
|-------|------------------------------------|---------------------|
| 学びの準備 | ねらい 演習Ⅰで鍛えた力を発揮しきちんとしたディベートを行う。 | メッセージ 口で自分を表現する。 |
| | 到達目標 社会でも自分の意思を論理的に説明できるようにする。 | |

| | | |
|-------|------------------------------------|---------------------|
| 学びの準備 | ねらい 演習Ⅰで鍛えた力を発揮しきちんとしたディベートを行う。 | メッセージ 口で自分を表現する。 |
| | 到達目標 社会でも自分の意思を論理的に説明できるようにする。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目～3週目：調査やボランティア活動の報告と討論 4週目～6週目：グループ別のプレゼンテーション 7週目～10週目：対象離島の地域活性化報告書作成 11週目～13週目：テーマ別のグループディスカッション 14週目～15週目：社会の時事に関するテーマで討論の成果を検証 16週目：総括 |
| | テキスト・参考文献・資料など 小林・船曳編（1994）『知の技法』、東京大学出版会。 |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など 小林・船曳編（1994）『知の技法』、東京大学出版会。 |
| | 学びの手立て テレビ討論を真似する。 |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など 小林・船曳編（1994）『知の技法』、東京大学出版会。 |
| | 学びの手立て テレビ討論を真似する。 |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など 小林・船曳編（1994）『知の技法』、東京大学出版会。 |
| | 学びの手立て テレビ討論を真似する。 |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 口頭の表現で芽生えた問題意識を書く力へ継承する・演習Ⅲ |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 通年 | 月3 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 4年 | t. toguchi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 社会に出るための準備を主目的に、地域経済の抱える問題を自ら解決する方法を獲得し、フィールドワークを通して実証する。 | メッセージ 今までの学習を基に自ら調査を行い実証分析を行うことで、実社会の問題解決を模索する。 |
| | 到達目標 ・これまでの学習から自ら課題を持ち、課題解決の方法を学習する。 ・課題について調査を行い、課題解決の方法を計量分析と通して提示する。 ・調査結果をまとめ、発表を行う。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 社会に出るための準備を主目的に、地域経済の抱える問題を自ら解決する方法を獲得し、フィールドワークを通して実証する。 | メッセージ 今までの学習を基に自ら調査を行い実証分析を行うことで、実社会の問題解決を模索する。 |
| | 到達目標 ・これまでの学習から自ら課題を持ち、課題解決の方法を学習する。 ・課題について調査を行い、課題解決の方法を計量分析と通して提示する。 ・調査結果をまとめ、発表を行う。 | |

| | | | |
|-------|----------|---------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 授業計画について説明 | 配布資料を参照 |
| | 2 | 卒業論文について説明 | |
| | 3 | 卒業論文の課題発表 | |
| | 4 | 卒業論文の課題発表 | |
| | 5 | 卒業論文の課題発表 | |
| | 6 | 卒業論文の課題発表 | |
| | 7 | 課題に対する文献要約とその発表 | 配布資料を参照 |
| | 8 | 課題に対する文献要約とその発表 | 配布資料を参照 |
| | 9 | 課題に対する文献要約とその発表 | 配布資料を参照 |
| | 10 | 課題に対する文献要約とその発表 | 配布資料を参照 |
| | 11 | 各課題の分析方法の発表と調査形画の発表 | |
| | 12 | 各課題の分析方法の発表と調査形画の発表 | |
| | 13 | 各課題の分析方法の発表と調査形画の発表 | |
| | 14 | 各課題の分析方法の発表と調査形画の発表 | |
| | 15 | 総括 | |
| | 16 | 各自の調査結果の報告 | |
| | 17 | 各自の調査結果の報告 | |
| | 18 | 各自の調査結果の報告 | |
| | 19 | 各自の調査結果の報告 | |
| | 20 | 各自の分析結果の検討 | 配布資料を参照 |
| | 21 | 各自の分析結果の検討 | 配布資料を参照 |
| | 22 | 各自の分析結果の検討 | 配布資料を参照 |
| | 23 | 補足調査 | 配布資料を参照 |
| | 24 | 論文執筆1 | |
| | 25 | 論文執筆2 | |
| | 26 | 発表資料の作成1 | |
| | 27 | 発表資料の作成2 | |
| | 28 | 発表練習 | |
| 29 | 卒業論文の発表 | | |
| 30 | 卒業論文集の発行 | | |
| 31 | | | |

| | |
|-----------------------|--|
| 学 | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適時，資料を用意して配布します。 |
| び の 実 践 | <p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の課題に関連する本や資料について図書館を利用することが望ましい。 ・卒業論文に向けて，自らの課題や分析方法について指導教員に報告を行う。 |
| | <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠とレポート提出，発表，卒業論文で評価を行う。 |
| 学 び の 継 続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら調査を通じて問題を実証し，卒業論文として結果を提示する。実社会でその経験を活かす。 |

※ポリシーとの関連性 自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得させるための専門科目の提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|------|------|---------------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 通年 | 水1 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 小川 護 | 4年 | 問い合わせはメールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 演習Ⅰで学んだ経済地理学の調査・研究に必要な地域調査の考え方や手法の把握を基礎として、自らテーマを設定し、先行研究の調査、文献調査、フィールドワーク、調査で得られた資料の分析を行い最終的に卒業論文にまとめる。 | メッセージ 演習ⅡはGISを含めた専門的調査方法・分析を基礎に、卒業論文作成のための積み上げ型専門科目です。卒論提出(1月末日)を目安に各自で卒論の調査、執筆スケジュールをしっかりと立て、計画的に進めていってください。 |
| | 到達目標 演習Ⅰで学んだ地域に関する諸課題解決のための調査、分析などのスキルを基礎として、自らテーマ設定、調査、分析を行い、最終的に卒業論文にまとめる。 | |

| | | | |
|-------|--|-----------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 演習Ⅱでおこなう内容は以下の通りである。 | |
| | 2 | 卒業論文について説明 | |
| | 3 | 卒業論文のテーマ発表 | |
| | 4 | 先行研究に関する調査・発表 | |
| | 5 | 各テーマの分析方法と調査計画についての発表 | |
| | 6 | 各自の調査結果の報告 | |
| | 7 | 各自の分析結果の検討 | |
| | 8 | 補足調査 | |
| 9 | 論文執筆 | | |
| 10 | ポスターセッションのための発表資料の作成 | | |
| 11 | 論文提出および論文集の作成と発行 | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |
| 16 | | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 野間晴雄他「ジオ・パルNEO —地理学・地域調査便利帖—」第2版、2016年、海青社、定価2700円 | | |
| | 学びの手立て 出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習Ⅱでの発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受ける事。卒論のための調査および執筆スケジュールをしっかりと立てること。 | | |
| | 評価 演習Ⅱでの出席状況、発表・発言などの参加度、提出された卒論内容で総合的に判断する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 経済地理Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ、沖縄の地理は卒論をまとめるにあたって関係する科目なので、できる限り受講してほしい。 社会に出て、ゼミで習得した思考力、計画性、分析力等を発揮できるようにがんばって欲しい。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|------|------|----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 通年 | 木3 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 呉 錫畢 | 4年 | メールで簡略に書いて、研究室に来ること。 | |

| | | |
|-------|---|----------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 演習Ⅰで習得した知識に基づいて、演習Ⅱでは、実際に足を運んで生のデータによって学問を表現する、つまり、文章を持って知（卒業論文）を表現する。 | メッセージ 学問と社会との関係を理解すること。 |
| | 到達目標 地域社会で自分のできることを理解し、自我発展につなげる。 | |

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 学びの準備 | 到達目標 地域社会で自分のできることを理解し、自我発展につなげる。 |
|-------|--------------------------------------|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目：卒業論文とは 2週目：卒業論文の作法と技法 3週目：環境・経済調査の方法1 4週目：環境・経済調査の方法2 5週目：参考資料を利用する 6週目：沖縄環境問題の課題の調査 7週目：環境と地域発展について論ずる1 8週目：環境と地域発展について論ずる2 9週目：調査の報告と討論 10週目～15週目：調査の報告と討論 16週目：期末テスト（共同討論会） 17週目～21週目：夏休み中の調査をグループ別に発表と討論 22週目～25週目：討論結果のグループ別資料集作成及び検討 26週目～29週目：卒論の報告 30～31週目：卒論の討論及び校正 32週目：卒論完成し発表 |
| | テキスト・参考文献・資料など ①小林・船曳編（1994）、『知の技法』、東京大学出版会。 ①植田和弘（1998）、『環境経済学への招待』、丸善ライブラリー。 ②植田和弘監修（1994）、地球環境キーワード（環境経済学で読み解く）、有斐閣双書。 |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など ①小林・船曳編（1994）、『知の技法』、東京大学出版会。 ①植田和弘（1998）、『環境経済学への招待』、丸善ライブラリー。 ②植田和弘監修（1994）、地球環境キーワード（環境経済学で読み解く）、有斐閣双書。 |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びの手立て 卒論の中間報告を行い、自分の出張を討論を通してロジックな思考能力を高める。 |
|-------|---|

| | |
|-------|----------------|
| 学びの実践 | 評価 発表や討論を参照 |
|-------|----------------|

| | |
|-------|----------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 社会的責任を自覚する。 |
|-------|----------------------------|

※ポリシーとの関連性 沖縄観光の問題点を明確にしまとめることにより、沖縄の地域経済の将来を展望する力を身につけます。

[/演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 通年 | 水1 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 根路銘 もえ子 | 4年 | nerome@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 本演習では、演習Ⅰで各自が設定した観光情報およびGIS利用に関するテーマについて、詳細な調査や実装を行い、調査・実装結果に考察を加え、卒業論文をまとめる。演習の時間は、各自の進捗状況を報告してもらい、調査方法や調査内容について、ゼミ生同士で意見交換や議論する時間とする。 | ゼミでは調査・まとめ・報告・ディスカッションが重要です。自ら積極的に動き、ゼミ内でも活発に交流して下さい。ゼミでわからないことがあれば気軽に相談して下さい。 |

| | |
|-------|--|
| 学びの準備 | 到達目標 |
| | ・自らが設定したテーマに関して、調査・分析・まとめ・問題解決の提案ができる。 |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント |
| | <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) テーマに関する情報収集 (2) 現地調査 (3) 研究の進捗状況発表 (4) 卒業論文のまとめ |

| | |
|-------|----------------------------------|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など |
| | テキストは講義時に指定する。 参考文献は講義時に紹介する。 |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びの手立て |
| | <p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後卒業して社会の一員になるという意識を高く持ち、自ら問題を見つけ解決することができるよう頑張ります。 <p>学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を読むこと、ゼミ生同士のディスカッションが学びを深める助けになります。 |

| | |
|-------|---------------------------|
| 学びの実践 | 評価 |
| | 平常点（ゼミ中の取組）20%、卒業論文報告80%。 |

| | |
|-------|-------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
| | 大学で学んだ事を活かして、社会の一員として活躍して下さい。 |

| | | | | |
|--------|------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 通年 | 木2 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 新垣 武 | 4年 | takeshi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 環境関連の調査を通じて、情報収集能力・分析能力・プレゼンテーション能力・報告書作成能力を高め、物事を幅広い視点から理解する能力も身につける。 | メッセージ 演習Ⅰで学んだ事をさらに発展させましょう。 |
| | 到達目標 環境関連のテーマについての調査計画を作成して実施できるようになる。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの準備 | 到達目標 環境関連のテーマについての調査計画を作成して実施できるようになる。 |
| | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>各自がテーマを選択して、それについての、調査を行い、発表を行う。また、最終的にレポートを作成する。 テーマは次の中から選定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水質汚濁と底質汚染 2. 大気汚染 3. 騒音問題 4. 太陽光発電 5. その他 |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。</p> |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。</p> |
| | <p>学びの手立て</p> <p>身近な環境関連の問題に興味をもって考える習慣を身につけましょう。演習は講義よりも教師とのコミュニケーションが重要なので欠席は極力避けましょう。</p> |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>評価</p> <p>授業参加度、発表状況、レポートなどにもとづき評価する。</p> |
|-------|--|

| | |
|-------|-------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
|-------|-------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 通年 | 金 1 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋 伊津子 | 4年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--------------------------------|-----------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 演習Ⅰで学んだ知識を基に卒業論文を完成させる。 | メッセージ 大学4年間の総まとめとして卒業論文を作成します。 |
| | 到達目標 卒業論文を完成させる。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前期は卒業論文のテーマ決定、中間報告を行う。後期は卒業論文を完成させ、最終報告を行う。 |
| | テキスト・参考文献・資料など 適宜指示する。 |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びの手立て 時間外にも指導が必要となりますので、授業の時間が延長することもあります。 |
| | 評価 出席・宿題・レポート・卒業論文に基づいて総合的に評価する。 |

| | |
|-------|--------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 演習Ⅰ |
|-------|--------------------|

| | | | | |
|--------|-------|------|-----------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 通年 | 木3 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 友知 政樹 | 4年 | メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 3年次の演習Ⅰで行った予備調査を踏まえ、地域環境政策に関する調査研究を行う。調査研究はゼミ生各自が能動的かつ自由に行い、成果を卒業論文としてまとめ、提出する。 | メッセージ 琉球（沖縄）を良くしたいという熱意のある学生を求む！一緒に目から血が出るほど勉強しましょう！ |
| | 到達目標 卒業論文をまとめること。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前期：調査研究の進捗状況に応じ、発表・討論・情報交換を行う。 後期：卒業論文執筆および最終発表を行う。 |
| | テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて紹介する。 |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びの手立て 毎回出席すること。 |
| | 評価 ゼミでの取り組み（能動的に参加しているか）と卒業論文とを合わせて評価する。 |

| | |
|-------|------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 大学院。社会。 |
|-------|------------------------|

| | | | | |
|--------|-----------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 通年 | 月3 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 山川（矢敷） 彩子 | 4年 | メール：a.yamakawa@okiu.ac.jp 研究室：9号館505室、実験室：3号館505室 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 演習では、沖縄の自然環境や生物、それらの保全に関して、卒業研究の実施、卒業論文の作成をおこなう。 | メッセージ 演習Ⅰ（山川ゼミ）を登録した学生のみ、Web登録を許可する。 |
| | 到達目標 ・卒業研究を実施し、自分でとったオリジナルなデータを元に、結果考察を実施する。 ・ゼミ内メンバーの卒業研究の野外調査に積極的に参加する。 ・卒業論文を所定の様式にそって、作成する。 ・ポスターを作成し、卒業研究発表会で発表する。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの準備 | 到達目標 ・卒業研究を実施し、自分でとったオリジナルなデータを元に、結果考察を実施する。 ・ゼミ内メンバーの卒業研究の野外調査に積極的に参加する。 ・卒業論文を所定の様式にそって、作成する。 ・ポスターを作成し、卒業研究発表会で発表する。 |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>演習は主に以下の2つからなる。</p> <p>(1) 卒業研究 卒業研究の内容は自由であるが、できれば沖縄の自然環境や生物およびそれらに関するを中心におこなうことが望ましい。</p> <p><過去の卒業研究の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の海の危険生物に関する意識調査 ・沖縄本島におけるウミガメの産卵場所に関する聞き取り調査 ・泡瀬干潟におけるホソバウミジグサの観察 ・宇座海岸におけるイノエの生物の動向調査 ・金城ダムにおける外来魚ジリテラピアの成長と産卵期推定 ・佐敷干潟に生息するミナミコメツキガニの個体群動態 ・泡瀬干潟の利用形態に関する聞き取り調査 <p>(2) 輪読 知識・教養の向上を目的に、自然科学に関する専門書を読み込み、レジメを作成し、パワーポイントで発表する。</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特に指定しない。 適宜紹介する。</p> |

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 適宜紹介する。 |
|-------|---------------------------------------|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | <p>学びの手立て</p> <p>生きもの相手の調査の場合、とにかく、外へ出ること。億劫がらずに、ダメモトで行動を起こす。そうすると、いずれ結果はついてきます。</p> <p>ゼミの内容を効果的に学習するために、山川が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講すること。</p> |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | <p>評価</p> <p>単位取得には、3分の2以上の出席、定期的な卒研報告（レジメ）の提出、中間発表の実施、輪読もしくは論文発表が必須である。就職活動による公欠は半期2回までである。 欠席する場合には、事前に必ず連絡すること。メールによる連絡を受け付ける。 評価は平常点（ゼミにおける参加姿勢）20%、卒業研究への取り組み姿勢35%、卒業論文の出来35%、ポスター発表会の取組10%などを総合し実施する。</p> |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>環境資源論（山川ゼミ必修）、産業と環境（山川ゼミ必修）生物学Ⅰ・Ⅱ、自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、など。</p> |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、実体験できる科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|-------|------|------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 通年 | 木3 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 上江洲 薫 | 4年 | 研究室5-632 kuezu@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 本演習では、演習Iで取得した社会調査の手法などに基に、各自が設定したテーマに沿って現地での詳細な調査および考察を行い、その内容を卒業論文にまとめる。この過程により、情報収集・分析・プレゼンテーション・企画力の能力をより一層高め、一般社会で適応できる能力を身につける。 | 本演習は、取り組み内容が多く、日程的に忙しく、内容的にも厳しいが、丁寧に指導していくため、前向きに取り組んで欲しい。また、目の前にある課題を少しでも解決できる人材になって欲しい。 |
| 到達目標 | ①卒業論文の作成にあたり、聞き取り調査や調査票調査、簡易な自然調査、店舗・土地利用調査などを実施し、その一次データの分析・考察ができる。②卒論の仮提出は年末までに行い、指摘されたことを修正し卒論を完成することができる。 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|------------------------|-----------------------|------------------|-------|------------------------|--------|-------|---------------------|------------------|-------|-------------------------|--------------|--------|------------|--------|---------|----------------|-----------------|------|---------|-------------------|---------|----------------|-------------|---------|----------------|-------------|------|-------|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週</td> <td>ガイダンス、卒論テーマの設定とその選定理由</td> <td>: 2～3月の調査状況の報告準備</td> </tr> <tr> <td>第2～3週</td> <td>卒論テーマに関する論文紹介・現状・課題の把握</td> <td>: 発表準備</td> </tr> <tr> <td>第4～5週</td> <td>調査項目の設定、対象者・対象地域の選定</td> <td>: 発表準備、対象者へのアポ取り</td> </tr> <tr> <td>第6～7週</td> <td>調査の対象者・対象地域における既存データの分析</td> <td>: 既存統計データの分析</td> </tr> <tr> <td>第8～10週</td> <td>質問文・調査票の作成</td> <td>: 作成準備</td> </tr> <tr> <td>第11～16週</td> <td>調査の実施・調査データの分析</td> <td>: 各自調査、調査内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>第17週</td> <td>後期ガイダンス</td> <td>: 夏休みの取り組み内容の報告準備</td> </tr> <tr> <td>第18～25週</td> <td>考察文の作成・卒論の中間報告</td> <td>: 論文作成、報告準備</td> </tr> <tr> <td>第26～31週</td> <td>卒論仮提出・添削、卒論本提出</td> <td>: 仮提出の作成、修正</td> </tr> <tr> <td>第32週</td> <td>卒論報告会</td> <td>: ポスター発表の準備、卒論完成</td> </tr> </table> | 第1週 | ガイダンス、卒論テーマの設定とその選定理由 | : 2～3月の調査状況の報告準備 | 第2～3週 | 卒論テーマに関する論文紹介・現状・課題の把握 | : 発表準備 | 第4～5週 | 調査項目の設定、対象者・対象地域の選定 | : 発表準備、対象者へのアポ取り | 第6～7週 | 調査の対象者・対象地域における既存データの分析 | : 既存統計データの分析 | 第8～10週 | 質問文・調査票の作成 | : 作成準備 | 第11～16週 | 調査の実施・調査データの分析 | : 各自調査、調査内容の見直し | 第17週 | 後期ガイダンス | : 夏休みの取り組み内容の報告準備 | 第18～25週 | 考察文の作成・卒論の中間報告 | : 論文作成、報告準備 | 第26～31週 | 卒論仮提出・添削、卒論本提出 | : 仮提出の作成、修正 | 第32週 | 卒論報告会 | : ポスター発表の準備、卒論完成 |
| | 第1週 | ガイダンス、卒論テーマの設定とその選定理由 | : 2～3月の調査状況の報告準備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第2～3週 | 卒論テーマに関する論文紹介・現状・課題の把握 | : 発表準備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4～5週 | 調査項目の設定、対象者・対象地域の選定 | : 発表準備、対象者へのアポ取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6～7週 | 調査の対象者・対象地域における既存データの分析 | : 既存統計データの分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第8～10週 | 質問文・調査票の作成 | : 作成準備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第11～16週 | 調査の実施・調査データの分析 | : 各自調査、調査内容の見直し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第17週 | 後期ガイダンス | : 夏休みの取り組み内容の報告準備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第18～25週 | 考察文の作成・卒論の中間報告 | : 論文作成、報告準備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第26～31週 | 卒論仮提出・添削、卒論本提出 | : 仮提出の作成、修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第32週 | 卒論報告会 | : ポスター発表の準備、卒論完成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>テキスト：特に指定はない。</p> <p>参考文献：①大谷信介他編著（2005）『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）ミネルヴァ書房。 ②佐々木一成（2008）『観光振興と魅力あるまちづくり』学芸出版社。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学びの手立て | <p>履修の心構え：就職活動の事も考え、卒論の調査・作成を計画的に行うように。</p> <p>学びを深めるために：日常的に観光地等の問題・課題に関心を持ち、新聞や専門図書等を読む。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価 | <p>平常点（30%）：演習中の取り組み内容などを確認します。</p> <p>卒業論文の作成（70%）：卒業論文の内容、一次データの分析・考察、提出期限の厳守、ポスター発表の内容・取り組みを評価します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ：社会に出て、ゼミで習得した思考力、計画性、分析力等を発揮できるように頑張ってください。</p> <p>関連科目：「観光経済論」「観光情報論」「沖縄の観光」「社会調査論Ⅰ・Ⅱ」は受講してください。</p> |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、演習（ゼミ）などの実体験できる科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|--------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 通年 | 水3 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 砂川 かおり | 4年 | 研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 卒業論文作成に必要な、企画力、調査力、分析力、文章表現力等を学ぶ。 | メッセージ ・自己管理をしっかりして、就活などで欠席する場合には、個別に指導を受けること。 ・何事にも積極的に取り組んで、楽しいゼミにしていこう。 ・授業外の課題にも積極的に取り組んでください。 |
| | 到達目標 演習Ⅱでは、自らで研究テーマを設定し、先行研究調査、調査企画、調査実施、調査結果分析、論文作成、発表等を行う。さらに、キャリアセミナーを通して、就活に対する意識も高めていく。 | |

| | | | |
|-------|----------------------|---|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス、成績・時間割確認、年間計画作成・提出、メール設定、キャリアセミナー（1）等 | 卒論テーマを考える。 |
| | 2 | 卒論の進め方の説明、文献収集・要約方法の説明、文献収集 | 文献収集、文献を読み込む。 |
| | 3 | 文献の要約作成・提出 | 文献を読み込む |
| | 4 | 文献の要約発表 | 先行研究文献収集 |
| | 5 | 先行研究調査・まとめ 提出 | 先行研究文献の読み込み |
| | 6 | 先行研究調査結果発表 | 卒論のテーマ・目的・手法を考える |
| | 7 | 卒論のテーマ・目的・手法決定・発表、卒論作成計画づくり・提出 | 調査準備 |
| | 8 | 調査準備（1） | 調査準備 |
| | 9 | 調査準備（2） | 調査準備 |
| | 10 | 調査準備（3） | 調査実施 |
| | 11 | 調査実施（1） | 調査実施 |
| | 12 | 調査実施（2） | 調査実施 |
| | 13 | 調査実施（3） | 卒論中間発表用原稿の概要を考える |
| | 14 | キャリアセミナー（2） / 卒論中間発表用原稿作成・提出 | 発表練習 |
| | 15 | 卒論中間発表 | 調査実施 |
| | 16 | ガイダンス、成績・時間割確認、就活・卒論経過報告 / キャリアセミナー（3） | 卒論データ分析 |
| | 17 | 卒論データ分析（1） | 卒論データの結果を考える |
| | 18 | 卒論データ分析（2）、結果まとめ・提出 | 卒論データの考察を考える |
| | 19 | 卒論データ分析（3）、考察まとめ・提出 | 発表会用PPT原稿の内容を考える |
| | 20 | 卒論発表会用PPT原稿・ポスターセッション用原稿作成・提出 | 発表会用PPT原稿の内容を考える |
| | 21 | 卒論発表会用PPT原稿・ポスターセッション用原稿添削・再提出 | 卒論（前半）作成 |
| | 22 | 卒論作成（前半）・添削（1） | 卒論（後半）作成 |
| | 23 | 卒論作成（後半）・添削（2） | 卒論修正・卒論発表準備 |
| | 24 | 卒論発表会リハーサル（1）、卒業論文（1次提出） | 卒論発表の練習 |
| | 25 | 卒論発表会リハーサル（2） | 卒論発表の練習 |
| | 26 | 卒論発表会、打ち上げ懇親会 | 卒論修正、引用方法のチェック等 |
| | 27 | 卒業論文（2次提出）、ポスターセッション用原稿修正 | ポスターセッション用原稿最終確認 |
| | 28 | ポスターセッション用原稿完成 | ポスターセッションの練習 |
| | 29 | ポスターセッション用原稿展示 | ポスターセッションの練習 |
| | 30 | 卒論ポスターセッション（2019年1月25日予定） | 卒論完成 |
| 31 | 卒論提出（最終）、授業評価アンケート記入 | 年間の学習内容についてふりかえり | |

| | |
|-----------------------|--|
| 学 び の 実 践 | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：指定なし。適宜、資料を配布する。 参考文献：①砂川ゼミの卒論集、②花井等・若松篤『論文の書き方 マニュアル』有斐閣アルマ、2011年、③その他、適宜紹介する。</p> |
| | <p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。 ・自己管理をしっかりして、就活などで欠席する場合には、個別に指導を受けること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。 |
| | <p>評価</p> <p>2 / 3 以上の出席が必要です。その上で、評価の割合は、卒論（60%）、卒論発表会での発表（20%）、ポスターセッション（10%）、授業参加度（10%）とします。</p> |
| 学 び の 継 続 | <p>次のステージ・関連科目</p> |

※ポリシーとの関連性 沖縄と沖縄経済に関する基本的な知識、情報、分析能力。専門職業人として活躍するための基礎力を身に着けます。

[/演習]

| | | | | |
|--------|-------|------|------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 演習Ⅱ | 通年 | 月3 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 前泊 博盛 | 4年 | hmaedomari@oki.u.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>沖縄経済の調査研究を行います。沖縄企業研究、沖縄振興策研究、投資研究、起業研究など、現場取材を通して企業を見る、知る、分かる調査手法を学びます。</p> | <p>4年次は卒業論文の調査・執筆と就職活動、将来進路の決定の時期を迎えます。卒業の基本テーマを早期に決定し、データ収集、分析、執筆を計画的に実施していきましょう。就活では企業情報の確実な入手、調査、分析を通して、悔いのない企業選び、あるいは職業選択を行ってください。</p> |
| 到達目標 | 県内主要企業の情報収集、基本情報・データの整理と分析を通して、データを収集・分析する力を身に着けます。卒論を通して2万字を書き上げる筆力、データ解析力を身に着けます。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>【1】演習Ⅱの進め方 【2】卒論の研究テーマの選定、決定。パワーポイントによる卒論主題発表 【3】卒論調査（沖縄とトップ企業100社の研究、投資研究、起業研究、ディベートなど） 【4】卒論調査（〃）【5】卒論調査（〃）【6】卒論調査（〃）【7】卒論調査（〃） 【8】卒論調査（〃）【9】卒論調査（〃） 【10】卒論前期中間報告（パワーポイントによる発表） 【11】卒論調査（沖縄とトップ企業100社の研究、投資研究、起業研究、ディベートなど） 【12】卒論調査（〃）【13】卒論調査（〃）【14】卒論調査（〃）【15】卒論調査（〃） 【16】卒論前期最終報告</p> <p>【1】後期演習Ⅱの進め方 【2】前期課題の総括と卒論後期前期報告 【3】卒論調査（沖縄とトップ企業100社の研究、投資研究、起業研究、ディベートなど） 【4】卒論調査（〃）【5】卒論調査（〃）【6】卒論調査（〃）【7】卒論調査（〃） 【8】卒論最終報告（パワーポイント） 【9】卒論補足指導 【10】卒論とりまとめ 【11】学外研修（メディア）【12】学外研修（県外企業）【13】学外研修（沖縄県庁・市町村役場） 【14】学外研修（県内金融機関） 【15】演習Ⅱ総括 【16】卒論発表会対応</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>調査・研究テーマに沿って指定、指導します。 琉球新報、沖縄タイムス、日経新聞など新聞各紙、週刊「東洋経済」、週刊「ダイヤモンド」、週刊「日経ビジネス」など経済各誌ほか</p> |
| | <p>学びの手立て</p> <p>沖縄経済に関する基本データの収集と分析を行います。企業訪問、県庁、内閣府など個別にヒアリングを行うにあたって、アポイントメントの取り方、電話対応、ファクスの送受信、郵便・手紙でのやりとり、事後の対応など学生、社会人としての基本的なルールの確認をしてください。</p> |
| | <p>評価</p> <p>出席と調査・研究・報告内容で評価します。</p> |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>①島嶼経済論Ⅰ、Ⅱ②沖縄経済論Ⅰ、Ⅱ ③近代・現代沖縄経済史</p> |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性

「経済と環境の視点から地域を考える」「実社会で環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献できる人材育成」を基本に展開。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|---------|------|-----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 沖縄経済論 I | 前期 | 火 3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 前泊 博盛 | 3年 | hmaedomari@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>沖縄県の人口は？県民総生産額は？失業率は？そして本土との経済格差は？基地依存経済とは？一知っているようで知らない沖縄県経済の実像を、統計データの分析を通して検証します。経済は、時として統計データと実態との乖離が生じます。より正確な実態経済の把握のためには、多角的な視点とフィールドワークが不可欠です。「常識」を疑い、「実態」を把握する手法を学びます。必要に応じ</p> | <p>4/28 5/15 6/23 8/15 9/2 9/7 など節目の日を記憶し、記録し、沖縄経済の源流を辿りましょう。</p> |
| 到達目標 | <p>基本データの収集力、分析力、解読力、基本的な文章表現力を身に着けます。沖縄経済の特徴とされる「3K経済」「新10K経済」の実態と課題、解決策、発展策をレポートにできるよう筆力を高めます。</p> | |

| | | |
|----------------|---|-----------------------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | |
| | 授業計画 | |
| | 回 | テーマ |
| | 1 | 講義ガイダンス「沖縄経済検定」 |
| | 2 | 沖縄経済の特徴と課題そして展望 |
| | 3 | 人口と雇用・失業—高失業、低賃金、低所得の背景 |
| | 4 | 産業構造①農業・・・サトウキビ、パイナップル、花卉など農産物の変遷 |
| | 5 | 産業構造②林業・・・沖縄の林業は成り立つか |
| | 6 | 産業構造③水産業・・・捕る漁業から育てる漁業へ |
| | 7 | 産業構造④畜産業・・・離島経済を支える主力産業へ |
| 8 | 産業構造⑤製造業・・・泡盛業界の課題と展望 | |
| 9 | 産業構造⑥建設業・・・基地、観光に次ぐ3K経済の行方 | |
| 10 | 産業構造⑦観光業・・・薄利多売の豊作貧乏、低賃金労働から高付加価値型産業への挑戦 | |
| 11 | 産業構造⑧情報通信関連産業・・・現代の女工哀史か？ | |
| 12 | 産業構造⑨公務・・・公務員の経済効果 | |
| 13 | 産業構造⑩国際物流・・・アジア経済戦略構想の狙いと実態 | |
| 14 | 産業インフラの検証・・・3K経済を支えるインフラの動向 | |
| 15 | 沖縄経済の展望（前期総括） | |
| 16 | 前期試験 | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>毎回、資料を配布します。 ①百瀬恵夫・前泊博盛著『検証 沖縄問題～復帰30年経済の課題と展望』東洋経済新報社 ②前泊博盛著『もっと知りたい！本当の沖縄』岩波ブックレット ③櫻澤誠著『沖縄現代史』中公新書</p> | |
| 学びの手立て | <p>沖縄に関する基本的なデータ分析を行います。沖縄県、内閣府、沖縄振興開発金融公庫、琉球銀行、沖縄銀行、沖縄海邦銀行などが発行する経済データ集を比較検証し、データと実態経済の乖離などに常に目を向け「数字の謎解き」を心掛けてください。</p> | |
| 評価 | <p>出席を重視。最終試験などにより総合的に評価します。</p> | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>①島嶼経済論 I、II ②近代・現代沖縄経済史</p> |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性

経済と環境の視点から地域を考えます。島嶼地域の沖縄経済を環境容量なども踏まえ、持続的発展が可能な経済政策を検証します。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|--------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 沖縄経済論Ⅱ | 後期 | 火3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 前泊 博盛 | 3年 | 問い合わせは下記のメールアドレスに。 hmaedomari@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>沖縄経済論Ⅱでは、地域経済政策としての沖縄振興開発計画、沖縄21世紀ビジョンなど沖縄経済振興策について学びます。ケインズ経済学の視点から、政府による沖縄振興計画、基地経済と沖縄振興策とのリンク、観光振興策、情報通信産業の振興など3k経済に続く新10K経済の課題と可能性を、実例をもとに検証していきます。</p> | <p>出席を重視します。毎回、重要なキーワードを提示します。沖縄の今を理解するために必要なデータとトピックスを提供します。</p> |
| 到達目標 | <p>沖縄経済の分析を通して、地域経済振興の在り方、費用対効果 (B/C)、統計データと現状との乖離など「実態経済」を把握するための手法を身に着けます。</p> | |

| | | | |
|----------------|---|---|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義の進め方・後期オリエンテーション | |
| | 2 | 3K経済と新10K経済の概況 | |
| | 3 | ①新基地経済・・・基地存続から基地廃止・返還による経済効果分析 | |
| | 4 | ②新公共事業経済・・・削減される公共事業費の中で、新たな維持事業の展開 | |
| | 5 | ③新観光経済・・・エコ、グリーン、ブルー、医療ツーリズム、クルーズ船ツーリズムの課題と展望 | |
| | 6 | ④環境ビジネス・・・環境がお金になる時代 | |
| | 7 | ⑤健康ビジネス・・・医療ツーリズムとも連動。歩かない県民制 | |
| 8 | ⑥金融ビジネス・・・直接投資の可能性も含めて検証 | | |
| 9 | ⑦教育ビジネス・・・全国ワーストクラスの低進学率と最低賃金を、どう改善するか。 | | |
| 10 | ⑧研究ビジネス・・・沖縄科学大学院の活躍に期待 | | |
| 11 | ⑨交通ビジネス・・・鉄道構想、モノレール延伸、那覇空港の沖合展開など今後の動き | | |
| 12 | ⑩交易ビジネス・・・アジア経済戦略構想も含め交易ビジネスの経済課題を探る | | |
| 13 | カジノ構想と沖縄観光 | | |
| 14 | 経済のグローバル化と沖縄経済 | | |
| 15 | 沖縄経済の総括 | | |
| 16 | 後期試験 | | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>毎回、資料（レジュメ）を配布します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「検証 沖縄問題～復帰30年経済の課題と展望」／百瀬恵夫・前泊博盛著／東洋経済新報社 ・「沖縄振興（開発）計画」（内閣府）「沖縄21世紀ビジョン」「沖縄振興計画等総点検報告書」（沖縄県） ・その他、講義時に紹介します | | |
| 学びの手立て | <p>複数の統計データを比較検証することで、数字の裏側にある実態経済の分析力を高めます。どの数字が信頼、信用できるのか、問題意識を持って講義に臨んでください。</p> | | |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・出席を重視。5回欠席で「不可」。欠席時には「欠席届」提出を。 ・毎回、講義の課題回答、感想、質問を提出。その内容も踏まえ評価します。 | | |

| | |
|-------|-------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
|-------|-------------|

| | | | | |
|--------|--|------------|---|---------|
| 科目基本情報 | 科目名 沖縄社会統計論 | 期別 後期 | 曜日・時限 火2 | 単位 2 |
| | 担当者 友知 政樹 | 対象年次 2年 | 授業に関する問い合わせ メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp | |
| | | | | |
| | ねらい 沖縄に関する様々な統計資料や映像資料を使い、沖縄の過去、現在、未来について考える。データに基づいて沖縄を理解することに努める。 | | メッセージ 琉球（沖縄）を良くしたいという熱意のある学生を求む！一緒に目から血が出るほど勉強しましょう！ | |
| 学びの準備 | 到達目標 ねらいの達成。 | | | |
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 講義の際に詳しく説明する。 | | | |
| | テキスト・参考文献・資料など 講義の際に詳しく説明する。 講義の際に詳しく説明する。 | | | |
| | 学びの手立て 毎回出席すること。 | | | |
| | 評価 出席状況、議論への参加度、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。 | | | |
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 演習 I（3年次ゼミ）。 | | | |

| | | | | |
|--------|--|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 沖縄の経済事情 I | 後期 | 金 3・4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 仲宗根敏夫、喜瀬直季、比嘉良聡、照屋正、久高豊、山川岩彦、入仲秀政、謝花辰喜、嘉数照二郎、林岳彦、當銘栄一、上地龍太、松元靖 | 1年 | yando@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 各種金融機関の機能・役割・仕事内容を学ぶことにより、経済・金融関係の学問に対する意欲を高める。 | メッセージ 金融業界に興味がある学生にお勧めします。県内のさまざまな金融系企業の社会人が講義を行う。日程は初回講義で通知します。約2週間に1度、3限・4限に講義する予定。対象学生は経済学部の1～4年生です。定員超過の場合は3年生・2年生を優先とする。 |
| | 到達目標 金融機関の機能・役割に関する知識を身につける。金融機関における仕事内容を把握する。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 ガイダンス 2 県内銀行と県外銀行の相違 3 沖縄経済と銀行 4 保険会社の役割 5 沖縄県の保険事情 6 アベノミクスと日本経済・沖縄経済 7 最近の県内景気動向 8 証券会社の役割 9 沖縄県の投資状況 10 信用金庫の役割 11 地域密着金融 12 地域経済と金融 —シンクタンクの役割— 13 銀行の役割 14 離島の金融 15 県民生活とJA 16 レポート提出 |
| | テキスト・参考文献・資料など 毎回資料を配布する。テキストなし。 |
| | 学びの手立て 講義に真剣に取り組む、記録すること。 積極的に質問すること。 各講義終了時に感想・コメントの記述を求める。 レポート課題は中間と期末の2回。 |
| | 評価 試験およびレポート課題 |

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「金融論 I II」「証券市場論 I II」 |
|-------|---------------------------------------|

| | | | | |
|--------|-----------------------------------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 沖縄の経済事情Ⅱ | 後期 | 土3・4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 上地 恵龍、_宮田 亮、_宮平 栄治、_村上 敬進、_島袋 伊津子 | 1年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 金融の理論と実務を学ぶ。 | メッセージ この授業は寄付講座で、県内5大学の教員・学生と一緒に学びます。金融機関への就職を強く望み、時間外のグループ学習についても積極的に取り組む意志を持った者のみ受講して下さい。 ※受講対象：経済学部3年次 |
| | 到達目標 金融論の基礎的な理論および実務について説明できる。グループで金融に関連するテーマについて発表できる。 | |

| | | | |
|-------|---|-----------------|---------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション | シラバスを読む |
| | 2 | わが国の金融システムⅠ | 授業の復習、参考文献を読む |
| | 3 | わが国の金融システムⅡ | 〃 |
| | 4 | 外部講師による講演（琉球銀行） | 〃 |
| | 5 | 外部講師による講演（沖縄銀行） | 〃 |
| | 6 | グループワーク | 〃 |
| | 7 | 中間報告会 | 報告会の準備 |
| | 8 | 保険の基礎知識 | 授業の復習、参考文献を読む |
| | 9 | 外部講師による講演（大同火災） | 〃 |
| | 10 | グループワーク | 〃 |
| | 11 | 金融機関の種類と役割 | 〃 |
| | 12 | 外部講師による講演（大和証券） | 〃 |
| | 13 | グループワーク | 〃 |
| | 14 | 経済変動と金融政策 | 〃 |
| | 15 | 外部講師による講演（日本銀行） | 〃 |
| | 16 | 最終報告会 | 報告会の準備 |
| | テキスト・参考文献・資料など テキスト：指定しない。毎回資料を配布する。参考文献：『金融入門』 岩田規久男(著) 東洋経済新報社 2008年、『図解これだけでわかる日本の金融』家森信善(著) 東洋経済新報社2006年、『金融のしくみ』ビックペン(編)ダイヤモンド社2003年、『金融システム』酒井良清・鹿野義昭(著)有斐閣アルマ2011年など。 | | |
| | 学びの手立て 授業は毎週実施ではなく、土曜日の3, 4時限目に集中で行います。具体的なスケジュールはポータルにて掲示します。 | | |
| | 評価 グループ発表（50%）＋レポート（50%）。原則として皆出席を求めます。 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「金融論ⅠⅡ」「証券市場論ⅠⅡ」「沖縄の経済事情Ⅰ（寄付講座）」 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|------------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境アセスメント I | 前期 | 水 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 新垣 武 | 3年 | takeshi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 道路建設、港湾建設、ダム建設等の各種開発事業の実施による環境への影響を事前に予測評価して、その対策を検討することが良好な環境を保全し、持続可能な開発を行うために、必要不可欠となっている。環境アセスメントIでは、このような環境影響評価の実施に関連する法律、現地調査手法、予測評価手法等について学ぶ。 | メッセージ 環境アセスメントの基礎を解説します。現代社会においてよく話題になる環境アセスメントについて、この授業で学びましょう。 |
| | 到達目標 環境アセスメントについての基礎知識を得ることによってメディアなどで報じられる環境アセスメントに関する話題を理解できるようになる。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1. 講義概要 1 週目 2. 環境アセスメントに関する法律 (環境影響評価法、県条例など) 2 週目～3 週目 3. 環境影響評価項目 (大気質、水質、騒音、振動等) 毎の調査及び予測評価手法 3 週目～1 5 週目 4. 1 6 週目期末テスト |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。 |
| | 学びの手立て 毎回出欠確認を行います。やむをえず欠席する場合は事前か事後に欠席届を提出してください。 |
| | 評価 レポート、試験、授業参加度などを総合的に評価する。 |

| | |
|-------|----------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 環境アセスメント II |
|-------|----------------------------|

| | | | | |
|--------|-----------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境アセスメントⅡ | 後期 | 水1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 新垣 武 | 3年 | takeshi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 環境アセスメントⅠでは、環境影響評価の実施に関連する法律、現地調査手法、予測評価手法等について講義を行ったが、環境アセスメントⅡでは環境影響評価事例について紹介する。 | メッセージ 環境アセスメントの基礎を解説します。現代社会においてよく話題になる環境アセスメントについて、この授業で学びましょう。 |
| | 到達目標 環境アセスメントについての基礎知識を得ることによってメディアなどで報じられる環境アセスメントに関する話題を理解できるようになる。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの準備 | 到達目標 環境アセスメントについての基礎知識を得ることによってメディアなどで報じられる環境アセスメントに関する話題を理解できるようになる。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 講義概要 1週目 2. 環境影響評価項目毎（大気質、水質、騒音、振動等）の調査及び予測評価手法の事例紹介 2～15週目 3. 期末テスト 16週目 |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。 |
| | 学びの手立て 毎回出欠確認を行います。やむをえず欠席する場合は事前か事後に欠席届を提出してください。環境アセスメントⅠを受講済みであることが望ましいです。 |
| | 評価 レポート、試験、授業参加度などを総合的に評価する。 |

| | |
|-------|--------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 環境アセスメントⅠ |
|-------|--------------------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境会計 | 前期 | 火4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -船越 沙香 | 3年 | e-mailにて受付致します。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 近年、企業が環境保全への取組を環境会計として表現することにより、利害関係者が企業等の姿勢や取組を正しく理解し、評価、支援することが社会的責任になっています。そこで本講義では環境会計の概要等を学び、企業がどのような環境会計への取組を行っているかを学習します。 | メッセージ 企業活動が自然資源に重要な影響を与えており、自然環境を保護し持続可能な開発を推進することが、企業の長期的存続の基礎となる。授業はレジュメを配布します。環境会計について興味を持って参加して下さい。 |
| | 到達目標 環境会計についての基礎的知識と企業の社会的責任について、様々な視点から理解することが可能となる。また、ケーススタディを通して、企業の環境会計に対する取り組みを理解する。環境会計の大切さがわかってもらえたら嬉しい。 | |

| | | | |
|-------|---|----------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 環境会計ガイドラインの概要① | |
| | 3 | 環境会計ガイドラインの概要② | |
| | 4 | 環境会計の定義 | |
| | 5 | 環境会計の機能と役割 | |
| | 6 | 環境会計の一般的要因 | |
| | 7 | 環境報告ガイドラインの概要① | |
| | 8 | 環境報告ガイドラインの概要② | |
| | 9 | 内部機能と外部機能 | |
| | 10 | ケーススタディ | |
| | 11 | 排出量取引及び土壌汚染の会計 | |
| | 12 | CSR | |
| | 13 | 世界の環境会計 | |
| | 14 | 統合報告書 | |
| | 15 | 総括 | |
| | 16 | 予備日 | |
| | テキスト・参考文献・資料など 環境省の資料および特定企業のCSR・環境報告書等を活用するため用意するものではありません。筆記用具をお持ちください。 | | |
| | 学びの手立て 2/3以上の出席がない場合は不可とします。出席は講義終了前にまとめテストを行うのでまとめテスト提出にて出席確認します。やむを得ず欠席する場合は学籍番号、名前、欠席理由を記入の上、事前にメール送付して下さい。 | | |
| | 評価 平常点：45点、レポート：55点 | | |

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 環境経営の履修をすることが望ましい。 |
|-------|-----------------------------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境科学実験 | 後期 | 水3 | 1 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 新垣 武 | 1年 | takeshi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 環境科学の履修過程において環境の現況把握に必要な現況観測は必要不可欠な事項だと考えられる。環境科学実験においては環境要素の中で最も基本的な項目である水質、騒音についての測定手法を修得するとともに結果の取りまとめ方法を学ぶ。また、今後の環境問題とその対策を考える上で重要な新エネルギーに関連する実験を行う。 | メッセージ 実験を行うことによって環境科学がより深く理解できるようになりますので、欠席しないようにしましょう。 |
| | 到達目標 環境科学に関連した実験について理解し実施することができるようになる。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの準備 | 到達目標 環境科学に関連した実験について理解し実施することができるようになる。 |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 1週目 2. 水質分析、騒音測定、新エネルギー関連の実験 2～14週目 3. 総括 15週目 |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。 |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。 |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びの手立て 実験は実際に行うことが重要です、欠席は極力避けてください。万が一欠席した場合においても他の学生の実験データを使って考察、レポート作成を行ってください。 |
|-------|---|

| | |
|-------|------------------------------|
| 学びの実践 | 評価 レポート、授業参加度などを総合的に評価する。 |
|-------|------------------------------|

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 環境科学 I & II、環境アセスメント I & II |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境科学実験 | 後期 | 火3・4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 齋藤 星耕 | 1年 | 5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 環境科学の履修過程において環境の現況把握に必要な現況観測は必要不可欠な事項だと考えられる。環境科学実験においては環境要素の中で最も基本的な項目である水質、騒音についての測定方法を習得するとともに結果の取りまとめ方法を学ぶ。今後の環境問題とその対策を考える上で重要な新エネルギーに関連する実験を行う。 | メッセージ 実験を行うことによって環境科学がより深く理解できるようになります。 |
| | 到達目標 環境科学に関連した実験について理解し実施することが出来るようになる。 | |

| | | | |
|-------|---|------------------------------|----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義概要 1週目 | |
| | 2 | 水質分析、騒音測定、新エネルギー関連の実験 2～14週目 | 配布資料を読む；レポート作成 |
| | 3 | 総括 15週目 | |
| | 4 | | |
| | 5 | | |
| | 6 | | |
| | 7 | | |
| | 8 | | |
| | 9 | | |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| 15 | | | |
| 16 | | | |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また参考資料は適宜配布する。 | | |
| | 学びの手立て 実験は実際に行うことが重要です、欠席は極力避けてください。万が一欠席した場合においても他の学生の実験データを使って考察、レポート作成を行ってください。 | | |
| | 評価 レポート、出席状況などを総合的に評価する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 環境科学 I & II、環境アセスメント I & II |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性

全講義終了後に任意企業の環境経営の取組についてレポート提出をさせていただきます。その課程で研究し分析する力を身につけます。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境経営 | 後期 | 火4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -船越 沙香 | 3年 | e-mailにて受付致します。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 環境経営の概要等を知り、企業が環境経営への取組をどのように行っているか、どのように社会的責任を果たしているかを学習します。 | 企業活動が自然資源に重要な影響を与えており、自然環境を保護し持続可能な開発を推進することが、企業の長期的存続の基礎となる。授業はレジュメを配布します。環境経営について興味を持って参加して下さい。 |
| 到達目標 | 環境経営についての基礎的知識と企業の社会的責任について、様々な視点から理解することが可能となる。また、ケーススタディを通して、企業の環境経営に対する取り組みを理解する。環境経営の大切さがわかってもらえたら嬉しい。 | |

| | | | |
|----------------|---|-------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | |
| 2 | 環境報告の位置づけと環境省のガイドライン | | |
| 3 | 環境報告の概要① | | |
| 4 | 環境報告の概要② | | |
| 5 | 環境報告の概要③ | | |
| 6 | 環境報告の概要④ | | |
| 7 | 環境報告の概要⑤ | | |
| 8 | 環境報告の概要⑥ | | |
| 9 | 企業の取組① | | |
| 10 | 企業の取組② | | |
| 11 | 企業の取組③ | | |
| 12 | エコアクション21① | | |
| 13 | エコアクション21② | | |
| 14 | 沖縄国際大学の取組 | | |
| 15 | 総括 | | |
| 16 | 予備日 | | |
| テキスト・参考文献・資料など | 環境省の資料および特定企業のCSR・環境報告書等を活用するため用意するものではありません。筆記用具をお持ちください。 | | |
| 学びの手立て | 2/3以上の出席がない場合は不可とします。出席は講義終了前にまとめテストを行うのでまとめテスト提出にて出席確認します。やむを得ず欠席する場合は学籍番号、名前、欠席理由を記入の上、事前にメール送付して下さい。 | | |
| 評価 | 出席：50点、レポート：50点 | | |

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 環境会計の履修をすることが望ましい。 |
|-------|-----------------------------------|

| | | | | |
|--------|---------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境経済学 I | 前期 | 木 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 呉 錫畢 | 2年 | メール (sukpil@okiu.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。。 | |

| | | |
|-------|---|-----------------------|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 地球温暖化の問題がかつてなく大きくクローズアップされている今日である。何が地球環境問題をもたらしたのか。経済要因なきには語れない環境問題であるが、経済成長への優先は環境の犠牲をもたらす。環境を重視すれば経済成長の停滞を感受しなければならない。つまり経済成長と環境保全は効率と公正との緊張関係にある。このような問題意識に基づいて、環境経済学を理解する。 | 環境と経済！ 豊かさの観点より悩んでみる。 |
| 到達目標 | ①環境問題はなぜ起こっているのか、疑問を持つ。 ②環境問題と経済との関わりを地域から探る。 ③環境と経済のメカニズムを理解する。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1週目：環境と経済の話1 2週目：環境と経済の話2 3週目：沖縄経済と地域発展 4週目：環境破壊の経済的メカニズム 5週目：市場と外部経済 6週目：環境の経済価値 7週目：環境の価値評価の手段 8週目：開発と社会的共通資本1 9週目：開発と社会的共通資本2 10週目：環境政策の手段 11週目：沖縄経済発展と観光財 12週目：沖縄経済の特徴 13週目：沖縄経済のディレンマ 14週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発 15週目：赤土汚染による生態系破壊 16週目：期末試験 |
| | テキスト・参考文献・資料など 呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説一』、日本経済評論社。 (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。 (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。 (3) その他、テーマに添って随時に資料を配布する。 |
| | 学びの手立て 地域社会における環境と経済との関連性に関するレポートを作成。 |
| | 評価 期末試験 (35%)、レポート (35%)、出欠 (30%) を中心に評価する。 |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 環境経済学 II を理解するための環境経済学の基礎を磨く。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|---------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境経済学 I | 前期 | 月 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 呉 錫畢 | 2年 | メール (sukpil@oku.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。 | |

| | | |
|-------|---|-----------------------|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 地球温暖化の問題がかつてなく大きくクローズアップされている今日である。何が地球環境問題をもたらしたのか。経済要因なきには語れない環境問題であるが、経済成長への優先は環境の犠牲をもたらす。環境を重視すれば経済成長の停滞を感受しなければならない。つまり経済成長と環境保全は効率と公正との緊張関係にある。このような問題意識に基づいて、環境経済学を理解する。 | 環境と経済！ 豊かさの観点より悩んでみる。 |
| 到達目標 | ①環境問題はなぜ起こっているのか、疑問を持つ。 ②環境問題と経済との関わりを地域から探る。 ③環境と経済のメカニズムを理解する。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント |
| | 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1週目：環境と経済の話1 2週目：環境と経済の話2 3週目：沖縄経済と地域発展 4週目：環境破壊の経済的メカニズム 5週目：市場と外部経済 6週目：環境の経済価値 7週目：環境の価値評価の手段 8週目：開発と社会的共通資本1 9週目：開発と社会的共通資本2 10週目：環境政策の手段 11週目：沖縄経済発展と観光財 12週目：沖縄経済の特徴 13週目：沖縄経済のディレンマ 14週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発 15週目：赤土汚染による生態系破壊 16週目：期末試験 |
| | テキスト・参考文献・資料など 呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説一』、日本経済評論社。 (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。 (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。 (3) その他、テーマに添って随時に資料を配布する。 |
| | 学びの手立て 地域社会における環境と経済との関連性に関するレポートを作成。 |
| 評価 | 期末試験 (35%)、レポート (35%)、出欠 (30%) を中心に評価する。 |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 環境経済学 II を理解するための環境経済学の基礎を磨く。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境経済学Ⅱ | 後期 | 木1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 呉 錫畢 | 2年 | メール (sukpil@okiu.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。 | |

| | | |
|-------|--|--------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 本講義は、沖縄のサンゴ礁の持つ生態系や景観のような自由財の非利用価値を測り、地域経済の発展や豊かさの観点より環境経済学の視点より概説する。自然の尊さを沖縄サンゴ礁の貨幣評価で表現し、沖縄観光経済の現在と将来を診断するとともに、さらに沖縄文化でもあるテーゲーの経済学化を試み、真の豊かさとは何かについて考察する。 | メッセージ 豊かさとは何か、環境と経済から考えてみる。 |
| | 到達目標 環境と地域経済との関係から課題を発見し、その解決策を探る。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1週目：環境はいくらか 2週目：CVM(仮想市場評価法) 3週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発の功罪 4週目：赤土汚染による生態系及び環境の損害評価 5週目：沖縄におけるサンゴ礁の現状 6週目：サンゴ礁の生態系及び景観の経済評価 7週目：環境と沖縄の観光経済 8週目：竹富島とピノキオ観光 9週目：成長するアイルランド観光 10週目：アイルランド観光経済と沖縄観光 11週目：沖縄経済と済州経済 12週目：沖縄と済州の観光産業 13週目：内発的発展からみる沖縄経済の発展可能性 14週目：環境・経済・沖縄 15週目：真の豊かさとテーゲー経済学 16週目：期末試験 |
| | テキスト・参考文献・資料など 呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説一』、日本経済評論社。 (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。 (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。 (3) その他、テーマに添って随時に資料を配布する。 |
| | 学びの手立て 環境と地域発展に関するレポートを作成。 |
| | 評価 期末試験 (35%)、レポート (35%)、出欠 (30%) を中心に評価する |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 地域からアジア経済と環境問題、また地球環境問題を考える。環境政策論、アジア経済と環境。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境経済学Ⅱ | 後期 | 月1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 呉 錫畢 | 2年 | メール (sukpil@oku.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。 | |

| | | |
|-------|--|--------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 本講義は、沖縄のサンゴ礁の持つ生態系や景観のような自由財の非利用価値を測り、地域経済の発展や豊かさの観点より環境経済学の視点より概説する。自然の尊さを沖縄サンゴ礁の貨幣評価で表現し、沖縄観光経済の現在と将来を診断するとともに、さらに沖縄文化でもあるテーゲーの経済学化を試み、真の豊かさとは何かについて考察する。 | メッセージ 豊かさとは何か、環境と経済から考えてみる。 |
| | 到達目標 環境と地域経済との関係から課題を発見し、その解決策を探る。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1週目：環境はいくらか 2週目：CVM(仮想市場評価法) 3週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発の功罪 4週目：赤土汚染による生態系及び環境の損害評価 5週目：沖縄におけるサンゴ礁の現状 6週目：サンゴ礁の生態系及び景観の経済評価 7週目：環境と沖縄の観光経済 8週目：竹富島とピノキオ観光 9週目：成長するアイルランド観光 10週目：アイルランド観光経済と沖縄観光 11週目：沖縄経済と済州経済 12週目：沖縄と済州の観光産業 13週目：内発的発展からみる沖縄経済の発展可能性 14週目：環境・経済・沖縄 15週目：真の豊かさとテーゲー経済学 16週目：期末試験 |
| | テキスト・参考文献・資料など 呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説一』、日本経済評論社。 (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。 (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。 (3) その他、テーマに添って随時に資料を配布する。 |
| | 学びの手立て 環境と地域発展に関するレポートを作成。 |
| | 評価 期末試験 (35%)、レポート (35%)、出欠 (30%) を中心に評価する。 |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 地域からアジア経済と環境問題、また地球環境問題を考える。環境政策論、アジア経済と環境。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|-----------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境資源論 | 前期 | 火2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 山川（矢敷） 彩子 | 2年 | メールの場合： a.yamakawa@okiu.ac.jp 研究室： 9号館505室 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 受講生が琉球列島における自然的環境資源について理解を深めることを目的として、サンゴ礁、海草藻場、干潟、砂浜などにおける環境資源について学ぶ。最終的には、環境資源の有効利用の仕方および環境保全について考える。 | 抽選から漏れた場合、登録調整期間中に教員に直接申し出れば、追加登録を認める。本講義は最終年次においても追試および再試験は実施しないので、4年次は登録の際注意する。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む琉球列島の成り立ちを理解する。 海岸にはさまざまな環境があり、それぞれ多様な役割を有していることを理解する。 環境資源の有効利用について、自分なりの考えを持つ。 | |

| | | | |
|--------|--|--|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | シラバスを熟読する。 |
| | 2 | 環境資源とは | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 3 | 日本および琉球列島の成り立ち | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 4 | 海の危険生物 | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 5 | 砂浜環境と資源 | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 6 | 海岸浸食と防災 | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 7 | 干潟環境と資源 | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| 8 | マングローブ環境 | 関連するTV、ニュースを見る。 | |
| 9 | 藻場環境と資源 | 関連するTV、ニュースを見る。 | |
| 10 | サンゴ礁の資源・磯の恵み | 関連するTV、ニュースを見る。 | |
| 11 | サンゴ礁とは | 実際に沖縄の浅い海に行ってみる。 | |
| 12 | サンゴ礁をめぐる問題①（オニヒトデの大量発生） | 関連するTV、ニュースを見る。 | |
| 13 | サンゴ礁をめぐる問題②（サンゴの白化） | 関連するTV、ニュースを見る。 | |
| 14 | サンゴ礁をめぐる問題③（破壊的漁業） | 関連するTV、ニュースを見る。 | |
| 15 | 環境資源の有効利用（エコツーリズム） | 関連するTV、ニュースを見る。 | |
| 16 | 期末試験 | 試験対策をする。 | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | <p>テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。 必要に応じて紹介する。</p> | |
| 学びの手立て | <p>海の世界や生物に関するテレビ番組を試しに見てみる。それらのインターネットニュースをクリックしてみる、など日常生活の中で情報に触れ合っておくと、より講義が身近なものに感じるはず。また、実際にさまざまな海に行ってみるのもオススメです。</p> | | |
| 評価 | <p>講義の際に毎回記入する大福帳（意見、感想、質問）の内容、試験およびレポートの内容により総合的に評価する。3分の1以上の欠席、課題の未提出、試験を欠席した学生には単位を与えない。大福帳30%、レポート20%、試験50%とする。</p> | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
| | 産業と環境、生物学I・II、自然科学概論I・II、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、土壌学概論、演習I&II（山川ゼミ）など。 |

| | | | | |
|--------|-----------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境政策書講読 I | 前期 | 木 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 2年 | t. toguchi@ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 環境政策の背景となる環境問題を経済学を通して学んでいく。 | メッセージ 授業で使用した内容に関連する文献を紹介します。自身の興味のある文献をみつけ、図書館利用や読む習慣をつけてください。 |
| | 到達目標 ・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。 ・環境政策に対して自らの問題意識を持つ。 | |

| | | | |
|-------|---|---------------------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 持続可能な経済の条件1 物質循環とエントロピー | |
| | 2 | 持続可能な経済の条件2 地球の物質循環、農林業の物質循環 | |
| | 3 | 持続可能な経済の条件3 工業の環境問題 | |
| | 4 | 持続可能な経済の条件4 地球の環境問題 | |
| | 5 | 持続可能な経済の条件5 環境と国際関係 | |
| | 6 | 持続可能性と環境収容力 | 配布資料を参照 |
| | 7 | 経済と生態系管理 | |
| | 8 | 生態系管理の経済的特質 | |
| | 9 | 生態系の環境持続型環境評価 | |
| | 10 | 環境と景観評価 | 配布資料を参照 |
| | 11 | 環境政策 国内の環境政策と海外の環境政策 | |
| | 12 | 中間テスト | |
| | 13 | 環境便益の計測について1 エコロジカル・フットプリントとLCA | |
| | 14 | 環境便益の計測について2 CVMとコンジョイント分析 | |
| 15 | 期末テスト | | |
| 16 | 総括 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など 鷲田豊明『環境評価入門』勁草書房 栗山浩一『公共事業と環境の価値』築地書館 マティース・ワケナゲル『エコロジカル・フットプリント』 他 | | |
| | 学びの手立て ・必要なときに授業内容を振り返れるよう、授業ノートを作ることが望ましい。 ・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。 | | |
| | 評価 ・中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 ・本や資料を読み、自分の興味を持った分野の本を読む機会となって欲しい。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|----------|------|-----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境政策書講読Ⅱ | 後期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 2年 | t. toguchi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 経済活動に伴う多くの環境問題を考えながら、環境対策の在り方や環境政策について学んでいきます。 | メッセージ 授業では関連する文献を紹介し、自身の興味のある文献をみつけ、読む習慣をつけてください。 |
| | 到達目標 ・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。 ・社会に対して自らの問題意識を持つ。 | |

| | | |
|-------|---|----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | |
| | 回 | テーマ |
| | 1 | 経済発展と環境問題 |
| | 2 | 循環型社会 ゴミとリサイクル |
| | 3 | 外部性と市場の失敗 |
| | 4 | 環境の外部性と費用内部化 |
| | 5 | 公共財とフリーライダー |
| | 6 | 直接規制と間接規制 |
| | 7 | 環境税と補助金の考え方 |
| | 8 | 環境政策 廃棄物 |
| | 9 | 環境政策 地球温暖化 |
| | 10 | 環境の価値評価 顕示選好法 |
| | 11 | 環境の価値評価 表面選好法 |
| | 12 | 中間テスト |
| | 13 | 企業の環境対策 社会的責任 |
| | 14 | 生物多様性と環境リスク |
| | 15 | 環境の便益評価 |
| | 16 | 期末テスト |
| | 時間外学習の内容 | |
| | 配布資料を参照 | |
| | テキスト・参考文献・資料など 栗山浩一『環境経済学をつかむ』有斐閣 栗山浩一『公共事業と環境の価値』築地書館 君山由良『コンジョイント分析』データ分析研究所 他 | |
| | 学びの手立て ・必要なときに授業内容を振り返れるよう、授業ノートを作ることが望ましい。 ・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。 | |
| | 評価 ・中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 ・本や資料を読み、自分の興味を持った分野の本を読む機会となって欲しい。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------------------|------|----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境政策特別講義 I (開発と環境) | 集中 | 集中講義 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -上江洲一也 | 3年 | uezu@kitakyu-u.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>一般建物火災、林野火災、泥炭火災、油火災などの火災は、人命、財産および資源に多大な損害を与えるだけでなく、無視できないCO2発生源である。したがって、消火活動は、災害を軽減するだけでなく、地球環境の改善にも貢献するものである。消火技術の進化と普及における産学官連携について理解を深め、技術開発と環境政策について考える。</p> | <p>2003年より、世界に先駆けて産学官連携による「石けん系環境保全型泡消火剤の開発」に取り組んでいます。この研究開発の過程で築いてきた異分野融合の共同研究体制は、技術開発だけでなく、消火活動のあり方を大きく変革する基盤となっています。先進的な取り組みを継続していくために必要なことについて議論できればと思います。</p> |
| 到達目標 | <p>1) 火災と消火活動が環境に与える影響について理解する 2) 消火性能と環境性能を両立するための課題について理解する 3) 先進的な取り組みを継続するため産学官それぞれの役割について理解する 4) 消火活動に関する国や自治体の政策について理解する</p> | |

| | | | |
|----------------|--|-------------------------------|------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 火災と地球環境 | 事前配布資料の熟読 |
| | 2 | 環境に配慮した消火剤の開発 (一般建物用) 1 消火性能 | 配布プリントの見直し |
| | 3 | 環境に配慮した消火剤の開発 (一般建物用) 2 環境性能 | 配布プリントの見直し |
| | 4 | 環境に配慮した消火剤の開発 (一般建物用) 3 産学官連携 | レポートの作成 |
| | 5 | 環境に配慮した消火剤の開発 (林野火災用) 1 消火性能 | 配布プリントの見直し |
| | 6 | 環境に配慮した消火剤の開発 (林野火災用) 2 環境性能 | 配布プリントの見直し |
| | 7 | 環境に配慮した消火剤の開発 (林野火災用) 3 産学官連携 | 配布プリントの見直し |
| | 8 | 環境に配慮した消火剤の開発 (泥炭火災用) 1 消火性能 | 配布プリントの見直し |
| | 9 | 環境に配慮した消火剤の開発 (泥炭火災用) 2 環境性能 | 配布プリントの見直し |
| | 10 | 環境に配慮した消火剤の開発 (泥炭火災用) 3 産学官連携 | レポートの作成 |
| | 11 | 環境に配慮した消火剤の開発 (油火災用) 1 消火性能 | 配布プリントの見直し |
| | 12 | 環境に配慮した消火剤の開発 (油火災用) 2 環境性能 | 配布プリントの見直し |
| | 13 | 環境に配慮した消火剤の開発 (油火災用) 3 産学官連携 | 配布プリントの見直し |
| 14 | 産学官連携の意義 | レポートの作成 | |
| 15 | 消火活動と環境政策 | | |
| 16 | | | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。参考書がある場合は、随時紹介する。</p> | | |
| 学びの手立て | <p>1) 火災の種類 (一般建物火災、林野火災、泥炭火災、油火災) について調べる。 2) 消火剤の種類について調べる。 3) 産学官連携の事例 (内閣府「産学官連携功労者表彰」など) について調べる。</p> | | |
| 評価 | <p>平常点 (30%) : 講義中に、積極的に議論に参加したかどうかを評価します。 レポート (70%) : 講義内容の理解度と、根拠資料に基づいて自分の意見を記述しているかを評価します。</p> | | |

| | |
|-------|----------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
| | 環境政策論I・環境政策論II |

| | | | | |
|--------|--------------------|------|----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境政策特別講義Ⅱ（環境と経済政策） | 集中 | 集中 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -上江洲 一也 | 3年 | uezu@kitakyu-u.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>一般建物火災、林野火災、泥炭火災、油火災などの火災は、人命、財産および資源に多大な損害を与えるだけでなく、無視できないCO2発生源である。したがって、消火活動は、災害を軽減するだけでなく、地球環境の改善にも貢献するものである。消火技術の進化と普及における産学官連携について理解を深め、技術開発と環境政策について考える。</p> | <p>2003年より、世界に先駆けて産学官連携による「石けん系環境保全型泡消火剤の開発」に取り組んでいます。この研究開発の過程で築いてきた異分野融合の共同研究体制は、技術開発だけでなく、消火活動のあり方を大きく変革する基盤となっています。先進的な取り組みを継続していくために必要なことについて議論できればと思います。</p> |
| 到達目標 | <p>1) 火災と消火活動が環境に与える影響について理解する 2) 消火性能と環境性能を両立するための課題について理解する 3) 先進的な取り組みを継続するため産学官それぞれの役割について理解する 4) 消火活動に関する国や自治体の政策について理解する</p> | |

| | | | |
|-------|-----------|-----------------------------|------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 火災と地球環境 | 事前配布資料の熟読 |
| | 2 | 環境に配慮した消火剤の開発（一般建物用）1 消火性能 | 配布プリントの見直し |
| | 3 | 環境に配慮した消火剤の開発（一般建物用）2 環境性能 | 配布プリントの見直し |
| | 4 | 環境に配慮した消火剤の開発（一般建物用）3 産学官連携 | レポートの作成 |
| | 5 | 環境に配慮した消火剤の開発（林野火災用）1 消火性能 | 配布プリントの見直し |
| | 6 | 環境に配慮した消火剤の開発（林野火災用）2 環境性能 | 配布プリントの見直し |
| | 7 | 環境に配慮した消火剤の開発（林野火災用）3 産学官連携 | 配布プリントの見直し |
| | 8 | 環境に配慮した消火剤の開発（泥炭火災用）1 消火性能 | 配布プリントの見直し |
| | 9 | 環境に配慮した消火剤の開発（泥炭火災用）2 環境性能 | 配布プリントの見直し |
| | 10 | 環境に配慮した消火剤の開発（泥炭火災用）3 産学官連携 | レポートの作成 |
| | 11 | 環境に配慮した消火剤の開発（油火災用）1 消火性能 | 配布プリントの見直し |
| | 12 | 環境に配慮した消火剤の開発（油火災用）2 環境性能 | 配布プリントの見直し |
| | 13 | 環境に配慮した消火剤の開発（油火災用）3 産学官連携 | 配布プリントの見直し |
| | 14 | 産学官連携の意義 | 配布プリントの見直し |
| 15 | 消火活動と環境政策 | レポートの作成 | |
| 16 | | | |

テキスト・参考文献・資料など
 テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。参考書がある場合は、随時紹介する。

学びの手立て
 1) 火災の種類（一般建物火災、林野火災、泥炭火災、油火災）について調べる。
 2) 消火剤の種類について調べる。
 3) 産学官連携の事例（内閣府「産学官連携功労者表彰」など）について調べる。

評価
 平常点（30%）：講義中に、積極的に議論に参加したかどうかを評価します。
 レポート（70%）：講義内容の理解度と、根拠資料に基づいて自分の意見を記述しているかを評価します。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 環境政策論Ⅰ・環境政策論Ⅱ

| | | | | |
|--------|---------|------|-----------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境政策論 I | 前期 | 月 3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -富田 宏 | 2年 | 講義終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>私たちの生活はさまざまな自然の恵みによって支えられている。生物多様性の保全是、私たちの社会が将来にわたって豊かな自然の恵みを楽しむ、持続的な発展を実現することを目指している。本講義では生物多様性に関する環境政策を理解するため、その基本的となる生物学的な考え方、私たちの社会との関わり、多様な主体による保全の実践、持続可能な社会の在り方について説明する。</p> | <p>海辺で見つけたいろいろな貝殻、森で出会った不思議な昆虫や鳥、きれいな草花。そうした記憶・体験こそが生物多様性の姿である。近年、地球上の生物多様性は急速に失われている。しかし、大切な自然を守るだけで生物多様性の保全ではない。生物多様性の恵みを将来にわたって享受できるように、社会そのものが発展を遂げなければならない。そこで環境政策が担う役割は大きい。</p> |
| 到達目標 | <p>本講義では環境政策との関連を意識しながら「生物多様性の保全」について学習する。生物多様性という概念の理解には、基礎となる考え方を学ぶ必要がある。はじめに生物多様性の創出機構について理解を深め、根本的な問いである「生物多様性とは何か」について答えてほしい。次に、私たちの生活・社会は生物多様性と深い関わりを持ち、さまざまな恵みを楽しんでいる。こうした生物多様性と私たちの社会を結ぶつながりを生態系サービスと呼ぶ。生態系サービスについて理解し「生物多様性を保全する意味や価値」について自ら考察できるようになってほしい。最後に、私たちは社会の一員として、生物多様性を保全し持続可能な社会を実現する役割を担っている。討論や合意形成のデモンストレーションをとおして自ら主体的に生物多様性保全に関わる方法を見つけてほしい。</p> | |

| | | | |
|-------|-------------------|-----------------------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス：生物多様性って何だろう | |
| | 2 | 生物多様性の創出機構：自然選択・適応・種分化 | |
| | 3 | 生物多様性の階層制：遺伝子・種・生態系 | |
| | 4 | 生態系サービス：生物多様性と私たちの社会 | |
| | 5 | 生物多様性の保全と環境経済学 | |
| | 6 | 生物多様性保全の実際1：国際条約(生物多様性条約・ラムサール条約) | |
| | 7 | 生物多様性保全の実際2：企業と生物多様性の保全 | |
| | 8 | 生物多様性保全の実際3：市民・NPOによる生物多様性の保全 | |
| | 9 | 生物多様性保全の実際4：地域行政とまちづくり(日本の事例) | |
| | 10 | 生物多様性保全の実際5：地域行政とまちづくり(海外の事例) | |
| | 11 | 生物多様性保全の実際7：森林資源の持続的利用 | |
| | 12 | 生物多様性保全の実際7：生物多様性の保全における合意形成 | |
| | 13 | ディスカッション1 有明海の保全 | |
| | 14 | ディスカッション2 国境を越えて旅する渡り鳥の保全 | |
| 15 | まとめ 持続的な社会の実現に向けて | | |
| 16 | | | |

| | |
|----|---|
| 実践 | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>鷲谷いつみ, 矢原徹一. "保全生態学入門: 文一総合出版." (1996): 270.</p> |
|----|---|

| | |
|--------|---|
| 学びの手立て | <p>本講義は生物多様性がテーマとなっている。生物の進化などの話題などを扱うが、生物学の講義を受講していることは前提とせず基礎的な事柄から解説を行う。この講義をとして生き物や自然環境に関心を持つきっかけとなるようにしたい。また既に環境政策、生物多様性・自然環境の保全に関心を持つ受講者にとっても有意義な講義となるよう、最新の事例、現場で活動する方々の声を多く紹介したい。</p> |
|--------|---|

| | |
|----|---|
| 評価 | <p>1) 講義で扱ったトピックやキーワードについて正しく理解しているかを問う小レポート(200-400字程度)を毎回の講義で課す(計12回: 40%)。小レポートはできるだけ講義の時間内で書き終わるように講義の時間配分を行う。期末にはレポート(800-1200字程度)を課す(計1回: 40%)。2) 講義では少人数のグループでのディスカッションを複数回行う。ディスカッションへの積極的な参加、よく考えられた意見を評価する(計2回: 20%)。</p> |
|----|---|

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>生物多様性の消失や地球規模の気候変動が顕在化するなか「私たちの社会はどのように発展していくべきか」が問われています。逆説的ですが、生物多様性を保全する意味、方法、目的はこの問いと不可分なものであることがわかります。受講後はこの問いに関心を持ち、探求してほしいと思います。</p> |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|--------|------|----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境政策論Ⅱ | 後期 | 月3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 砂川 かおり | 2年 | ksunagawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すために必要な環境政策の基礎的な考え方について理解を深める。 | メッセージ 本講義では、環境法政策の基礎を学びつつ、沖縄県における環境問題に係る政策の現状、課題、そして解決のためのヒントについて考えてきます。環境政策について積極的に学びたい学生さんに向けています。 |
| | 到達目標 本講義では、環境法政策の目的、原則、環境問題の性質に応じた解決のためのアプローチ、手法、ポリシーミックスのあり方について理解を深める。その上で、それらの知識を基に、沖縄県における環境問題に係る政策を批判的かつ建設的に検証し、より良い政策提言ができる力を身につけることを目的としている。 | |

| | | | |
|-------|---|--|----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス、環境政策の意義について | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 2 | 環境法政策の基本的考え方の体系の概要、目的（1）「調和条項」から「持続可能な発展」へ | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 3 | 環境法政策の目的（2）環境権・環境公益 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 4 | 環境法政策の基本的考え方（1）環境責任のあり方 ー汚染者負担原則 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 5 | 環境法政策の基本的考え方（1）環境責任のあり方 ー拡大生産者責任 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 6 | 環境法政策の基本的考え方（2）環境リスク管理のあり方 ー未然防止的・予防的アプローチ | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 7 | 環境法政策の基本的考え方（2）環境リスク管理のあり方 ー環境比例原則 等 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 8 | 環境法政策の基本的考え方（3）環境ガバナンスのあり方 ー国と自治体の役割分担 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| 9 | 環境法政策の基本的考え方（3）環境ガバナンスのあり方 ー議会と審議会、市民参加 | 配布資料を読んで、復習する。 | |
| 10 | 環境規制の法的アプローチ | 配布資料を読んで、復習する。 | |
| 11 | 環境政策の手法、政策手段の活用と組合せ～ポリシーミックス、規制範囲決定にあたっての考慮事項 | 配布資料を読んで、復習する。 | |
| 12 | 赤土等流出問題への効果的なポリシーミックスとは何か？（1） | 配布資料を読んで、復習する。 | |
| 13 | 赤土等流出問題への効果的なポリシーミックスとは何か？（2） | 配布資料を読んで、復習する。 | |
| 14 | 環境問題の解決策を何に求めるか | 配布資料を読んで、復習する。 | |
| 15 | まとめ・授業評価アンケート | 期末試験に備えて、復習する。 | |
| 16 | 期末試験 | 試験内容を振り返り、復習する。 | |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。随時資料を配布する。 参考文献は、適宜紹介する。 | | |
| | 学びの手立て ・授業に毎回出席し、講義を聞きながら、配布プリントを完成させること。 ・毎回、課題は提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 | | |
| | 評価 1/3以上の欠席及び、1/3以上の課題未提出の者は不可。 リアクションペーパー（15%）、課題（15%）、期末試験（70%）により評価します。 | | |

| | |
|-------|----------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「環境法」 |
|-------|----------------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境統計学Ⅰ | 前期 | 火1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 友知 政樹 | 1年 | メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 本講義の目的は、様々な統計指標やグラフ、さらには基本的統計量などの読み方や算出方法などについて学ぶことである。具体的には、経済学部・地域環境政策学科で学んでいく際に重要な統計指標の理解を含め、記述統計学の基礎概念を全般的に学ぶ。 | メッセージ 統計学は必要不可欠な学問です。 |
| | 到達目標 記述統計学をマスターすること。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 01 講義ガイダンス 02 様々な統計指標とグラフ（1） 03 様々な統計指標とグラフ（2） 04 様々な統計指標とグラフ（3） 05 基本統計量（1）代表値①（平均値、中央値、最頻値） 06 基本統計量（2）代表値②（平均値、中央値、最頻値） 07 基本統計量（3）分散、標準偏差、変動係数 08 基本統計量（4）分散、標準偏差、変動係数 09 基本統計量（5）度数分布表、ヒストグラム 10 基本統計量（6）度数分布表、ヒストグラム 11 基本統計量（7）相関関係と因果関係、相関係数、擬似相関 12 基本統計量（8）相関関係と因果関係、相関係数、擬似相関 13 基本統計量（9）クロス集計 14 総まとめ① 15 総まとめ② 16 最終試験 |
| | テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時資料を配布する。 ・統計学の基礎、河野光雄・友知政樹共著、牧野書店（¥1,900+税） ・統計でウソをつく法（数式を使わない統計学入門）ダレル・ハフ著、高木秀玄訳、講談社（¥880+税） |
| | 学びの手立て 毎回出席すること。 |
| | 評価 出席状況、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。 |

| | |
|-------|-----------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 環境統計学Ⅱ |
|-------|-----------------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境統計学Ⅱ | 後期 | 火1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 友知 政樹 | 1年 | メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 本講義の目的は、統計的データの分析に必要な確率論の基礎や、推定・検定統計学、さらには相関係数や単回帰分析の手法の基本的概念を習得することである。 | メッセージ 統計学は必要不可欠な学問です。 |
| | 到達目標 基礎確率論をマスターすること。 推計統計学をマスターすること。 | |

| | | | |
|-------|---|----------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | |
| | 2 | 記述統計学の復習（1） | |
| | 3 | 記述統計学の復習（2） | |
| | 4 | 確率論の基礎（1） | |
| | 5 | 確率論の基礎（2） | |
| | 6 | 標本調査と中心極限定理 | |
| | 7 | データの標準化と標準正規分布 | |
| | 8 | 点推定と区間推定（1） | |
| | 9 | 点推定と区間推定（2） | |
| | 10 | 統計的仮説の検定（1） | |
| | 11 | 統計的仮説の検定（2） | |
| | 12 | 相関係数、単回帰分析 | |
| | 13 | 単回帰分析、回帰係数の検定 | |
| | 14 | 総まとめ | |
| | 15 | 最終試験 | |
| | 16 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など 未定 ・統計学の基礎、河野光雄・友知政樹共著、牧野書店（¥1,900+税）。・統計でウソをつく法（数式を使わない統計学入門）ダレル・ハフ著、高木秀玄訳、講談社（¥880+税）。 | | |
| | 学びの手立て 毎回出席すること。 | | |
| | 評価 評価方法 出席状況、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。 | | |

| | |
|-------|------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 統計情報処理Ⅰ |
|-------|------------------------|

| | | | | |
|--------|---------|------|-----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境評価実践論 | 後期 | 木1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 3年 | t. toguchi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 環境問題を解決する上で、環境に対する便益や費用を適正に評価することが求められています。 授業では環境評価の主要な分析方法を重回帰分析から共分散構造分析まで、計量ソフトAMOSを使いながら実践的に学びます。 | メッセージ 統計学の基礎から復習を行い、計量ソフトの使い方を中心に学習していきます。卒業論文などででの分析に役立ててください。 |
| | 到達目標 ・初歩の計量分析をEXCELで実行できるようになる。 ・アンケート等の質的データを分析できるようになる。 ・計量ソフトAMOSを使用できるようになる。 | |

| | | | |
|-------|--|------------------------|--------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 統計学の復習（基本統計量について） | 統計学の復習 |
| | 2 | 統計学の復習（回帰分析について） | |
| | 3 | 統計学の復習（重回帰分析について） | |
| | 4 | データの扱いと注意点 | 「授業共有ファイル」参照 |
| | 5 | 重回帰分析の実践 | |
| | 6 | アンケートデータ（質的データ）の扱いと注意点 | |
| | 7 | 尺度データの扱いについて | |
| | 8 | 主成分分析の実践 | |
| | 9 | 因子分析の実践 | |
| | 10 | 計量ソフトAMOSでの分析方法 | SPSS[AMOS]の操作ガイド参照 |
| | 11 | 分析モデルの作成方法 | 「授業共有ファイル」参照 |
| | 12 | 多重指標モデルについて | |
| | 13 | アンケートを用いた心的評価の方法 | |
| | 14 | 共分散構造分析の仕組み | |
| 15 | 共分散構造分析の実践 | | |
| 16 | 共分散構造分析の応用 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など 参考文献：栗山浩一『環境の価値と評価方法』，豊田秀樹『共分散構造分析[入門編]』 | | |
| | 学びの手立て ・授業毎にEXCELファイルを用意しているので、大学ポータル「授業共有ファイル」からダウンロードして受講してもらおう。 ・「授業共有ファイル」にあるEXCELファイルを保存できるUSBやクラウドがあることが望ましい。 ・授業毎に完結した授業構成にしているが、計量分析は積み重ねなので続けて受講することが望ましい。 | | |
| | 評価 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 ・テスト内容はEXCELや計量ソフトAMOSを使用して計量分析を行う。 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 ・授業は計量分析のテクニカルな部分を中心であることから、理論となる「経済学」や「環境経済学」を理解して実証分析に役立てて欲しい。 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境評価入門 | 前期 | 木1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 3年 | t. toguchi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 私たちは身の回りに存在する様々な自然環境を享受していますが、経済活動の拡大とともに環境問題も発生しています。環境問題を抑制するために一定の費用を計上する必要があります。授業では環境対策の考え方と環境評価に必要な基礎統計を中心に説明していきます。 | メッセージ 統計学の基礎から復習を行い、EXCELの分析ツールや計量ソフトの使い方を含めて学習していきます。 |
| | 到達目標 ・環境問題と環境評価の扱いについて学ぶ。 ・初歩の計量分析をEXCELで実行できるようになる。 ・計量ソフトの使い方を学べる。 | |

| | | | |
|-------|--|-----------------------|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 環境問題と環境コスト | 「授業共有ファイル」参照 |
| | 2 | 環境問題と外部不経済 | 同上 |
| | 3 | 環境対策と環境政策、その費用対効果について | |
| | 4 | 環境政策と環境評価の方法 | |
| | 5 | 統計学の復習 | |
| | 6 | 環境測定値の扱い（度数分布） | |
| | 7 | 環境測定値の扱い（正規分布） | |
| | 8 | 環境測定値の扱い（対数分布） | |
| 9 | 環境測定値の扱い（相関分析） | | |
| 10 | 環境統計（回帰分析） | | |
| 11 | 環境統計（重回帰分析） | | |
| 12 | 環境統計（多重共線性について） | | |
| 13 | 環境コストの負担問題（共有地問題） | | |
| 14 | 環境コストの負担問題（ゲーム戦略） | | |
| 15 | 環境コストの意思決定モデル | | |
| 16 | 前期期末試験 | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 参考文献：鷺田豊明『環境評価入門』 | | |
| | 学びの手立て ・授業毎にEXCELファイルを用意しているので、大学ポータルの「授業共有ファイル」からダウンロードして受講してもらおう。 ・「授業共有ファイル」にあるEXCELファイルを保存できるUSBやクラウドがあることが望ましい。 ・授業毎に完結した授業構成にしているが、統計学は積み重ねなので続けて受講することが望ましい。 | | |
| | 評価 ・テスト内容はEXCELとAMOSを使用して計量分析を行う。 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 ・テスト内容はEXCELと計量ソフトを使用して計量分析を行う。 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 ・授業は環境経済学の知識を学習したのち、環境評価に必要な統計学と初歩の計量分析が中心になります。そのため、「マイクロ経済学」や「統計学」の復習も併せて行って欲しい。 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|---------------|------------|-------------------------------------|---------|
| 科目基本情報 | 科目名 環境文化論 | 期別 前期 | 曜日・時限 火2 | 単位 2 |
| | 担当者 砂川 かおり | 対象年次 2年 | 授業に関する問い合わせ ksunagawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 地域社会にとって望ましい環境水準を維持し、あるいは創造していくための基礎となる、沖縄の地史、特に琉球王国～現在に至る沖縄の都市・地域計画や暮らし方、文化についての理解を深める。それによって、持続可能な暮らし方の実践者、自然と調和した持続可能な社会や文化継承の担い手としての素地を身に着ける。 | メッセージ 風景や風水、年中行事、衣食住などの暮らしや文化の中に見られる自然とのつながりについて、あなたの通常のライフスタイルをチェックしながら、一緒に考えてみませんか。 |
| | 到達目標 風景や風水、年中行事、衣食住などの暮らしや文化の中に見られる自然とつながりについて、受講生の通常のライフスタイルをチェックしながら、持続可能な暮らし方を実践すること、自然と調和した持続可能な社会や文化継承の意義やその実践方法について自らで考え、提案できるようになる。 | |

| | | | |
|-------|---|---|----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 「環境と文化」を一緒に考えることの意味は？ | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 2 | 旧暦のある暮らし。レポート（1）のテーマ発表 | レポート（1）を作成する。 |
| | 3 | 年中行事 | レポート（1）の完成 |
| | 4 | 文化としての「沖縄のジュゴン」、レポート（1）提出 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 5 | 島の成り立ちと琉球列島特有の環境（その1） 気候、季節風、島の成り立ち、土壌。 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 6 | 島の成り立ちと琉球列島特有の環境（その2） 土壌とやちむん。風水について。 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 7 | 風水思想と沖縄（1）琉球王府と風水。 蔡温の風水による国づくり。 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 8 | 風水思想と沖縄（2）沖縄の墓地風水。沖縄の「村落風水」に見る環境創造と保全等。 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 9 | 近世琉球の発展と環境危機。 蔡温の資源管理。 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 10 | 近代沖縄に見る環境と文化：山の資源管理と杣山処分。海の資源管理と漁業権等。 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 11 | 沖縄の染織 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 12 | 沖縄の民族・言語。 最終レポートのテーマ発表 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 13 | 沖縄の食文化 | 最終レポート作成 |
| | 14 | 内部被ばくについて | 環境にやさしいお弁当作り |
| | 15 | 遺伝子組み換え作物について。環境にやさしいお弁当持参・説明文（写真入り）提出 | 最終レポート作成 |
| | 16 | まとめ、授業評価アンケート。 最終レポート提出 | 前期の授業の振り返り |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。随時資料を配布する。 参考文献は、適宜紹介する。 | | |
| | 学びの手立て ・講義を受講し、毎回、授業で出される問題を回答し、提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 | | |
| | 評価 1/3以上欠席の者は不可。 評価の配分：授業参加度・宿題（40%）＋レポート（1）（20%）＋環境にやさしいお弁当（10%） ＋最終レポート（30%） | | |

| | |
|-------|-------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
|-------|-------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 環境法 | 前期 | 月3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 砂川 かおり | 2年 | ksunagawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すために必要な環境法の基礎的な考え方について理解を深める。 | メッセージ 環境法について基本的な考え方を学びながら、授業では時事問題も取り上げるため、新聞等のニュースも確認してください。 |
| | 到達目標 本講義では、環境法の目的、基本的な考え方や法制度について、これまでの理論的蓄積やアプローチ、判例等を基に学んでいく。また、環境問題を解決する一つの手法として、環境訴訟の要件や判例等への理解を深めることで、環境に係る法的問題点の抽出、解決方法等について考え、分析できる能力を身に付けることを目的としている。 | |

| | | | |
|-------|--|--|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス/環境法の意義について | 復習し、演習課題をする。 |
| | 2 | 環境法における「環境」、現代環境法が対応すべき事象、環境法の存在形態等 | 復習し、演習課題をする。 |
| | 3 | 環境問題への民事法的・行政法的対応、三極関係としての環境法関係等 | 復習し、演習課題をする。 |
| | 4 | 環境法の基本的考え方の体系の概要、環境法の目的（1）等 | 復習し、演習課題をする。 |
| | 5 | 環境法の目的（2）：環境権・環境公益 | 復習し、演習課題をする。 |
| | 6 | 環境法の基本的考え方（1）環境責任のあり方 ー汚染者負担原則 | 復習し、演習課題をする。 |
| | 7 | 環境法の基本的考え方（1）環境責任のあり方 ー拡大生産者責任 | 復習し、演習課題をする。 |
| | 8 | 環境法の基本的考え方（2）環境リスク管理のあり方 未然防止的アプローチ・予防的アプローチ | 復習し、演習課題をする。 |
| 9 | 環境法の基本的考え方（2）環境リスク管理のあり方 環境比例原則 等 | 復習し、演習課題をする。 | |
| 10 | 環境法の基本的考え方（3）環境ガバナンスのあり方/環境民主主義について | 復習し、演習課題をする。 | |
| 11 | 公害と企業の責任、環境汚染防止のための法システム、環境法の執行の実際 | 復習し、演習課題をする。 | |
| 12 | 環境影響評価法・沖縄県環境影響評価条例/米国でのジュゴン訴訟について | 復習し、演習課題をする。 | |
| 13 | 環境公害訴訟（1）民事訴訟 | 復習し、演習課題をする。 | |
| 14 | 環境公害訴訟（2）行政訴訟 | 復習し、演習課題をする。 | |
| 15 | まとめ・授業評価アンケート | 期末試験に備えて、復習する。 | |
| 16 | 期末試験 | 試験内容を振り返り、復習する。 | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。随時資料を配布する。 参考文献：①畠山武道、北村喜宣、大塚直（2007）『環境法の入門』（日本経済新聞出版社）、②北村喜宣（2013）『現代環境法の諸相』（財団法人 放送大学教育振興会）、③交告尚史 他（2012）『環境法入門 第2版』（有斐閣アルマ）、その他 適宜案内する。 | | |
| | 学びの手立て ・授業に毎回出席し、講義を聞きながら、配布プリントを完成させること。 ・毎回、課題は提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 | | |
| | 評価 1/3以上の欠席及び、1/3以上の課題未提出の者は不可。 リアクションペーパー（15%）、課題（15%）、期末試験（70%）により評価します。 | | |

| | |
|-------|--------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「環境政策論II」 |
|-------|--------------------------|

| | | | | |
|--------|--------------|------|-------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 観光経済論 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 担当者 上江洲 薫 | 前期 | 金 2 | 2 |
| | | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | | 3年 | 研究室 5-632 kuezu@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 観光経済学は、観光事象の経済的側面に関する理解や分析の為に経済学または経済学の分析道具を適用しようとする応用経済学の一分野である。本講義では観光客の行動や観光地開発などによる経済効果の現状を理解するとともに、観光による地域活性化の取り組みやその課題などについて考える。 | メッセージ 観光産業や地域振興などに興味がある学生を広く歓迎します。観光地や観光産業における課題を解決するための意見を歓迎しますので、積極的に講義に参加して下さい。 |
| | 到達目標 ①観光による経済効果や地域活性化、観光商品、観光価格、観光投資などに関する専門知識を事例を挙げながら説明できる。 ②観光地の取り組み事例等に自分自身の意見を述べる事ができる。 ③観光地活性化策の提案する事ができる。 | |

| | | | |
|-------|--|---|----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義説明 | |
| | 2 | 観光の現状と経済効果①：国際観光と国内観光の現状、観光の経済効果の概要など | 参考文献：①と④を読む |
| | 3 | 観光の現状と経済効果②：経済効果の事例、討論「他産業より観光振興を推進すべきか」 | 討論の意見をまとめ、提出準備 |
| | 4 | 観光地の活性化①：観光による活性化の特徴、地域資源の活用 | 参考文献：⑥を読む |
| | 5 | 観光地の活性化②：着地型観光の特徴と取り組み事例 | 同上 |
| | 6 | 観光地の活性化③：コミュニティビジネスによる地域振興 | 企画発表の準備 |
| | 7 | 観光によるコミュニティビジネスの企画・立案・発表（各自） | 企画の修正 |
| | 8 | 観光地の活性化④：地域ブランディングによる地域振興 | 参考文献：⑥を読む |
| | 9 | 観光と自然環境：エコツアーの効果と影響、環境収容能力、討論「どのガイドを優先すべきか」 | 討論の意見をまとめ、提出準備 |
| | 10 | 観光商品の特徴と需要関係：観光商品の概念・特徴・構成要素、観光需要の法則と弾力性 | 参考文献：⑦を読む |
| | 11 | 観光価格①：観光価格の概要・決定メカニズム・設定目標、観光商品の価格戦略 | 同上 |
| | 12 | 観光価格②：観光価格の具体的設定法、観光商品の差別価格戦略 | 同上 |
| | 13 | 観光投資①：観光投資の概要・投資基準、観光費用の分析 | 同上 |
| | 14 | 観光投資②：観光投資リスクと投資決定、観光投資案件の評価法 | 同上 |
| 15 | 観光課税：種類と特徴、導入理由、討論「観光税の導入は必要か」 | 討論の意見をまとめ、提出準備 | |
| 16 | 試験 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など テキスト：特に指定はない。適宜レジュメを配布する。 参考文献：①ジェームズ・マック(2005)『観光経済学入門』日本評論社。②角本伸晃(2011)『観光による地域活性化の経済分析』成文堂。③中崎 茂(2002)『観光の経済学入門—観光・環境・交通と経済の関わり』古今書院。④マーティン・オッパーマンほか(1999)『途上国開発論』学文社。⑤アラン・ウィリアムスほか(1992)『観光と経済開発』成山堂書店。⑥敷田麻実ほか(2009)『観光の地域ブランディング』学芸出版社。⑦河村誠治(2000)『観光経済学の基礎』九州大学出版会。 | | |
| | 学びの手立て 履修の心構え：本講義は観光地の紹介や楽しみ方を説明しないため、そのことを理解した上で受講して下さい。 途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。 学びを深めるために：観光に関する新聞を読んだり、観光庁 http://www.mlit.go.jp/kankocho/ のWebサイトをみることを推奨する。 | | |
| | 評価 テスト(40%)：上記の到達目標の①を評価します。 平常点(30%)：講義やDVD視聴の感想、講義への参加姿勢を評価します。 課題・レポート(30%)：コミュニティビジネスの企画・立案・発表、授業内容の討論内容の意見を評価します。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 次のステージ：観光を視点に地域活性化や経済効果など学んでいるため、観光以外でも地域的課題を解決できるようにしたい。 関連科目：「観光情報論」「沖縄の観光」は受講して欲しい。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|---------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 観光情報論 | 後期 | 金 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 根路銘 もえ子 | 3年 | nerome@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 本講義は、観光情報メディアとしてのインターネット、観光情報収集・観光情報提供システムについて学習することによって、今後、観光情報をどのように収集し、提供すれば良いかを考える。仮登録者数が上限を超えた場合「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。 | メッセージ 沖縄経済を支える観光産業において、どのようにITを活用できるかを考えていきましょう。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。 |
| | 到達目標 ・観光産業におけるIT活用動向について理解できる。 ・IT活用方法について自ら調べ、わかりやすく説明できる。 | |

| | | | |
|-------|--|--------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | |
| | 2 | 観光情報とは (1) | 観光情報に関する調べ学習 |
| | 3 | 観光情報とは (2) | 観光情報に関する調べ学習 |
| | 4 | 観光空間情報とは (1) | 観光空間情報に関する調べ学習 |
| | 5 | 観光空間情報とは (2) | 観光空間情報に関する調べ学習 |
| | 6 | 観光情報産業 | 観光情報産業に関する調べ学習 |
| | 7 | 観光情報とインターネット | インターネット学習 |
| | 8 | インターネットによる情報提供 (1) | 旅行会社の取組に関する調べ学習 |
| 9 | インターネットによる情報提供 (2) | 旅行サイトの取組に関する調べ学習 | |
| 10 | 旅行プランの作成 (1) | 旅行プラン作成課題 | |
| 11 | 旅行プランの作成 (2) | 旅行プラン作成課題 | |
| 12 | Google Maps | Google Maps 演習 | |
| 13 | 観光情報提供システム (1) | ARに関する調べ学習 | |
| 14 | 観光情報提供システム (2) | APIに関する調べ学習 | |
| 15 | 期末試験 | | |
| 16 | まとめ | | |
| | テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 テキストは使用しません。講義中にレジメを配布する。 【参考文献】 観光学入門，岡本伸之編，有斐閣アルマ，2001. Google Maps Hacks，ギブソン リッチ，アール スカイラー著，オーム社，2007. ARのすべて，日経コミュニケーション編，日経BP，2009. 他講義時に紹介する。 | | |
| | 学びの手立て 履修の心構え ・講義内容および課題は各回毎に異なるため、毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。 学びを深めるために ・業界の動き等も紹介するため、新聞記事を読むことも講義の学びを深める助けになる。 | | |
| | 評価 平常点（講義への取組）10%、課題点（課題の内容、課題の提出）20%、期末試験70%。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：共通科目の「沖縄の観光」、専門選択科目の「観光経済論」を履修すると、より沖縄の観光業界について理解が深まる事でしょう。 (2) 次のステージ：講義で学んだことを踏まえて、卒業研究および社会へ活かして下さい。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--|---|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習 I | 前期 | 木 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 前泊 博盛 | 1 年 | メールで対応。下記のメールアドレスへ。 hmaeomari@okiu.ac.jp | |
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・大学のしくみを知る。 ・大学での基本的な学習方法を学びます。 ・メールの送受信、レポートの書き方、データの収集と整理法。 ・読み（専門書）、書き（論文）、話す（発表）の基本的な力を身に着けます。 ・大学生活をより充実させるため学生、教員との親睦を深める。 | 基礎演習の担当教官は、アカデミック・アドバイザー（AA）と呼ばれます。高校の学級担任と似ています。大学生活で迷ったら、真っ先に、なんでも相談してください。 | | |
| 学びの実践 | 到達目標 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ①基本的な論文、レポートの書き方を理解する。 ②経済の基本理論を理解する。 ③経済の専門書を含め「読む」習慣を身に着ける。 ④基本的な経済の専門用語を理解する。 ⑤自分自身の人生設計、将来ビジョンを描く。 | | | |
| 学びの継続 | 学びのヒント | 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） | | |
| | | 1：オリエンテーション 2：スカベンジャー・ハント 3：指定図書課題「大学生活ナビ」について報告 4：図書館オリエンテーション 5：プレゼンテーション（他社紹介） 6：テーマ学習（1）チーム編成 7：テーマ学習（2）基本データの収集 8：テーマ学習（3）課題分析 9：テーマ学習（4）課題解決策の調査・研究 10：国際交流会 11：フィールドワーク（1） 12：フィールドワーク（2） 13：フィールドワーク（3） 14：キャリアセミナー（就職講座） 15：個人面談（将来ビジョン） 16：個人面談（大学4年間の計画） ※株投資研究＝日本経済新聞を読む。 | | |
| | | 夏季休暇 指定図書レポート① | | |
| | | テキスト・参考文献・資料など 参考文献①「大学生活ナビ」（玉川大学出版部）②「伝える力」（池上彰著）③「大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法」（玉川大学出版部）④「沖縄と米軍基地」（前泊博盛、角川新書）⑤「もっと知りたい！本当の沖縄」（前泊博盛著、岩波ブックレット）ほか。 指定図書 ①「経済学30の理論」（ちくま新書）②「ピケティの21世紀の資本」（イースト新書Q） | | |
| | 学びの手立て | 基本書、参考文献、指定図書をしっかり読んで、読書感想文（サマリー）ノートをつけてください。 大学4年間で読まなければならない本100冊をリストアップ。読書計画を立てていきましょう。 | | |
| | 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・出席を重視。3回欠席で「不可」。欠席時には「欠席届」を必ず提出。 ・ゼミ中の発言、レポートなどで総合的に評価。 | | |
| | 次のステージ・関連科目 | ①沖縄経済論 I、II ②島嶼経済論 I、II ③近代・現代沖縄経済史 | | |

※ポリシーとの関連性 基礎演習Ⅰを通して、社会におけるさまざまな価値観を受け入れ、それに対応するための基礎力を培います。

[/演習]

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習Ⅰ | 前期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 上江洲 律子 | 1年 | オフィス・アワー（木曜4校時）に、5号館436研究室で対応します。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | さまざまな価値観との出会いの始まりとして、学生同士だけではなく学生と教員がコミュニケーションを行える場となることを目的とします。 | 知らないもの、慣れていないもの、変わったものに触れるのは不安なことです。でも、そこに触れることで初めて、新しい世界への窓が開かれるものです。一緒に、まだ見ぬ世界を見に行きましょう。 |

| | |
|------|---|
| 到達目標 | 「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」は大学生にとって必要な5つの力です。基礎演習Ⅰでは、まず、個人でこの力を身につけることを目標とします。 |
|------|---|

| | | | |
|-------|-------------------|-------------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンスと自己紹介 | 課題 |
| | 2 | 他者紹介 | 課題 |
| | 3 | フレッシュマンテスト | 課題 |
| | 4 | キャンパスライフシートとメールのレッスン | 課題 |
| | 5 | 図書館オリエンテーション（合同）※日程変更有り | 課題 |
| | 6 | ノートテイクのレッスン | 課題 |
| | 7 | 留学セミナー（合同） | 課題 |
| | 8 | 要約のレッスン（1） | 課題 |
| | 9 | 要約のレッスン（2） | 課題 |
| | 10 | 要約のレッスン（3） | 課題 |
| | 11 | 書評のレッスン基礎編（1） | 課題 |
| | 12 | キャリアセミナー（合同） | 課題 |
| | 13 | 書評のレッスン基礎編（2） | 課題 |
| | 14 | 書評のレッスン基礎編（3） | 課題 |
| 15 | 書評のレッスン基礎編（4）とまとめ | 課題 | |
| 16 | | | |

| | |
|----------------|---|
| テキスト・参考文献・資料など | 授業内で必要に応じてプリントを配付します。 ※参考文献についても授業内で必要に応じて紹介します。 |
|----------------|---|

| | |
|--------|--|
| 学びの手立て | 読書や映画鑑賞、スポーツや旅行、人や人が表現したものであれば、どういったものでも構いません。大学以外の場で、さまざまな感性に触れる機会を意識的に作るようにして下さい。そして、その際に自分の内に生まれた心や思考の動きを言葉にして表すようにして下さい。ささやかでも日々のそうした心掛けが、コミュニケーションの力のゆるぎない礎となります。 |
|--------|--|

| | |
|----|---|
| 評価 | 平常点（40％）と、課題やプレゼンテーションの得点（60％）で評価します。 ※ただし、単位取得のためには、授業における3分の2以上の出席を義務づけます。 |
|----|---|

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅱでは基礎演習Ⅰで身に付けた力をさらに深めます。基礎演習ⅠとⅡを通して、大学生としてのコミュニケーション力の基礎を育みますので、基礎演習Ⅰに引き続いて基礎演習Ⅱを受講して下さい。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性

専門科目を受講する前に、大学生として身につけるべき読解力、表現力等の演習を行う基礎科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|--------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習 I | 前期 | 木 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 齋藤 星耕 | 1年 | 5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 基礎演習では、新入生相互または教員との間でコミュニケーションを深めながら、大学とはどのような場所であるかを知り、学生生活に必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を習得する。また、将来に目を向ける機会とする。 | 大学での学び方を学ぶセミナーです。また、新入生同士が協力しながら課題をこなす中で、お互いを知る機会ともなるでしょう。ぜひ欠席しないで、このセミナーを大学生活のスタートアップの場として活用していきましょう。また大学生活にかかわる様々な疑問についても気軽に教員に相談してください。 |
| 到達目標 | グループで共同して調べたり、議論して集約することが出来る グループで調べた/議論したことに基づいてレジュメを作成することが出来る 調べたこと/考えたことをレポートにまとめることが出来る | |

| | | | |
|-------|----------------|--|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | スカベンジャーハント（学内探索） | |
| | 3 | フレッシュマンテスト | |
| | 4 | 図書館オリエンテーション | |
| | 5 | グループディスカッション | |
| | 6 | 他者紹介&プレゼンテーション | |
| | 7 | 海外・県外インターンシップ報告会兼説明会 | |
| | 8 | グループ学習(1) | |
| | 9 | グループ学習(2) | |
| | 10 | レポートの書き方 | |
| | 11 | フィールドワーク | |
| | 12 | インターンシップ(Gut's+)体験報告会兼説明会 | |
| | 13 | キャリアセミナー | |
| 14 | 個人面談(1) | | |
| 15 | 個人面談(2) | | |
| 16 | 個人面談(3) | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。 | |
| | 学びの手立て | 毎回出席し、やむを得ず欠席の場合には事前に連絡すること。無断欠席はグループでの作業・発表で他のメンバーに迷惑をかけることとなります。 | |
| | 評価 | 出席状況、発表、レポートなどを総合的に評価する。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目：基礎演習 II、地域セミナー、演習 I & II |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 専門科目を受講する前には、基礎科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習 I | 前期 | 木 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋 伊津子 | 1年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 大学生活に適応させる。学生、教員間のコミュニケーションを深める。 | メッセージ 基礎演習で学んだことを今後の大学生活での学習で活かしてください。 |
| | 到達目標 ・レポートを書く上でのルールを身につける。 ・プレゼンテーションの基本を身につける。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの準備 | 到達目標 ・レポートを書く上でのルールを身につける。 ・プレゼンテーションの基本を身につける。 |
|-------|---|

| | | | |
|-------|----------------|----------------------|-------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス、学内オリエンテーリング | シラバスと学生便覧をよく読む |
| | 2 | 他者紹介、自己紹介 | 授業の内容を復習する |
| | 3 | 「キャリアデザインガイドブック」課題発表 | 課題に取り組む |
| | 4 | フレッシュマンテスト | 高校の数学、国語の復習 |
| | 5 | 図書館オリエンテーション | 図書館の案内パンフレットをよく読む |
| | 6 | ノートテイキング練習 | 授業の内容を復習する |
| | 7 | 海外留学セミナー | // |
| | 8 | レポート作成 (1) | // |
| | 9 | レポート作成 (2) | // |
| | 10 | レポート作成 (3) | // |
| | 11 | プレゼンテーション (1) | // |
| | 12 | プレゼンテーション (2) | // |
| | 13 | プレゼンテーション (3) | // |
| | 14 | キャリアセミナー | // |
| | 15 | 学外ゼミ | // |
| 16 | 個人面談 | // | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など 適宜指示します。 入学式の際に配布される「キャリアデザインガイドブック」は最初の課題に使用します。 |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びの手立て やむを得ない事情で欠席する場合は必ず事前にメールしてください。 この授業の担当教員がアカデミックアドバイザーになりますので、大学生活に関する疑問などがあれば、相談してください。 |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 評価 ・レポート (50%)、発表 (50%) 2/3以上の出席がなければ不可になります。 |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「地域セミナー I II」 「演習 I II」 「演習 III IV」 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習 I | 前期 | 木 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 友知 政樹 | 1 年 | メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|----------------------|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 基礎演習のねらいは、新入生と教員がコミュニケーションを深めながら、大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を養うことである。最終的には、個人でレポートを作成し、レジメを作成した上、コンピュータプレゼンテーションをすることを旨とする。 | 一緒に目から血が出るほど勉強しましょう！ |

| | |
|------|---------|
| 到達目標 | ねらいの達成。 |
|------|---------|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|--------------------|-------------------|------------------------------|--------------------|-------------------|--------------------|-----------|--------------------|-------------------|--------------------|-----------------------|--------------------|-----------------------|-----------|----------------|----------------------|------------------|----------------------|-----------|----------------------|--------------------|----------------------|--------------------|----------------------|--------------------|---------------------|--------------------|---------------|------------------|---------------|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <table border="0"> <tr> <td>第01回：ガイダンスと自己紹介</td> <td>第17回：ガイダンスと自己アピール</td> </tr> <tr> <td>第02回：キャンパスライフシートの作成とメールのレッスン</td> <td>第18回：書評のレッスン応用編（1）</td> </tr> <tr> <td>第03回：スカベンジャー・グループ</td> <td>第19回：書評のレッスン応用編（2）</td> </tr> <tr> <td>第04回：他者紹介</td> <td>第20回：書評のレッスン応用編（3）</td> </tr> <tr> <td>第05回：図書館オリエンテーション</td> <td>第21回：書評のレッスン応用編（4）</td> </tr> <tr> <td>第06回：レジメのレッスン・グループ（1）</td> <td>第22回：書評のレッスン応用編（5）</td> </tr> <tr> <td>第07回：レジメのレッスン・グループ（2）</td> <td>第23回：文化活動</td> </tr> <tr> <td>第08回：留学セミナー（1）</td> <td>第24回：PPTプレゼン・グループ（1）</td> </tr> <tr> <td>第09回：ノートテイクのレッスン</td> <td>第25回：PPTプレゼン・グループ（2）</td> </tr> <tr> <td>第10回：学外活動</td> <td>第26回：PPTプレゼン・グループ（3）</td> </tr> <tr> <td>第11回：書評のレッスン基礎編（1）</td> <td>第27回：PPTプレゼン・グループ（4）</td> </tr> <tr> <td>第12回：書評のレッスン基礎編（2）</td> <td>第28回：PPTプレゼン・グループ（5）</td> </tr> <tr> <td>第13回：書評のレッスン基礎編（3）</td> <td>第29回：留学・キャリアセミナー（2）</td> </tr> <tr> <td>第14回：書評のレッスン基礎編（4）</td> <td>第30回：面談・個人（1）</td> </tr> <tr> <td>第15回：キャリアセミナー（1）</td> <td>第31回：面談・個人（2）</td> </tr> </table> | 第01回：ガイダンスと自己紹介 | 第17回：ガイダンスと自己アピール | 第02回：キャンパスライフシートの作成とメールのレッスン | 第18回：書評のレッスン応用編（1） | 第03回：スカベンジャー・グループ | 第19回：書評のレッスン応用編（2） | 第04回：他者紹介 | 第20回：書評のレッスン応用編（3） | 第05回：図書館オリエンテーション | 第21回：書評のレッスン応用編（4） | 第06回：レジメのレッスン・グループ（1） | 第22回：書評のレッスン応用編（5） | 第07回：レジメのレッスン・グループ（2） | 第23回：文化活動 | 第08回：留学セミナー（1） | 第24回：PPTプレゼン・グループ（1） | 第09回：ノートテイクのレッスン | 第25回：PPTプレゼン・グループ（2） | 第10回：学外活動 | 第26回：PPTプレゼン・グループ（3） | 第11回：書評のレッスン基礎編（1） | 第27回：PPTプレゼン・グループ（4） | 第12回：書評のレッスン基礎編（2） | 第28回：PPTプレゼン・グループ（5） | 第13回：書評のレッスン基礎編（3） | 第29回：留学・キャリアセミナー（2） | 第14回：書評のレッスン基礎編（4） | 第30回：面談・個人（1） | 第15回：キャリアセミナー（1） | 第31回：面談・個人（2） |
| | 第01回：ガイダンスと自己紹介 | 第17回：ガイダンスと自己アピール | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第02回：キャンパスライフシートの作成とメールのレッスン | 第18回：書評のレッスン応用編（1） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第03回：スカベンジャー・グループ | 第19回：書評のレッスン応用編（2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第04回：他者紹介 | 第20回：書評のレッスン応用編（3） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第05回：図書館オリエンテーション | 第21回：書評のレッスン応用編（4） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第06回：レジメのレッスン・グループ（1） | 第22回：書評のレッスン応用編（5） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第07回：レジメのレッスン・グループ（2） | 第23回：文化活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第08回：留学セミナー（1） | 第24回：PPTプレゼン・グループ（1） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第09回：ノートテイクのレッスン | 第25回：PPTプレゼン・グループ（2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第10回：学外活動 | 第26回：PPTプレゼン・グループ（3） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第11回：書評のレッスン基礎編（1） | 第27回：PPTプレゼン・グループ（4） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第12回：書評のレッスン基礎編（2） | 第28回：PPTプレゼン・グループ（5） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第13回：書評のレッスン基礎編（3） | 第29回：留学・キャリアセミナー（2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第14回：書評のレッスン基礎編（4） | 第30回：面談・個人（1） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第15回：キャリアセミナー（1） | 第31回：面談・個人（2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト・参考文献・資料など | 必要に応じて資料を配布する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学びの手立て | 毎回出席すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価 | 単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。原則として、遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-------|------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 基礎演習 II |
|-------|------------------------|

※ポリシーとの関連性 専門科目を受講する前の大学生として身につけるべき学びの技術（PCリテラシー等）を習得するための基礎科目。

[/演習]

| | | | | |
|--------|-----------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習 I | 前期 | 木 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 山川（矢敷） 彩子 | 1年 | メールの場合： a.yamakawa@okiu.ac.jp 研究室： 9号館505室 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 基礎演習のねらいは、新入生と教員がコミュニケーションを深めながら、大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を養うことである。最終的には、個人でレポートを作成し、レジメを作成した上、コンピュータプレゼンテーションをすることを旨とする。二年度以降の学生が登録を希望する場合は、事前に相談すること。 | 大学生生活を有意義に過ごすためには、最初が大切です。学業面だけでなく、大学生活について疑問に思ったこと、わからないことは気軽に質問してください。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な専門書を読み込み、自分なりに理解しレジメにまとめる事ができる。 ・基本的な論文・レポートの書き方のルールを理解し身に付ける。 ・レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。 ・大学生活のルールや学生支援の内容を理解し、4年間の計画および卒業後の目標を立てる。 | |

| | | | |
|-------|---|------------------|---------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス・自己紹介等 | 「履修ガイド」を熟読する。 |
| 2 | 大学内スカベンジャーハント | 「学生便覧」を熟読する。 | |
| 3 | Emailの書き方・送り方、理想のキャンパスライフ | Emailを送る。 | |
| 4 | 図書館オリエンテーション | 図書オリ課題を実施する。 | |
| 5 | グループワーク（沖縄の自然を知る） | 課題資料を熟読しレジメ作成する。 | |
| 6 | グループワーク発表(1) | レジメ修正と発表練習をする。 | |
| 7 | グループワーク発表(2) | レジメ修正と発表練習をする。 | |
| 8 | 国際交流セミナー | 海外留学について調べる。 | |
| 9 | フィールドワーク(宜野湾市立博物館) | 博物館巡検内容をまとめる。 | |
| 10 | フィールドワーク(宜野湾市内) | 市内巡検内容をまとめる。 | |
| 11 | フィールドワークレポート提出 | レポート作成をする。 | |
| 12 | レジメ作成(宜野湾市に関する調べ学習) | レジメ作成をする。 | |
| 13 | レジメ作成 | レジメ修正し、印刷する。 | |
| 14 | レジメ発表(1) | フィードバックシートを記入する。 | |
| 15 | レジメ発表(2) | フィードバックシートを記入する。 | |
| 16 | 学生個人面談 | 面談資料に情報を記述する。 | |
| | テキスト・参考文献・資料など | | |
| | テキストは指定しない。 資料は講義内で配布し、参考文献は必要に応じて紹介する。 | | |
| | 学びの手立て | | |
| | 履修の心構え ・基礎演習は一年次必修の科目なので必ず出席すること。 ・やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。 ・欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。 ※無断欠席はグループ作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、グループメンバーに多大な迷惑をかけることになる。 | | |
| | 評価 | | |
| | 単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。原則として、遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。 授業参加度30%、課題の提出50%、フィールドワークの参加10%、プレゼンテーション10%とする。 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 専門必修科目：「地域セミナーI・II」、「演習I」、「演習II」 |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性

専門科目を受講する前に、大学生として身につけるべき読解力、表現力等の演習を行う基礎科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|--------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習 I | 前期 | 木 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 砂川 かおり | 1年 | 研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。読む力、考える力、書く力、プレゼンテーション能力を高める。 | メッセージ ・指定されたクラスに登録すること。 ・第1回目の授業では、授業概要を説明し、履修仮登録の内容を確認するので、必ず参加すること。 ・4月14(土)15日(日)にメンバーシップ・トレーニング(MT)を行うので、全員参加すること。 |
| | 到達目標 大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。ノートテイク、要約・レジュメ・レポート作成、発表ができるようになる。 | |

| | | | |
|-------|---|---|----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス、時間割確認、メールの設定、懇親会の日程調整等 | 復習と課題をする。 |
| | 2 | 大学生活とは？(1) 一講義・ノートテイク実践 要約の作り方説明・要約作成 | 復習と課題をする。 |
| | 3 | フレッシュマンテスト実施 | 課題をする。 |
| | 4 | 大学生活とは？(2) (個人で課題発表 各3分、「キャリア入門ガイドブック」を持参。) | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 5 | 図書館ガイダンス@図書館4階AVホール(予定)、ボーリング大会・懇親会(予定) | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 6 | レジュメの書き方(1)：レジュメの作成説明、資料読み込み、レジュメ作成 | レジュメ作成 |
| | 7 | 合同ゼミ：留学セミナー(海外インターンシップ、短期語学留学説明会)(予定：3-406) | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 8 | レジュメの書き方(2)レジュメの発表・評価 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| 9 | 慰霊の日に考えること(1)：戦前の教育と日本国憲法 | 配布資料を読んで、復習する。 | |
| 10 | 慰霊の日に考えること(2)：祖父母への戦争体験聞き取り(6月23日：課題) | レポート作成 | |
| 11 | 慰霊の日に考えること(3)：聞き取りの分かち合い | 配布資料を読んで、復習する。 | |
| 12 | 合同ゼミ：キャリアセミナー(県内インターンシップGut's、県外インターンシップ説明会) | 配布資料を読んで、復習する。 | |
| 13 | 論点・争点・持論の書き方、演習 | 配布資料を読んで、復習する。 | |
| 14 | レポートの書き方説明、巡検：沖縄県立博物館(予定) | レポート作成・提出 | |
| 15 | 巡検レポート添削・再提出 | 配布資料を読んで、復習する。 | |
| 16 | 巡検レポート発表・評価、授業評価アンケート、夏季休暇中の課題発表 | 夏季休暇中の計画を立て、実行。 | |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。 参考文献は、適宜紹介する。 | | |
| | 学びの手立て ・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。後日、欠席届を提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・学年合同によるセミナーの開催等、開催場所の変更に注意して下さい。 | | |
| | 評価 欠席が5回以上の場合は「不可」。 評価の配分：授業参加度(30%)、課題3つ(30%)、慰霊の日に関する演習(25%)、 巡検レポート(15%) | | |

| | |
|-------|-------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「基礎演習II」 |
|-------|-------------------------|

※ポリシーとの関連性 専門科目を受講する前に、大学生として身につけるべき読解力、表現力等の演習を行う基礎科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|-------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習Ⅱ | 後期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 齋藤 星耕 | 1年 | 5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 基礎演習では、新入生相互または教員との間でコミュニケーションを深めながら、大学とはどのような場所であるかを知り、学生生活に必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を習得する。また、将来に目を向ける機会とする。 | メッセージ 大学での学び方を学ぶセミナーです。後期は、より実践的に、小論文やディベート、スライドを用いた発表に取り組みます。 |
| | 到達目標 新聞記事などについて自分の考察・意見を小論文としてまとめることができる。 意見の異なる相手と論理的・対話的な討論ができる。 スライドを用いたプレゼンテーションの作成・発表ができる。 | |

| | | | |
|---|----------------|-------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 小論文(1) | |
| | 3 | 小論文(2) | |
| | 4 | 小論文(3) | |
| | 5 | レポート作成(1) | レポート作成 |
| | 6 | レポート作成(2) | レポート作成 |
| | 7 | レポート作成(3) | |
| | 8 | ディベート(1) | |
| | 9 | ディベート(2) | |
| | 10 | ディベート(3) | |
| | 11 | 発表スライド作成(1) | スライド作成 |
| | 12 | 発表スライド作成(2) | スライド作成 |
| | 13 | 発表スライド作成(3) | スライド作成 |
| | 14 | スライド発表(1) | 発表練習 |
| 15 | スライド発表(2) | 発表練習 | |
| 16 | 個人面談、まとめ | | |
| テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。 | | | |
| 学びの手立て 毎回出席し、やむを得ず欠席の場合には事前に連絡すること。 | | | |
| 評価 出席状況、レポート、発表などを総合的に評価する。 | | | |

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目： 地域セミナー、演習Ⅰ＆Ⅱ |
|-------|-----------------------------------|

※ポリシーとの関連性 専門科目を受講する前には、基礎科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習Ⅱ | 後期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋 伊津子 | 1年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|------------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 今後の大学生活でどう学ぶかを計画的に考えることをねらいとします。 | メッセージ 大学生活という貴重な時間を大事に過ごしてください。 |
| | 到達目標 小論文を書くことができる。基本的なプレゼンテーションができる。ディスカッションができる。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの準備 | 到達目標 小論文を書くことができる。基本的なプレゼンテーションができる。ディスカッションができる。 |
|-------|--|

| | | | |
|-------|----------------|---------------------|-----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスをよく読む |
| | 2 | プレゼンテーションの基礎 | 授業の内容を復習 |
| | 3 | 新聞を使ったプレゼンテーション (1) | 新聞を読む |
| | 4 | 新聞を使ったプレゼンテーション (2) | // |
| | 5 | 国際交流セミナー | 授業の内容を復習 |
| | 6 | 小論文の書き方 (1) | // |
| | 7 | 小論文の書き方 (2) | // |
| | 8 | 小論文の書き方 (3) | // |
| | 9 | キャリアセミナー | // |
| | 10 | 学外ゼミ | // |
| | 11 | グループディスカッション (1) | // |
| | 12 | グループディスカッション (2) | // |
| | 13 | グループディスカッション (3) | // |
| | 14 | ディベート (1) | // |
| | 15 | ディベート (2) | // |
| 16 | ディベート (3) | // | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など 教科書は指定しません。適宜授業の中で指導します。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びの手立て やむをえない事情で欠席する場合は必ず事前にメールをしてください。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 評価 レポート課題 (50%)、発表 (50%) 2/3以上の出席がなければ不可となります。 |
|-------|--|

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「地域セミナーⅠⅡ」「演習ⅠⅡ」「演習ⅢⅣ」 |
|-------|---------------------------------------|

| | | | | |
|--------|-------|------|-----------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習Ⅱ | 後期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 友知 政樹 | 1年 | メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|----------------------|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 基礎演習のねらいは、新入生と教員がコミュニケーションを深めながら、大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を養うことである。最終的には、個人でレポートを作成し、レジメを作成した上、コンピュータプレゼンテーションをすることを旨とする。 | 一緒に目から血が出るほど勉強しましょう！ |

| | |
|------|---------|
| 到達目標 | ねらいの達成。 |
|------|---------|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|--------------------|-------------------|------------------------------|--------------------|-------------------|--------------------|-----------|--------------------|-------------------|--------------------|-----------------------|--------------------|-----------------------|-----------|----------------|----------------------|------------------|----------------------|-----------|----------------------|--------------------|----------------------|--------------------|----------------------|--------------------|---------------------|--------------------|---------------|------------------|---------------|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <table border="0"> <tr> <td>第01回：ガイダンスと自己紹介</td> <td>第17回：ガイダンスと自己アピール</td> </tr> <tr> <td>第02回：キャンパスライフシートの作成とメールのレッスン</td> <td>第18回：書評のレッスン応用編（1）</td> </tr> <tr> <td>第03回：スカベンジャー・グループ</td> <td>第19回：書評のレッスン応用編（2）</td> </tr> <tr> <td>第04回：他者紹介</td> <td>第20回：書評のレッスン応用編（3）</td> </tr> <tr> <td>第05回：図書館オリエンテーション</td> <td>第21回：書評のレッスン応用編（4）</td> </tr> <tr> <td>第06回：レジメのレッスン・グループ（1）</td> <td>第22回：書評のレッスン応用編（5）</td> </tr> <tr> <td>第07回：レジメのレッスン・グループ（2）</td> <td>第23回：文化活動</td> </tr> <tr> <td>第08回：留学セミナー（1）</td> <td>第24回：PPTプレゼン・グループ（1）</td> </tr> <tr> <td>第09回：ノートテイクのレッスン</td> <td>第25回：PPTプレゼン・グループ（2）</td> </tr> <tr> <td>第10回：学外活動</td> <td>第26回：PPTプレゼン・グループ（3）</td> </tr> <tr> <td>第11回：書評のレッスン基礎編（1）</td> <td>第27回：PPTプレゼン・グループ（4）</td> </tr> <tr> <td>第12回：書評のレッスン基礎編（2）</td> <td>第28回：PPTプレゼン・グループ（5）</td> </tr> <tr> <td>第13回：書評のレッスン基礎編（3）</td> <td>第29回：留学・キャリアセミナー（2）</td> </tr> <tr> <td>第14回：書評のレッスン基礎編（4）</td> <td>第30回：面談・個人（1）</td> </tr> <tr> <td>第15回：キャリアセミナー（1）</td> <td>第31回：面談・個人（2）</td> </tr> </table> | 第01回：ガイダンスと自己紹介 | 第17回：ガイダンスと自己アピール | 第02回：キャンパスライフシートの作成とメールのレッスン | 第18回：書評のレッスン応用編（1） | 第03回：スカベンジャー・グループ | 第19回：書評のレッスン応用編（2） | 第04回：他者紹介 | 第20回：書評のレッスン応用編（3） | 第05回：図書館オリエンテーション | 第21回：書評のレッスン応用編（4） | 第06回：レジメのレッスン・グループ（1） | 第22回：書評のレッスン応用編（5） | 第07回：レジメのレッスン・グループ（2） | 第23回：文化活動 | 第08回：留学セミナー（1） | 第24回：PPTプレゼン・グループ（1） | 第09回：ノートテイクのレッスン | 第25回：PPTプレゼン・グループ（2） | 第10回：学外活動 | 第26回：PPTプレゼン・グループ（3） | 第11回：書評のレッスン基礎編（1） | 第27回：PPTプレゼン・グループ（4） | 第12回：書評のレッスン基礎編（2） | 第28回：PPTプレゼン・グループ（5） | 第13回：書評のレッスン基礎編（3） | 第29回：留学・キャリアセミナー（2） | 第14回：書評のレッスン基礎編（4） | 第30回：面談・個人（1） | 第15回：キャリアセミナー（1） | 第31回：面談・個人（2） |
| | 第01回：ガイダンスと自己紹介 | 第17回：ガイダンスと自己アピール | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第02回：キャンパスライフシートの作成とメールのレッスン | 第18回：書評のレッスン応用編（1） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第03回：スカベンジャー・グループ | 第19回：書評のレッスン応用編（2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第04回：他者紹介 | 第20回：書評のレッスン応用編（3） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第05回：図書館オリエンテーション | 第21回：書評のレッスン応用編（4） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第06回：レジメのレッスン・グループ（1） | 第22回：書評のレッスン応用編（5） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第07回：レジメのレッスン・グループ（2） | 第23回：文化活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第08回：留学セミナー（1） | 第24回：PPTプレゼン・グループ（1） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第09回：ノートテイクのレッスン | 第25回：PPTプレゼン・グループ（2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第10回：学外活動 | 第26回：PPTプレゼン・グループ（3） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第11回：書評のレッスン基礎編（1） | 第27回：PPTプレゼン・グループ（4） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第12回：書評のレッスン基礎編（2） | 第28回：PPTプレゼン・グループ（5） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第13回：書評のレッスン基礎編（3） | 第29回：留学・キャリアセミナー（2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第14回：書評のレッスン基礎編（4） | 第30回：面談・個人（1） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第15回：キャリアセミナー（1） | 第31回：面談・個人（2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト・参考文献・資料など | 必要に応じて資料を配布する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学びの手立て | 毎回出席すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価 | 単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。原則として、遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-------|------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 地域セミナーⅠ |
|-------|------------------------|

※ポリシーとの関連性 専門科目を受講する前の大学生として身につけるべき学びの技術（PCリテラシー等）を習得するための基礎科目。

[/演習]

| | | | | |
|--------|-----------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習Ⅱ | 後期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 山川（矢敷） 彩子 | 1年 | メールの場合： a.yamakawa@okiu.ac.jp 研究室： 9号館505室 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 基礎演習のねらいは、新入生と教員がコミュニケーションを深めながら、大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を養うことである。最終的には、個人でレポートを作成し、レジメを作成した上、コンピュータプレゼンテーションをすることを旨とする。基礎演習Ⅱは基礎演習Ⅰ（山川）を登録許可した学生のみ登録すること。 | 大学生生活を有意義に過ごすためには、最初が大事です。学業面だけでなく、大学生活について疑問に思ったこと、わからないことは気軽に質問してください。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な専門書を読み込み、自分なりに理解しレジメにまとめる事ができる。 ・基本的な論文・レポートの書き方のルールを理解し身に付ける。 ・レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。 ・大学生活のルールや学生支援の内容を理解し、4年間の計画および卒業後の目標を立てることが出来る。 | |

| | | | |
|-------|----------------|--|----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス、課題グループ決め | 調べ学習を実施する。 |
| | 2 | グループ作業 | グループでレジメ作成する。 |
| | 3 | レジメ提出 | レジメ修正をする。 |
| | 4 | グループ発表① | 発表練習とレジメ印刷をする。 |
| | 5 | グループ発表② | 発表練習とレジメ印刷をする。 |
| | 6 | レポート作成① | 資料収集する。 |
| | 7 | レポート作成② | レポート作成をする。 |
| 8 | レポート作成③ | レポート作成をする。 | |
| 9 | レジメ作成① | レジメ作成とレポート修正をする。 | |
| 10 | レジメ作成② | レジメ作成とレポート修正をする。 | |
| 11 | パワーポイント作成① | PPTスライド作成をする。 | |
| 12 | パワーポイント作成② | PPTスライド作成をする。 | |
| 13 | キャリアセミナー | フィードバックシートを記入する。 | |
| 14 | パワーポイント発表① | PPTスライドを修正する。 | |
| 15 | パワーポイント発表② | PPTを発表練習をする。 | |
| 16 | パワーポイント発表③ | PPTを発表練習をする。 | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | <p>テキストは指定しない。 資料は講義内で配布し、参考文献は必要に応じて紹介する。</p> | |
| | 学びの手立て | <p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習は一年次必修の科目なので必ず出席すること。 ・やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。 ・欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。 <p>※無断欠席はグループ作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、グループメンバーに多大な迷惑をかけることになる。</p> | |
| | 評価 | <p>単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。原則として、遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。 授業参加度30%、課題の取組姿勢、出来60%、プレゼンテーション10%とする。</p> | |

| | |
|-------|--------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
| | 専門必修科目：「地域セミナーⅠ・Ⅱ」、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」 |

※ポリシーとの関連性

専門科目を受講する前に、大学生として身につけるべき読解力、表現力等の演習を行う基礎科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|--------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習Ⅱ | 後期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 砂川 かおり | 1年 | 研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|----------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。読む力、考える力、書く力、プレゼンテーション能力を高める。 | メッセージ ・指定されたクラスに登録すること。 |
| | 到達目標 大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。レポート、パワーポイント資料等の作成方法を習得し、表現力・プレゼンテーション能力を高める。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの準備 | 到達目標 大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。レポート、パワーポイント資料等の作成方法を習得し、表現力・プレゼンテーション能力を高める。 |
|-------|--|

| | | | |
|-------|----------------|--|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス、成績・時間割確認、夏期休暇中の課題発表 | 資料を読んで復習する。 |
| | 2 | 学外ゼミの説明、事前学習『それってどうなの？ 沖縄の基地の話。』 | 配布資料を読んで予習する。 |
| | 3 | 学外ゼミ：大浦湾巡検、ワカゲノイタリ村訪問、セミナーハウスで意見交換会（10月6～7日予定） | レポート（1）を作成する。 |
| | 4 | 合同ゼミ（10月11日） 県内県外インターンシップ Guts体験報告会、レポート(1)提出 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 5 | 書評（1）本選び | 本を読む、書評の骨子を考える。 |
| | 6 | 合同ゼミ（11月1日）：留学セミナー | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 7 | 書評（2）書評作成、提出 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 8 | 書評（3）書評についての意見交換会、巡検レポートの書き方の説明 | 配布資料を読んで、復習する。 |
| | 9 | おきなわ国際協力・交流フェスティバル2018 参加（11月17日予定） | レポート（2）を作成する。 |
| | 10 | レポート（2）作成・提出 | PPT原稿（3）の作成 |
| | 11 | 発表用PPT原稿（3）作成・提出、レポート添削・返却 | レポート（2）修正・提出 |
| | 12 | 発表用PPT原稿（3）添削・再提出 | PPT原稿（3）修正・提出 |
| | 13 | 発表練習 | 発表練習 |
| | 14 | 発表1 | 発表練習 |
| | 15 | 発表2 | 後期の授業の振り返り |
| 16 | まとめ・授業評価アンケート | 春季休暇中の計画を立て、実行。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。 参考文献は、適宜紹介する。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びの手立て ・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・学年合同によるセミナーの開催等、開催場所の変更に注意してください。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 評価 欠席が5回以上の場合は「不可」。 評価配分：授業参加度（15%）、書評（20%）、学外ゼミ（20%）、レポート・原稿（30%）、発表（15%） |
|-------|--|

| | |
|-------|-----------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「地域セミナーI・II」 |
|-------|-----------------------------|

| | | | | |
|--------|-------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習Ⅱ | 後期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 前泊 博盛 | 1年 | メールで対応。下記のメールアドレスへ。hm aeomari@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|----------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | ①大学生活を充実させるための基礎的な情報、知識を習得する。 ②大学のしくみを理解し、学業の成果を上げる。 ③4年間で学ぶ経済の基本的な知識を獲得する。 | 読書習慣を身に付けて、大学4年間で400冊を読破してみましよう。 |

| | |
|-------|---|
| 学びの準備 | 到達目標 |
| | ①将来ビジョンを描く。 ②4年間の大学生活のビジョンを描く。 ③沖縄経済の基本的なテーマを理解する。 ④企業研究を通して、データ分析やプレゼン能力を身に着ける。 ⑤読書習慣を身に着ける。 |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びのヒント |
| | <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>後期</p> <p>1：後期オリエンテーション 2：沖縄の歴史（1）沖縄戦（★映像） 3：沖縄の歴史（2）基地問題（★映像） 4：沖縄の歴史（3）沖縄振興計画 5：沖縄の経済（1）観光レポート 6：沖縄の経済（2）基地経済レポート 7：沖縄の経済（3）公共投資レポート 8：沖縄の経済（4）島嶼経済レポート 9：沖縄の経済（5）沖縄21世紀ビジョン・レポート 10：沖縄の経済（6）沖縄アジア経済戦略・レポート</p> <p>冬季休暇 指定図書レポート②櫻澤誠著『沖縄現代史』中公新書、2015年 920円＋税</p> <p>11：沖縄の企業（1）100社の研究①観光・娯楽 12：沖縄の企業（2）100社の研究②金融・証券 13：沖縄の企業（3）100社の研究③流通・運輸 14：沖縄の企業（4）100社の研究④医療・病院 15：フィールドワーク（基地・DFS・空港・港湾などインフラ調査） 16：ゲストスピーカー招聘（基礎演習総括）</p> |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など |
| | ①櫻澤誠著『沖縄現代史』中公新書、2015年 ②新崎盛暉著『日本にとって沖縄とは何か』岩波新書、2016年 ③前泊博盛著『もっと知りたい！本当の沖縄』岩波ブックレット、2008年 ④前泊博盛著『沖縄と米軍基地』角川新書、2011年 |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びの手立て |
| | ゼミには必ず出席すること。グループ学習で自分の役割をしっかりと果たすこと。読書ノートをつけること。 |

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 学びの実践 | 評価 |
| | 出席を重視し、ゼミの中での発言、発表、レポートなどで総合的に評価する。 |

| | |
|-------|--------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
| | ①沖縄経済論Ⅰ、Ⅱ②島嶼経済論Ⅰ、Ⅱ ③近代・現代沖縄経済史 |

※ポリシーとの関連性

基礎演習Ⅰに引き続き、基礎演習Ⅱでは、社会におけるさまざまな価値観を受け入れ、それに対応できる基礎力を高めます。

[/演習]

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 基礎演習Ⅱ | 後期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 上江洲 律子 | 1年 | オフィス・アワー（木曜4校時）に、5号館436研究室で対応します。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい メディアを通して伝えられるさまざまな価値観を受容し、それに関する自分の考え方を構築し、それを自ら発信できる力を身につけることを目的とします。 | メッセージ 大学生にとって必要な5つの力「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」は社会を生き抜く力でもあります。大学時代にその力を培えるよう、相談しながら一緒に歩いていきましょう。 |
| | 到達目標 基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰを通して育んだ「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」という5つの力が、他者とのコミュニケーションを前提とするグループ活動においても発揮されるようになることを目標とします。 | |

| | | | |
|-------|---|-------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンスと夏休みの報告会 | 課題 |
| | 2 | 書評・映画評のレッスン応用編（1） | 課題 |
| | 3 | キャリアセミナー（合同） | 課題 |
| | 4 | 書評・映画評のレッスン応用編（2） | 課題 |
| | 5 | 書評・映画評のレッスン応用編（3） | 課題 |
| | 6 | 留学セミナー（合同） | 課題 |
| | 7 | 書評・映画評のレッスン応用編（4） | 課題 |
| 8 | 学外見学 | 課題 | |
| 9 | PPTプレゼンのレッスン（1） | 課題 | |
| 10 | PPTプレゼンのレッスン（2） | 課題 | |
| 11 | PPTプレゼンのレッスン（3） | 課題 | |
| 12 | PPTプレゼンのレッスン（4） | 課題 | |
| 13 | PPTプレゼンのレッスン（5） | 課題 | |
| 14 | PPTプレゼンのレッスン（6） | 課題 | |
| 15 | キャンパスライフシートとまとめ | 課題 | |
| 16 | | | |
| | テキスト・参考文献・資料など 授業内で必要に応じてプリントを配付します。 ※参考文献についても、授業内で必要に応じて紹介します。 | | |
| | 学びの手立て どんな場合でも、前もって考えておくことはとても重要です。少しずつ構わないので、自分が発表する時は勿論、他の人の発表を聞く際にも、先に自分の考えをまとめておく習慣をつけるようにして下さい。そうすることで、伝えられることへの理解が一層深まっていくと思います。 | | |
| | 評価 平常点（40%）と、課題やプレゼンテーションの得点（60%）で評価します。 ※ただし、単位取得のためには、授業における3分の2以上の出席を義務づけます。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 1年生で基礎演習ⅠとⅡを終えた後、2年生で受講するのがフィールドワークを中心とした地域セミナーⅠとⅡとなります。基礎演習ⅠとⅡを通して身につけた大学生として必要な5つの力を、地域セミナーⅠとⅡで発揮して下さい。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|-----------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | キャリアデザイン論 | 後期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 名嘉座 元一 | 2年 | nakaza@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 企業から与えられたミッション（課題）に対して、グループに分かれて作業を分担し、主に学生同士の質疑応答で授業は進行する。したがって、プレゼン力、コミュニケーション力が養われ、本格的な就職活動に向けて、自分に相応しい職業や進路を見出すきっかけとなることができる。 | メッセージ この講義は PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）形式の講義である。PBLとは、「課題解決型授業」のことで、通常の座学中心の講義とは一線を画するものである。時間外に会社訪問や打ち合わせ等あり、大変ではあるが、企業の方も学生への課題解決のため協力してくれる。講義を通して社会人との交流が深まる。大学生活をもっと積極的にしたい人向け。 |
| | 到達目標 自ら課題を見つけ、解決するための行動を起こすことができる。 仲間と一緒に考えたり、自分の意見を言うなどのコミュニケーション力がつく。 自らの言葉で発表することができる。 | |

| | | | |
|-------|--|---------------------------------------|-----------------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション | |
| | 2 | チームづくりと1シート企画 | 企画提案のしかた |
| | 3 | 企業からのミッション | ミッションに対する解決法を考える |
| | 4 | チームワークとCIS | チームメンバーをよく知る |
| | 5 | 課題解決（1）～企業ミッションと課題を探る～ | ミッションに対する解決法の検討 |
| | 6 | 課題解決（2）～課題解決のアプローチ方法～ | 企業訪問・インタビューなど、打ち合わせや情報収集を行う |
| | 7 | 課題解決（3）～ユニーク発想法～ | 同上 |
| | 8 | 課題解決（4）～提案の事業プランの作り方～ | 同上 |
| | 9 | 中間プレゼンテーション | 企画書の検討 |
| | 10 | プレゼンテーション技術基礎～プレゼン本番に向けた企画書のブラッシュアップ～ | 同上 |
| | 11 | 課題解決（5） | 発表の事前練習 |
| | 12 | 課題解決（6） | 本番に向けた準備と練習 |
| | 13 | プレゼン本番前リハーサル | 提案に対する事後評価 |
| | 14 | プレゼン本番 | 自身の行動指針を立てる |
| 15 | 各チーム企画提案書の振り返り | | |
| 16 | 自身の学びの振り返り | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など テキストは特にな 講義時に指定する | | |
| | 学びの手立て 出席を重視する。 講義のねらいをしっかりと自覚し、積極的に発言、チーム活動に参加すること。 チームとしての活動が中心になるので、チームリーダー及びメンバーの役割分担が重要になる。 社会人との付き合いがあるので、社会人としてのマナーを守ることを心がけること。 3大学（沖国大、琉大、女子短大）合同プレゼン大会も予定しており、他大学との競争を通してプレゼン力に磨きをかけることができる。2017年度は、沖国大のグループが最優秀賞をもらった。 | | |
| | 評価 出席、グループワークの進め方、プレゼンの結果を総合的に勘案して評価する。 出席と毎回提出するリアクションペーパー（80点） プレゼン結果（20点） | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 自らの行動力や課題解決力が高まっているので、目的を持って専門科目等をとることができる。また、学外活動も積極的にを行う。 就職活動に対しても積極的に取り組むことができる。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|---------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 近代沖縄経済史 | 前期 | 木3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 前泊 博盛 | 2年 | メールで対応します。下記のメールアドレスへ。hmaeomari@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 琉球王国時代から琉球処分後の明治・大正・昭和初期（戦前）までの沖縄経済史を概観します。琉球王国時代の農業経済、財政、貿易政策はといったどのようなものであったのか。琉球王国の経済政策、住民の経済状況、大交易時代の実情、「万国津梁」の中身、南蛮人と琉球人、「琉球処分」後の明治政府の下での沖縄振興計画、移民政策など現在の沖縄経済の「源流」をを総括します。 | 出席を重視します。毎回、重要なキーワードを提示します。沖縄の過去と現在を理解するためのデータとトピックスを提供します。「歴史は繰り返す」「過去を分析し、未来を予測し、今を改善する」 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 複数のデータで検証し、データを整理・する手法を学ぶ。 複数のテーマについて、短時間でまとめ、文章化する力を身に着ける。 読み、書き、話し、表現する力を身に着ける。 経済の基本理論を理解し、活用できるようにする。 「常識」を疑い、事実を積み上げ、真実を見抜く力を身に着ける。 | |

| | | | |
|-------|--|----------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義の進め方 | |
| | 2 | 沖縄経済史の特徴－後進性、零細性、従属性 | |
| | 3 | 近世沖縄の経済構造 | |
| | 4 | 首里王府の財政 | |
| | 5 | 「琉球処分」と沖縄経済 | |
| | 6 | 明治政府の沖縄政策 | |
| | 7 | 旧慣制度下の農村経済の構造 | |
| 8 | 商品経済の進展と「資本主義」生産様式の形成 | | |
| 9 | 沖縄経済の近代化 | | |
| 10 | 農林水産業の近代化 | | |
| 11 | 商工業の発展 | | |
| 12 | 第一次世界大戦と沖縄経済 | | |
| 13 | 戦後恐慌と沖縄経済 | | |
| 14 | 「そてつ地獄」と昭和恐慌 | | |
| 15 | 沖縄振興計画と戦時統制経済 | | |
| 16 | 前期試験 | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 毎回、講義時にプリントを配布します。参考文献、資料もその都度紹介します。 | | |
| | 学びの手立て 「沖縄県史」「新琉球史」など、沖縄の歴史文献に目を通すこと。沖縄史の基本的な出来事についてキーワードで整理しておく。ノートを作ること。 | | |
| | 評価 <ul style="list-style-type: none"> 出席を重視。5回欠席で「不可」。欠席時には「欠席届」提出を。 毎回、講義の課題回答、感想、質問を提出。その内容も踏まえ評価します。 | | |

| | |
|-------|-------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
|-------|-------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 金融論 I | 前期 | 木 3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋 伊津子 | 3年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 金融の基礎的な知識を定着させることをねらいとする。 | メッセージ 金融、経済に興味がある学生にお勧めします。 |
| | 到達目標 金融の基礎的な用語を理解できる。時事問題についてわかりやすく説明できる。 | |

| | | | |
|-------|---|-------------|---------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスをよく読む |
| | 2 | 金融とは何か | 授業の復習、参考文献を読む |
| | 3 | 企業の金融行動 | 〃 |
| | 4 | 家計の金融行動 | 〃 |
| | 5 | 政府の金融行動 | 〃 |
| | 6 | 金融機関・金融市場 | 〃 |
| | 7 | わが国の金融制度（1） | 〃 |
| | 8 | わが国の金融制度（2） | 〃 |
| 9 | 金融のマイクロ理論（1） | 〃 | |
| 10 | 金融のマイクロ理論（2） | 〃 | |
| 11 | 金融政策（1） | 〃 | |
| 12 | 金融政策（2） | 〃 | |
| 13 | グループ報告会 | グループで報告会の準備 | |
| 14 | グループ報告会 | 〃 | |
| 15 | グループ報告会 | 〃 | |
| 16 | グループ報告会 | 〃 | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。参考文献としては、下記。 「入門金融」吉野直行・高月昭年（編著）有斐閣 「エコノミクス入門金融」池尾和人（編著）ダイヤモンド社 | | |
| | 学びの手立て やむを得ない事情で欠席する場合は事前にメールをしてください。 教科書は指定しないが、金融論とついている書籍で読みやすいものを自分で探して読むとより理解が深まります。 。「金融論Ⅰ」を受けてから「金融論Ⅱ」を受けてほしいと思います。 | | |
| | 評価 評価:小テスト50点+ グループ報告50点 = 100点 ・小テスト: 講義の最後にほぼ毎回行う。 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「マイクロ経済学ⅠⅡ」「マクロ経済学ⅠⅡ」「国際経済論ⅠⅡ」 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 金融論Ⅱ | 後期 | 木3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋 伊津子 | 3年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 金融の発展的・実地的な知識を定着させることをねらいとする | メッセージ 金融・経済に興味のある学生にお勧めします。 |
| | 到達目標 金融の基本的な用語を理解する。金融に関する時事問題をわかりやすく説明できる。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの準備 | 到達目標 金融の基本的な用語を理解する。金融に関する時事問題をわかりやすく説明できる。 |
| | |

| | | | |
|-------|----------------|----------------------------------|---------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスを読む |
| | 2 | 企業の資本構成と企業価値 | 授業の復習、参考文献を読む |
| | 3 | 株主主体のガバナンスと銀行主体のガバナンス | // |
| | 4 | 金融市場の基本設備－証券取引所・法制度・規制監督・情報提供機関－ | // |
| | 5 | 政策金融 | // |
| | 6 | 日本銀行と金融政策 | // |
| | 7 | 保険の基礎知識 | // |
| | 8 | 証券の基礎知識 | // |
| | 9 | 信託の基礎知識 | // |
| | 10 | 金融業とIT | // |
| | 11 | 社会問題と金融－環境金融、開発金融－ | // |
| | 12 | 社会人になる前に知っておきたい金融知識 | // |
| | 13 | 報告会 | 報告会の準備 |
| | 14 | 報告会 | // |
| | 15 | 報告会 | // |
| 16 | 報告会 | // | |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など テキスト：指定なし。参考文献は、「入門金融」吉野直行・高月昭年（編著）有斐閣 「エコノミクス入門金融論」池尾和人（編著）ダイヤモンド社。 |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びの手立て やむをえない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールすること。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 評価 評価：小テスト50点+ 報告50点 = 100点 ・小テスト：講義の最後にはほぼ毎回行う。 ・報告：1人1回、講義に関連する新聞記事を各自で用意してその解説を行う。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「マクロ経済学ⅠⅡ」「ファイナンシャルプランニングⅠⅡ」「国際経済論ⅠⅡ」 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性

専門科目を受講する前には、大学生として身につけるべき語学などの基礎科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|-------------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | グローバルセミナー I | 前期 | 月 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 砂川 かおり | 2年 | 研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | グローバル化が進行する中で、経済活動も環境協力も国際的な視野が求められます。他国の情報を収集するグローバル適応力と共に、自らを主張できる国際人として、まずは自らの足元、ローカルな情報についても学び、表現力も高めていきます。 | 外国に興味がある学生の皆さんや、留学の準備をしたい学生の皆さんのためのセミナーです。校外に出かけたり、実践的な指導を行うため、受講者数には定員があります。受講希望者が多い場合は、条件に則って抽選します。詳しくは、授業で説明しますので、初回の授業には必ず参加して下さい。 |
| 到達目標 | 海外に出掛ける時や留学時に必要な情報を収集する力を習得する。また、海外で自らや出身地を紹介できる知識と表現力を身につける。受講生のレベルに合わせて、到達目標を設定し、可能な範囲で外国語での自己紹介、沖縄の紹介（経済分野・環境分野を含む）ができるようになることを目標とする。 | |

| | | | |
|-------|--|---|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 授業概要説明、受講生自己紹介、興味のある国・留学希望先報告 | 留学制度等について調べる |
| | 2 | 英会話（1）、海外インターンシップ・留学制度の紹介（本学内、学外の制度について） | 海外渡航の目的等について整理する |
| | 3 | 英会話（2）、海外渡航の目的・準備すること等について各自発表（日本語、外国語も可） | 訪問希望先の国について調べる |
| | 4 | 英会話（3）、興味のある国・留学希望先について（経済分野・環境分野を含む）PPTを作成 | パワーポイント発表練習 |
| | 5 | 英会話（4）、興味のある国・留学希望先について（経済分野・環境分野を含む）PPT発表（1） | パワーポイント発表練習 |
| | 6 | 英会話（5）、興味のある国・留学希望先について（経済分野・環境分野を含む）PPT発表（2） | 巡検先について予習する |
| | 7 | 沖縄県立博物館訪問（5月19日） | 沖縄の自然や歴史に関するレポート |
| | 8 | 首里城訪問（予定） | 首里城の紹介文（概要）を作成 |
| | 9 | 那覇市久米・天尊廟地 蔡温具志頭親方文若頌徳碑等を訪問（予定） | 外国との関係についてレポート作成 |
| | 10 | 沖縄についての発表資料作成・添削（日本語又は、外国語）（1） | 発表資料作成 |
| | 11 | 平和の礎・沖縄県平和祈念資料館 訪問（課題/6月23日） | 外国との関係についてレポート作成 |
| | 12 | 沖縄についての発表リハーサル（1）、発表資料作成・添削（日本語又は、外国語）（2） | 発表練習 |
| | 13 | 沖縄についての発表リハーサル（2） | 発表練習 |
| 14 | 沖縄の歴史・文化、経済、環境、時事問題についての発表（1）（日本語又は、外国語） | 発表練習 | |
| 15 | 沖縄の歴史・文化、経済、環境、時事問題についての発表（2）（日本語又は、外国語） | 前期に学習したことの振り返り | |
| 16 | まとめ・授業評価アンケート記入 | 語学力向上の目標を立てて実践する | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | | |
| | テキストは指定しない。随時資料を配布する。 参考文献：Profile of Okinawa：100 questions and answers / 沖縄の素顔：100 Q&A | | |
| | 学びの手立て | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・講義を受講し、課題がある場合は回答し、提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 ・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。 ・授業では、主な外国語として英語を使用します。「沖縄についての発表」等でその他の言語を使用したい場合には、初回の授業で担当教員に相談の上、受講について判断して下さい。 | | |
| | 評価 | | |
| | 1/3以上欠席の者は不可。 授業参加度（15%）＋興味のある国に関する発表（10%＋5%） ＋巡検レポート（40%）＋沖縄に関する発表（25%＋5%） | | |

| | |
|-------|------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 グローバルセミナー I I |
|-------|------------------------------|

※ポリシーとの関連性 専門科目を受講する前には、大学生として身につけるべき語学などの基礎科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|------------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | グローバルセミナーⅡ | 後期 | 月2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 砂川 かおり | 2年 | 研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい グローバル化が進行する中で、経済活動も環境協力も国際的な視野が求められます。他国に関する情報収集能力、外国籍の人々とコミュニケーションできるグローバル適応力と共に、自らを主張できる国際人としての表現力も高めていきます。 | メッセージ 外国に興味がある学生、留学に関心のある学生のためのセミナーです。在沖外国人・留学生との交流、学外での見学なども取り入れるため、ランチタイムや土曜日に授業が行われることもあります。 |
| | 到達目標 海外旅行や留学時に必要な情報を収集する力を習得する。 また、学国籍の方とコミュニケーションする力も身につける。 国外における自らの興味を、沖縄の事例と比較しながら、説明できる能力も身に着ける。 | |

| | | | |
|-------|---|---|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 授業概要説明 受講生自己紹介、興味のある外国・留学希望先を報告 | 日本語又は外国語で質問を準備 |
| | 2 | ゲストの地域を調べて、質問作成・提出（できれば、外国語） | 日本語又は外国語で質問の練習 |
| | 3 | 海外事情（1） ゲストスピーカー：アメリカ人（予定） | レポート作成（1）・質問準備 |
| | 4 | 海外事情（2） ゲストスピーカー：澳門からの留学生・韓国からの留学生（予定） | レポート作成（2）・質問準備 |
| | 5 | 海外事情（3） ゲストスピーカー：イギリス人（予定） | レポート作成（3） |
| | 6 | OIST Weekend Tour(11月10日 予定) | 巡検レポート作成（1）・質問準備 |
| | 7 | 海外事情（4） ゲストスピーカー：台湾からの留学生（予定） | レポート作成（4） |
| | 8 | おきなわ国際協力・交流フェスティバル2018 参加（11月17日予定） | 巡検レポート作成（2） |
| | 9 | （沖縄と対比させながら）海外で触れたいことの紹介 PPT（外国語）作成・提出 | PPT原稿 見直し |
| | 10 | （沖縄と対比させながら）海外で触れたいことの紹介 PPT（外国語）添削・修正・再提出 | 発表原稿案を考える |
| | 11 | （沖縄と対比させながら）海外で触れたいことの紹介 発表原稿（日本語又は、外国語）作成・提出 | 発表原稿 見直し |
| | 12 | 海外で触れたいことの紹介 発表原稿（日本語又は、外国語）添削・修正・再提出 | 発表練習 |
| | 13 | 海外で触れたいことの紹介PPT発表（できるだけ外国語で）リハーサル（1） | 発表練習 |
| | 14 | 海外で触れたいことの紹介PPT発表（できるだけ外国語で）リハーサル（2） | 発表練習 |
| | 15 | 海外で触れたいことの紹介PPT発表（1） | 発表練習 |
| | 16 | 海外で触れたいことの紹介PPT発表（2）、まとめ・授業評価アンケート記入 | 後期の授業の振り返り |
| | テキスト・参考文献・資料など | | |
| | テキストは指定しない。随時資料を配布する。 参考文献：Profile of Okinawa：100 questions and answers / 沖縄の素顔：100 Q&A | | |
| | 学びの手立て | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・講義を受講し、課題がある場合は回答し、提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・欠席する場合は必ず、欠席届を提出すること。 ・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。 ・授業では、主な外国語として英語を使用します。発表等でその他の言語を使用したい場合には、初回の授業で担当教員に相談の上、受講について判断して下さい。 | | |
| | 評価 | | |
| | 1/3以上欠席の者は不可。 授業参加度（15%）＋レポート（20%）＋巡検レポート（20%）＋発表（35%＋10%） | | |

| | |
|-------|-------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 グローバルセミナーⅠ、演習Ⅰ |
|-------|-------------------------------|

| | | | | |
|--------|---------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 経済学入門 I | 前期 | 水 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋 伊津子 | 1年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 入門的な経済学を学び、専門科目、応用科目をよりスムーズに理解するために、必要な基礎知識を定着させることをねらいとする。 | この講義を受講して、私たちの身近な問題が経済と深くつながり、皆さんの将来にも大きく影響することを理解して欲しい。また、経済学的な思考・視点を身につけ自らの生活に活かしてもらいたい。 |

| | |
|------|--|
| 到達目標 | 基礎的なミクロ経済学の用語の意味を理解する。現実の経済について学んだ知識を使って理解しプレゼンテーションできる。 |
|------|--|

| | | | |
|-------|------------------|---------------------|------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスを読む |
| | 2 | 教科書 第1章1, 2 *課題提出開始 | 事前にテキストを読む |
| | 3 | 教科書 第1章3 | // |
| | 4 | 教科書 第2章1 | // |
| | 5 | 教科書 第2章2 | // |
| | 6 | 教科書 第3章1, 2 | // |
| | 7 | 教科書 第3章3 | // |
| | 8 | 教科書 第4章1 | // |
| | 9 | 教科書 第4章2 | // |
| | 10 | 教科書 第4章3 | // |
| | 11 | 教科書 第5章1 | // |
| | 12 | 教科書 第5章2 | // |
| | 13 | 教科書 第5章3 | // |
| | 14 | 教科書 第6章1 | // |
| 15 | 教科書 第6章2 *課題提出最終 | // | |
| 16 | グループ報告 | これまでの授業内容の復習 | |

| | |
|----------------|--|
| テキスト・参考文献・資料など | 「最新版 アメリカの高校生が学ぶ経済学」ゲーリー・E・クレイトン（著）2014年、WAVE出版、2592円。 |
|----------------|--|

| | |
|--------|---------------------------------|
| 学びの手立て | 講義で学んだ内容を日々の経済ニュースと関連させて考えましょう。 |
|--------|---------------------------------|

| | |
|----|--|
| 評価 | 小テスト（30%）、課題（40%）、グループ報告（30%）、平常点を加点。2 / 3以上出席を単位修得の必要条件とする。 |
|----|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「ミクロ経済学Ⅱ」「労働経済学ⅠⅡ」「公共経済学ⅠⅡ」「地域経済学ⅠⅡ」「環境経済学ⅠⅡ」 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 経済学入門Ⅱ | 後期 | 水1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋 伊津子 | 1年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 入門的な経済学を学び、専門科目、応用科目をよりスムーズに理解するために、必要な基礎知識を定着させることをねらいとする。 | この講義を受講して、私たちの身近な問題が経済と深くつながり、皆さんの将来にも大きく影響することを理解して欲しい。また、経済学的な思考・視点を身につけ自らの生活に活かしてもらいたい。 |

| | |
|------|--|
| 到達目標 | 基礎的なマクロ経済学の用語の意味を理解する。現実の経済について学んだ知識を使って理解しプレゼンテーションできる。 |
|------|--|

| | | | |
|-------|--------|----------|-------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスをよく読む |
| | 2 | テキスト第7章 | 事前にテキストを読む。 |
| | 3 | テキスト第8章 | 〃 |
| | 4 | テキスト第9章 | 〃 |
| | 5 | テキスト第10章 | 〃 |
| | 6 | テキスト第11章 | 〃 |
| | 7 | テキスト第12章 | 〃 |
| | 8 | テキスト第13章 | 〃 |
| | 9 | テキスト第14章 | 〃 |
| | 10 | テキスト第15章 | 〃 |
| | 11 | テキスト第16章 | 〃 |
| | 12 | グループ報告 | 〃 |
| | 13 | グループ報告 | 〃 |
| | 14 | グループ報告 | 〃 |
| 15 | グループ報告 | 〃 | |
| 16 | グループ報告 | 〃 | |

| | |
|----|--|
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 「最新版 アメリカの高校生が学ぶ経済学」ゲーリー・E・クレイトン（著）2014年、WAVE出版、2592円。 |
|----|--|

| | |
|--------|---------------------------------|
| 学びの手立て | 講義で学んだ内容を日々の経済ニュースと関連させて考えましょう。 |
|--------|---------------------------------|

| | |
|----|--|
| 評価 | 小テスト（30%）、課題（40%）、グループ報告（30%）、平常点を加点。2 / 3以上出席を単位修得の必要条件とする。 |
|----|--|

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「マクロ経済学ⅠⅡ」「労働経済学ⅠⅡ」「公共経済学ⅠⅡ」「地域経済学ⅠⅡ」「環境経済学ⅠⅡ」 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|---------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 経済数学 I | 前期 | 水 3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 根路銘 もえ子 | 1年 | nerome@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>本講義では、経済学で使われる数学を初歩の基本的課題から応用分野までを解説する。練習問題を解くことにより、経済学に必要な数学の知識を身につける。「経済数学I」では、行列や行列式等の線形代数について学習する。</p> | <p>経済学を学ぶ上では、「数学」の知識はととても大切です。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・行列の基本的な計算ができる。 ・行列を利用して経済学の問題が解ける。 | |

| | | | |
|----------------|---|------------------------------|-----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | |
| | 2 | 行列とは・いろいろな行列・行列の計算 (1) 加法・減法 | 行列の基本学習 |
| | 3 | 行列の計算 (2) 積 | 行列の基本学習 |
| | 4 | 行列の計算 (3) 逆行列・連立方程式の解法 (1) | 行列の基本学習 |
| | 5 | 集合 | 集合の基本学習 |
| | 6 | 線形空間 (1) | 線形空間の基本学習 |
| | 7 | 線形空間 (2) | 線形空間の基本学習 |
| 8 | 線形空間 (3) | 線形空間の基本学習 | |
| 9 | 行列式 (1) | 行列式の基本学習 | |
| 10 | 行列式 (2) | 行列式の基本学習 | |
| 11 | 掃き出し法 (1) | 掃き出し法の学習 | |
| 12 | 掃き出し法 (2) | 掃き出し法の学習 | |
| 13 | 連立方程式の解法 (2) | 連立方程式の解法の学習 | |
| 14 | 経済学への応用 (1) | 応用学習 | |
| 15 | 経済学への応用 (2) | 応用学習 | |
| 16 | 期末試験 | | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>テキスト：テキストは使用しません。レジメを配布し、講義中に板書を行う。また、練習問題を配布する。</p> <p>参考文献：「初歩からの経済数学 (第2版)」, 三土修平, 日本評論社, 1996. 「経済数学」, 藤田渉, 勁草書房. 他講義時に紹介する。</p> | | |
| 学びの手立て | <p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学は、毎回の講義の積み重ねがととても重要です。毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。 ・学びを深めるために ・行列計算の基本については、高校の教科書や参考書が学びの助けになります。 | | |
| 評価 | <p>平常点 (講義への取組) 10%、期末試験90%。</p> | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：「経済数学II」は、「経済数学I」とは異なる手法を学びます。経済学の問題を解く手法を学ぶためには、履修すると良いでしょう。</p> <p>(2) 次のステージ：「産業連関論」等の経済系科目において、講義で学んだことを活かして新たな講義の理解を深めることができます。</p> |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|---------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 経済数学II | 後期 | 水3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 根路銘 もえ子 | 1年 | nerome@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 本講義では、経済学で使われる数学を初歩の基本的課題から応用分野までを解説する。練習問題を解くことにより、経済学に必要な数学の知識を身につける。「経済数学II」では、経済学で扱われる関数について学び、微分法の基礎を習得する。 | メッセージ 経済学を学ぶ上では、「数学」の知識はとても大切です。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。 |
| | 到達目標 ・微分法の基本的な計算ができる。 ・微分法を利用して経済学の問題が解ける。 | |

| | | | |
|-------|--|--------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス・微分とは | |
| | 2 | いろいろな関数と逆関数 | 関数の種類学習 |
| | 3 | 指数関数と対数関数 | 関数の種類学習 |
| | 4 | 極限值 | 極限値の学習 |
| | 5 | 導関数 | 導関数の学習 |
| | 6 | 微分法(1) | 微分法の基本学習 |
| | 7 | 微分法(2) | 微分法の基本学習 |
| | 8 | 微分法(3) | 微分法の基本学習 |
| 9 | 関数の増減 | 微分法の基本学習 | |
| 10 | 経済学への応用(1) | 経済学への応用解法 | |
| 11 | 経済学への応用(2) | 経済学への応用解法 | |
| 12 | 偏微分 | 偏微分の基本学習 | |
| 13 | 高階偏導関数 | 偏微分の基本学習 | |
| 14 | 全微分 | 全微分の基本学習 | |
| 15 | ラグランジュ乗数法 | ラグランジュ乗数法の学習 | |
| 16 | 期末試験 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など テキスト：テキストは使用しません。レジメを配布し、講義中に板書を行う。また、練習問題を配布する。 参考文献：「初歩からの経済数学」, 三土修平, 日本評論社, 1996. 「経済数学」, 藤田渉, 勁草書房. 他講義時に紹介する。 | | |
| | 学びの手立て 履修の心構え ・数学は、毎回の講義の積み重ねがとても重要です。毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。 学びを深めるために ・微分法の基本については、高校の教科書や参考書が学びの助けになります。 | | |
| | 評価 平常点（講義への取組）10%、期末試験90%。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：「経済数学I」では、「経済数学II」とは異なる手法を学びます。経済学の問題を解く手法を学ぶためには、履修すると良いでしょう。 (2) 次のステージ：「ミクロ経済学」等の経済系科目において、講義で学んだことを活かして新たな講義の理解を深めることができます。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 経済地理 I | 前期 | 火 3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 小川 護 | 1年 | メールでお問い合わせください。 mail:ogawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 経済地理学の課題、方法、視角について概観したあと、日本および沖縄、そして世界の農業地域の形成と構造および農業立地論について考察していく予定である。適宜、関連資料の配付、視聴覚教材も利用する。 | メッセージ 日頃、ニュースなどでわからない場所がでてきたら、地図で確認する習慣をつけてください。 |
| | 到達目標 日常、新聞やテレビのニュースでみる農業関係の事柄について理解できるようにする。 | |

| | | | |
|-------|--|-------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 経済地理学の課題・方法・視角(1) | プリントの復習 |
| | 2 | 経済地理学の課題・方法・視角(2) | プリントの復習 |
| | 3 | 日本の農業(1) | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 4 | 日本の農業(2) | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 5 | 沖縄の農業 | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 6 | 世界の農業地域(1) | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 7 | 世界の農業地域(2) | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 8 | 世界の農業地域(3) | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 9 | 世界の農業地域(4) | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 10 | 農業立地論 | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 11 | 世界の地域開発 | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 12 | 日本の地域開発 | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 13 | 農業と食糧問題(1) | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 14 | 農業と食糧問題(2) | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 15 | まとめ | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 16 | テスト | |
| | テキスト・参考文献・資料など 帝国書院「資料地理の研究」、「新詳高等地図」 講義の中で適宜紹介する。 | | |
| | 学びの手立て 1. 板書事項、口頭で説明したことを必ずノートに記述すること。 2. 配布プリントは必ずファイルに綴り、復習すること。 | | |
| | 評価 出席状況、レポート、テストを中心に総合的に判断する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 1. 日本や世界の食料問題、人口問題について関心をもってもらおう。→人口食糧論 2. 日本や世界の鉱工業、商業活動に関心をもってもらおう。→経済地理II |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|-------|------|---------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 経済地理Ⅱ | 後期 | 火3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 小川 護 | 1年 | メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 経済地理Ⅱでは、日本と世界の工業地域について学習する。とくに、工業の立地変動、についても講義する予定である。さらに、都市地理学、商業地理学についても触れて行きたいと思っている。適宜、関連資料の配付、ビデオ教材等の視聴覚教材も利用する。 | メッセージ 日頃、ニュースなどでわからない場所がでてきたら、地図で確認する習慣をつけてください。 |
| | 到達目標 日常、新聞やテレビのニュースでみる工業関係の事柄について理解できるようにする。 | |

| | | | |
|-------|--|------------------|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスを熟読すること |
| | 2 | 経済地理学の見方、考え方(1) | プリント、テキストの復習 |
| | 3 | 経済地理学の見方、考え方(2) | プリント、テキストの復習 |
| | 4 | 工業の分類と統計 | プリント、テキストの復習 |
| | 5 | 工業の発達と経済 | プリント、テキストの復習 |
| | 6 | わが国の工業地域(1) | プリント、テキストの復習 |
| | 7 | わが国の工業地域(2) | プリント、テキストの復習 |
| | 8 | わが国の工業地域(3) | プリント、テキストの復習 |
| | 9 | 世界の工業地域(1) | プリント、テキストの復習 |
| | 10 | 世界の工業地域(2) | プリント、テキストの復習 |
| | 11 | 世界の工業地域(3) | プリント、テキストの復習 |
| | 12 | 世界の工業地域(4) | プリント、テキストの復習 |
| | 13 | 都市の概念 | プリント、テキストの復習 |
| | 14 | 小売業の立地と中心地 | プリント、テキストの復習 |
| | 15 | 中枢管理機能の立地と都市システム | プリント、テキストの復習 |
| | 16 | テスト | |
| | テキスト・参考文献・資料など 『新詳高等地図』、帝国書院、1500円、『新詳 資料地理の研究』、帝国書院、定価980円 | | |
| | 学びの手立て 1. 板書事項、口頭で説明したことを必ずノートに記述すること。 2. 配布プリントは必ずファイルに綴ること。 。 | | |
| | 評価 出席状況、レポート、テストを中心に総合的に判断する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 工業、都市、商業などの地理的事情について、地域的把握、分布論や立地論の視点から理解できるようにする。 関連科目:経済地理Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ、沖縄の地理 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 計量経済学Ⅰ | 前期 | 月3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 友知 政樹 | 3年 | メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 本講義の目的は、多変量解析法のひとつである回帰分析を基軸に計量経済学の基礎を学ぶことである。具体的には、計量経済学の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用して統計処理し、その方法ならびに結果の解釈についての理解を深めいく。 | メッセージ 計量経済学は楽しいかつパワフルな学問です。 |
| | 到達目標 ねらいの達成。 | |

| | | | |
|-------|---|---------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 基本統計量とエクセル（1） | |
| | 3 | 基本統計量とエクセル（2） | |
| | 4 | 基本統計量とエクセル（3） | |
| | 5 | 単回帰モデル（1） | |
| | 6 | 単回帰モデル（2） | |
| | 7 | 重回帰モデル（1） | |
| | 8 | 重回帰モデル（2） | |
| 9 | 重回帰モデル（3） | | |
| 10 | 回帰モデルの仮説検定（1） | | |
| 11 | 回帰モデルの仮説検定（2） | | |
| 12 | ダミー変数（1） | | |
| 13 | ダミー変数（2） | | |
| 14 | 総まとめ | | |
| 15 | 最終試験 | | |
| 16 | | | |
| | テキスト・参考文献・資料など [例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学、白砂堤津耶（著）、日本評論社（¥2,800+税）。 ・計量経済学、田中勝人（著）、岩波書店（¥2,100+税）。 ・計量経済学、山本拓（著）、新世社（¥3,300+税）。 ・計量経済学、浅野哲・中村二郎（共著）、有斐閣（¥3,000+税）。 | | |
| | 学びの手立て 毎回出席すること。 | | |
| | 評価 ・講義の評価は、出席状況、レポート、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。 ・出席回数が2/3に満たない者には単位を与えない。（公欠を除く） | | |

| | |
|-------|-----------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 計量経済学Ⅱ |
|-------|-----------------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 計量経済学Ⅱ | 後期 | 月3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 友知 政樹 | 3年 | メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 本講義の目的は、多変量解析法のひとつである回帰分析を軸に計量経済学の基礎を学ぶことである。具体的には、回帰分析における多重共線性や系列関連の問題の理解を深め、さらに連立方程式モデルや産業連関分析についても学ぶ。その際、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら理解を深めていく。 | メッセージ 計量経済学は楽しいかつパワフルな学問です。 |
| | 到達目標 偉いの達成。 | |

| | | | |
|-------|---|-------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 回帰モデルの復習（1）単回帰モデル | |
| | 3 | 回帰モデルの復習（2）重回帰モデル | |
| | 4 | 回帰モデルの復習（3）ダミー変数 | |
| | 5 | 多重共線性（1） | |
| | 6 | 多重共線性（2） | |
| | 7 | 系列関連（1） | |
| | 8 | 系列関連（2） | |
| 9 | 連立方程式モデル（1） | | |
| 10 | 連立方程式モデル（2） | | |
| 11 | 連立方程式モデル（3） | | |
| 12 | 産業連関分析（1） | | |
| 13 | 産業連関分析（2） | | |
| 14 | 総まとめ | | |
| 15 | 最終試験 | | |
| 16 | | | |
| | テキスト・参考文献・資料など [例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学、白砂堤津耶（著）、日本評論社（¥2,800+税）。 ・計量経済学、田中勝人（著）、岩波書店（¥2,100+税）。 ・計量経済学、山本拓（著）、新世社（¥3,300+税）。 ・計量経済学、浅野哲・中村二郎（共著）、有斐閣（¥3,000+税）。 | | |
| | 学びの手立て 毎回出席すること。 | | |
| | 評価 ・講義の評価は、出席状況、レポート、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。 ・出席回数が2/3に満たない者には単位を与えない。（公欠を除く） | | |

| | |
|-------|--------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 演習Ⅰ |
|-------|--------------------|

| | | | | |
|--------|---------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 現代沖縄経済史 | 後期 | 木3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 前泊 博盛 | 2年 | メールで対応。下記のメールアドレスへ。 hmaeomari@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>沖縄の戦後経済史を概説し、現状と課題、展望を学びます。戦後の沖縄経済は無通貨時代から貨幣経済への移行、配給から自由経済へ、復興政策から振興政策への政策転換へ。沖縄戦で壊滅した社会・教育・産業インフラを再整備から始まり、米軍統治下での管理・統制型経済、米軍主導型経済へ。日本への施政権移管後の基地依存、公共事業依存、観光依存などの3K経済の源流を辿ります。</p> | <p>出席を重視します。毎回、重要なキーワードを提示します。知っているようで、実は知らない沖縄の実相を、数字で検証します。</p> |

| | |
|------|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 統計データや史実と実態経済の乖離について調査・分析する手法を身に着ける。 複数のデータや史実を検証し、新たなデータや史実の発掘、整理を行う手法を学ぶ。 複数のテーマについて、短時間でまとめ、文章化する力を身に着ける。 「常識」を疑い、事実を積み上げ、真実を見抜く力を身に着ける。 |
|------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>【授業の展開計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：講義の進め方 2：戦前沖縄経済の総括 3：沖縄戦と戦中・戦後経済 4：米軍統治と統制経済 5：戦後復興政策 6：米軍統治下の振興計画 7：さとうきびブームと糖業 8：復帰前の金融、財政、経済の総括 9：本土復帰時の沖縄経済 10：沖縄振興開発計画と産業政策 11：復帰特別措置による企業・産業振興 12：3K経済と沖縄振興策 13：新6K経済とポスト新振計 14：沖縄振興開発計画と沖縄振興政策 15：沖縄振興策の効果と課題 16：後期試験 |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>毎回配布するプリントに沿って講義します。</p> <p>参考文献①琉球銀行編『戦後沖縄経済史』琉球銀行②櫻澤誠『沖縄現代史』中公新書③松田賀孝著『戦後沖縄社会経済史研究』東大出版会④牧野浩隆著『沖縄経済を考える』新報出版印刷⑤南方同胞援護会編『沖縄の産業・経済報告集』南方同胞援護会、『沖縄県史』など</p> |

| | |
|--------|--|
| 学びの手立て | <p>「戦後」とは、いつからを指すでしょうか。沖縄戦の「終結日」はいつでしょうか。「4・28」は何の日でしょうか。「5・15」とは？歴史の中で、節目になった日、沖縄経済の転換点、今後の可能性など、みなさんの新鮮な視点、疑問、展望を踏まえ、講義します。積極的な発言、質問を期待しています。歴史を疑い、事実を積み上げ、真実をつかむ。資料をじっくり読み、自分の言葉で表現することに挑戦してください。</p> |
|--------|--|

| | |
|----|---|
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・出席を重視。5回欠席で「不可」。欠席時には「欠席届」提出を。 ・毎回、講義の課題回答、感想、質問を提出。その内容も踏まえレポートで評価します。 |
|----|---|

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>近代沖縄経済史、沖縄経済論ⅠⅡ、島嶼経済論ⅠⅡ</p> |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 公害概論 | 後期 | 火1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -玉栄 章宏 | 2年 | 電話：090-8412-1064 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 本講義では、世界における公害問題の歴史、日本の戦前の公害、戦後の高度経済成長期の公害問題、国による法整備、産業界の努力による公害の克服について紹介する。 | メッセージ 国内外、県内の公害に関する新聞、テレビ、ネット情報などを大いに参考にしてください。 |
| | 到達目標 過去の国内外の公害の歴史を学ぶことは重要である。学んだことを学内で発表、新聞投稿を行うことなどを期待します。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの準備 | 到達目標 過去の国内外の公害の歴史を学ぶことは重要である。学んだことを学内で発表、新聞投稿を行うことなどを期待します。 |
|-------|--|

| | | | |
|-------|-----------|---------------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス、公害とは | |
| | 2 | 海外における公害の歴史 | |
| | 3 | 日本における公害の歴史 | |
| | 4 | 戦後の4大公害（イタイイタイ病、他） | |
| | 5 | 戦後の4大公害（イタイイタイ病・DVD） | |
| | 6 | 戦後の4大公害（水俣病・新潟水俣病・DVD） | |
| | 7 | 戦後の4大公害（四日市ぜんそく） | |
| | 8 | 先進国から輸出された公害 | |
| | 9 | 公害と法規制の歴史（公害対策基本法、公害国会、他） | |
| | 10 | 生活環境問題への移行 | |
| | 11 | 水質汚濁 | |
| | 12 | 騒音・振動・悪臭 | |
| | 13 | 土壌汚染、地盤沈下 | |
| | 14 | 沖縄県の環境問題①（沖縄県環境基本計画、他） | |
| 15 | 沖縄県の環境問題② | | |
| 16 | 試験 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。DVDや各種配布資料など（ファイルに綴じ、毎回持参する）。 |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 学びの手立て 授業でわからないことがあれば、積極的に質問してください。また、授業中はスマホで検索して学びに活かすことは大いに勧めます。但し、試験中はスマホの使用は禁止です。 |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 評価 ・ 期末試験によりする。再試験は実施しない。 ・ 欠席日から2週間以上過ぎた欠席届は受け取らないので注意する。 以下の場合、単位は与えない ・3分の1以上の欠席（欠席理由は考慮しない）。 ・ 出席で代筆が明らかとなった場合、期末試験を受けなかった場合、試験で不正をした場合。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 授業で学んだことを卒業論文に取り上げる場合や、受講後にもっと勉強したいこと等があれば、遠慮なく連絡ください。電話：090-8412-1064、e-mail：tamae-ak@amber.plala.or.jpです。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 交通と環境 | 後期 | 金1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -玉栄 章宏 | 2年 | 電話：090-8412-1064 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 本講では、はじめに交通による環境への影響、大気汚染や二酸化炭素排出量、騒音を取り上げる。次に交通業界や観光業界、流通業界など交通と関連する業界の現状、特徴、環境保全の取組などを概説する。また、交通環境政策について交通需要マネジメントやモビリティ・マネジメント、環境対策を中心とした都市交通計画、環境政策統合（EPI）からみた交通政策について考える。 | 国内外、県内の交通に関する新聞、テレビ、ネット情報などを大いに参考にしてください。 |
| 到達目標 | ここ最近の「交通と環境」の関わりを学ぶことは大変重要である。学んだことを学内で発表、新聞投稿が出来ることなどを期待する。 | |

| | | | |
|-------|--|-------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義説明 | |
| | 2 | 公共交通と社会 | |
| | 3 | 交通と大気汚染① | |
| | 4 | 交通と大気汚染② | |
| | 5 | 交通と大気汚染③ | |
| | 6 | 交通と二酸化炭素排出量 | |
| | 7 | 交通需要マネジメント①自家用車1) | |
| 8 | 交通需要マネジメント①自家用車2) | | |
| 9 | 交通需要マネジメント②業務用 | | |
| 10 | 交通需要マネジメント③物流 | | |
| 11 | モビリティ・マネジメント①海外：ソフト事業 | | |
| 12 | モビリティ・マネジメント②海外：ロードプライジング | | |
| 13 | モビリティ・マネジメント③日本 | | |
| 14 | モビリティ・マネジメント④提言・グループ活動：沖国大編 | | |
| 15 | 業界の環境保全対策：運輸業の環境保全対策 | | |
| 16 | 試験 | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。DVDや各種配布資料など（ファイルに綴じ、毎回持参する）。 | | |
| | 学びの手立て 授業でわからないことがあれば、積極的に質問してください。また、授業中はスマホで検索して学びに活かすことは大いに勧めます。但し、試験中はスマホの使用は禁止です。 | | |
| | 評価 ・ 期末試験により評価する。再試験は実施しない。 ・ 欠席日から2週間以上過ぎた欠席届は受け取らないので注意する。 ・ 以下の場合、単位は与えない ・3分の1以上の欠席（欠席理由は考慮しない）。 ・ 出席で代筆が明らかとなった場合、期末試験を受けなかった場合、試験で不正をした場合。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 授業で学んだことを卒業論文に取り上げる場合や、受講後にもっと勉強したいこと等があれば、遠慮なく連絡ください。電話：090-8412-1064、e-mail:tamae-ak@amber.plala.or.jpです。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|---------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 国際経済論 I | 前期 | 木 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋 伊津子 | 3年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|----------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 国際経済に関心を持たせる。 自身の生活の中で国際経済からの影響を認識させる。 国際経済に関するニュースなどに対して主体的に考える習慣をつけさせる。 | メッセージ 初学者でもわかりやすく指導します。 |
| | 到達目標 ・国際経済の基本的な語句や理論を理解できる。 ・授業で得た知識をもとに国際経済に関するテーマに関して調べ、報告できる。 | |

| | | | |
|-------|---|----------------------|-----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスをよく読む |
| | 2 | マクロ経済学の復習（1）－国民所得勘定－ | 授業の復習 |
| | 3 | マクロ経済学の復習（2）－国際収支－ | 〃 |
| | 4 | 外国為替の仕組み | 〃 |
| | 5 | 為替リスクヘッジの手法（1） | 〃 |
| | 6 | 為替リスクヘッジの手法（2） | 〃 |
| | 7 | 為替レートの決定理論 | 〃 |
| | 8 | 為替制度の歴史、現代の為替制度 | 〃 |
| | 9 | 為替レートと貿易 | 〃 |
| | 10 | 貿易・投資の自由化、通商問題 | 〃 |
| | 11 | マンデル＝フレミングモデル（1） | 〃 |
| | 12 | マンデル＝フレミングモデル（2） | 〃 |
| | 13 | 報告会（1） | 報告準備 |
| | 14 | 報告会（2） | 〃 |
| | 15 | 報告会（3） | 〃 |
| | 16 | 期末テスト | 授業の復習 |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。参考文献は「コア・テキスト国際金融論」藤井英二（著）新世社など。 | | |
| | 学びの手立て ・やむを得ない事情で遅刻・欠席する場合は必ず事前に連絡すること。 ・疑問点やわからないことは積極的に質問して下さい。 | | |
| | 評価 小テストを毎回実施する。 授業と関連するテーマについてグループで調べて報告する。 小テスト（60%）＋報告（30%）＋期末テスト（10%） | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「マクロ経済学 I・II」、「金融論 I・II」 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 国際経済論Ⅱ | 後期 | 木1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋 伊津子 | 3年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <ul style="list-style-type: none"> 国際経済に関心を持たせる。 国際経済の課題について自分なりのの考えができるようにする。 | <p>初学者でもわかりやすく指導します。前期の「国際経済学Ⅰ」を履修済みでなくても問題ありません。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 国際経済の時事問題について理解できる。 国際経済の時事問題について調べ、報告できる。 | |

| | | | |
|----------------|---|-------------------|-----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスをよく読む |
| | 2 | 日本の国際収支の変化、日米比較 | 授業の復習 |
| | 3 | 国際金融市場 | 〃 |
| | 4 | 金融危機（１）－南米債務危機－ | 〃 |
| | 5 | 金融危機（２）－アジア通貨危機－ | 〃 |
| | 6 | 金融危機（３）－サブプライム危機－ | 〃 |
| | 7 | 欧州の通貨統合とギリシャ危機 | 〃 |
| 8 | 経済のグローバル化（１） | 〃 | |
| 9 | 経済のグローバル化（２） | 〃 | |
| 10 | 経済のグローバル化（３） | 〃 | |
| 11 | 開発経済論（１） | 〃 | |
| 12 | 開発経済論（２） | 〃 | |
| 13 | 報告会（１） | 報告準備 | |
| 14 | 報告会（２） | 〃 | |
| 15 | 報告会（３） | 〃 | |
| 16 | 期末テスト | 授業の復習 | |
| テキスト・参考文献・資料など | 教科書は指定しない。参考文献は「コア・テキスト国際金融論」藤井英二（著）新世社など。 | | |
| 学びの手立て | <ul style="list-style-type: none"> やむを得ない事情で遅刻・欠席する場合は必ず事前に連絡すること。 疑問点やわからないことは積極的に質問して下さい。 | | |
| 評価 | <p>小テストを毎回実施する。 授業と関連するテーマについて個人で調べて報告する。</p> <p>小テスト（60%）＋報告（30%）＋期末テスト（10%）</p> | | |

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「金融論Ⅰ・Ⅱ」 |
|-------|-------------------------------------|

| | | | | |
|--------|-----------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 産業と環境 | 後期 | 火2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 山川（矢敷） 彩子 | 2年 | メールの場合： a.yamakawa@okiu.ac.jp 研究室： 9号館505室 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>沖縄県は四方を海に囲まれた海洋島嶼県であり、サービス産業などの第3次産業とともに、農林水産業の第1次産業も盛んである。本講義では、産業の中でも特に水産業と環境に関して学んでいくこととする。具体的には、沖縄の海岸環境、沖縄の水産業の歴史、サンゴ礁漁業と環境への負荷などについて、座学と巡検（糸満海人工房資料館見学）により理解を深める。</p> | <p>抽選から漏れた場合、登録調整期間中に教員に直接申し出れば、追加登録を認める。本講義は最終年次においても追試および再試験は実施しないので、4年次は登録の際注意する。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 沖縄の海岸の開発状況、埋立状況を理解する。 沖縄のサンゴ礁漁業の歴史を知る。 沖縄の現在の水産業の様子を実際に直売所に行って実感する。 | |

| | | | |
|----------------|---|--|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | シラバスを熟読する。 |
| | 2 | 沖縄の海岸環境 | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 3 | 沖縄の海岸開発 | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 4 | 沖縄のサンゴ礁漁業の歴史（1）（貝類利用の歴史） | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 5 | 沖縄のサンゴ礁漁業の歴史（2）（DVD鑑賞） | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 6 | 沖縄のサンゴ礁漁業の歴史（3）（糸満売り～本土復帰） | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 7 | 沖縄の伝統漁業 | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 8 | 学外巡検（糸満海人工房・資料館） | レポート作成する。 |
| | 9 | 日本の水産業（全般） | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 10 | 沖縄の水産業（1）（獲る漁業） | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 11 | 沖縄の水産業（2）（獲る漁業） | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 12 | 沖縄の水産業（3）（養殖漁業） | 関連するTV、ニュースを見る。 |
| | 13 | 学外巡検（泊いゆまちor泡瀬パヤオ直売店or糸満漁協「お魚センター」の見学） | レポート作成する。 |
| 14 | 海外のサンゴ礁漁業と環境への負荷(1) | 関連するTV、ニュースを見る。 | |
| 15 | 海外のサンゴ礁漁業と環境への負荷(2) | 関連するTV、ニュースを見る。 | |
| 16 | 筆記試験 | 試験対策をする。 | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。 必要に応じて紹介する。</p> | | |
| 学びの手立て | <p>水産業や海の生物に関するテレビ番組を試しに見てみる。それらのインターネットニュースをクリックしてみる、など日常生活の中で情報に触れ合っておくと、より講義が身近なものに感じるはずです。 また、実際にさまざまな漁港に行って実際に食べてみるのもオススメです。</p> | | |
| 評価 | <p>講義の際に毎回記入する大福帳（意見、感想、質問）の内容、試験結果、2つの巡検レポートの提出により総合的に評価する。3分の1以上の欠席、試験の欠席やレポート未提出の学生には単位を与えない。 大福帳30%、レポート20%、試験50%とする。</p> | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
| | 環境資源論、生物学I・II、自然科学概論I・II、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、土壌学概論、演習I&II（山川ゼミ）など。 |

| | | | | |
|--------|----------|------|-----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 産業連関論の応用 | 後期 | 月 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 3年 | t. toguchi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>財やサービスといった各産業の経済の流れを表す産業連関表について、産業連関表の基となる産業や企業の行動を併せて説明していきます。</p> <p>授業の目的は、以下の2点が主体となります。</p> <p>①産業連関表の中身である企業行動について</p> <p>②各産業の企業行動に伴う産業連関の意味について</p> | <p>産業連関表の仕組みを、より詳細に理解することで実経済や企業行動を理解することに役立ちます。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 産業連関表の仕組みをより詳細に理解する。 経済学を基とする企業行動を理解する。 企業行動と産業連関の意味を理解する。 | |

| | | | |
|----------------|--|--------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 産業連関表とマクロ経済学 | 授業ノートを参照 |
| 2 | 産業連関表と産業構造 | | |
| 3 | 産業組織と企業行動の関係 | | |
| 4 | 産業組織論の基礎 | | |
| 5 | 産業均衡と多角化行動 | | |
| 6 | 企業と付加価値について | | |
| 7 | 企業による市場の独占及び寡占に伴う産業連関の意味 | | |
| 8 | 公共事業の扱いについて | | |
| 9 | 企業競争と価格差別 | | |
| 10 | 企業行動と厚生損失について | | |
| 11 | 産業連関にみる企業行動の影響 | 配布資料を参照 | |
| 12 | 企業合併に伴う産業連関の変化 | | |
| 13 | 企業の市場参入と退出の条件 | | |
| 14 | 地域における産業組織の行動変化 | | |
| 15 | 産業連関分析と将来予測 | | |
| 16 | 試験 | | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>・適時、資料を用意して配布します。</p> | | |
| 学びの手立て | <p>・必要なときに授業内容を振り返れるよう、授業ノートを作ることが望ましい。</p> | | |
| 評価 | <p>・中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。</p> <p>・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。</p> | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業連関から実経済の企業行動について学ぶことから、「マクロ経済学」や「地域経済学」の理解に役立てて欲しい。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|----------|------|------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 産業連関論の基礎 | 前期 | 月2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 3年 | t. toguchi@oki.u.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 財やサービスといった各産業の経済の流れを表す産業連関表について、見方や考え方について説明していきます。授業では基礎となる行列から復習し、Excelを用いた産業連関表による経済波及効果の算出方法から、公務員試験範囲にある産業連関の解き方まで広く学びます。 | 産業連関表の仕組みを理解することで実経済や企業行動を理解することに役立ちます。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 産業連関表の仕組みを理解する。 Excelで経済波及効果を算出できるようになる。 公務員試験範囲の産業連関の問題を解けるようになる。 | |

| | | | |
|----------------|---|------------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 産業連関表について | 授業ノートを参照 |
| | 2 | 産業連関表の意義 | |
| | 3 | 国内の産業連関表の役割について | |
| | 4 | 海外の産業連関表について | |
| | 5 | 産業連関分析のための準備－産業連関表の仕組み | 配布資料を参照 |
| | 6 | 産業連関分析のための準備－行列式について | |
| | 7 | 競争輸入型産業連関表と非競争輸入型産業連関表 | |
| 8 | レオンチェフ逆行列について1 | | |
| 9 | レオンチェフ逆行列について2 | | |
| 10 | 逆行列と波及効果の計算方法1 | 配布資料を参照 | |
| 11 | 逆行列と波及効果の計算方法2 | | |
| 12 | 最終需要と波及効果について | | |
| 13 | 産業連関分析の事例1 | | |
| 14 | 産業連関分析の事例2 | | |
| 15 | 付加価値波及効果について | | |
| 16 | 試験 | | |
| テキスト・参考文献・資料など | <ul style="list-style-type: none"> 適時、資料を用意して配布します。 | | |
| 学びの手立て | <ul style="list-style-type: none"> 必要ときに授業内容を振り返れるよう、授業ノートを作ることが望ましい。 産業連関分析を行う際にEXCELファイルを保存できるUSBやクラウドがあることが望ましい。 | | |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> 中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。 テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 後期にある「産業連関論の応用」を続けて受講すると、より詳細な産業連関表の役割と実経済の企業行動が理解できると思います。 公務員志望の学生は「マクロ経済学」を併せて受講することで経済の試験範囲をカバーできると思います。 |

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 社会調査演習 | 通年 | 木2 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 上江洲 薫 | 3年 | 研究室5-632 kuezu@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 本演習の目的は、受講生が社会調査のすべての段階を経験することによって、社会調査の理論と方法を体得することである。具体的には、沖縄の消費・観光行動と地域社会を主要テーマに、少人数の単位のグループごとに詳細調査テーマを決定し、学内の学生や学外の事業社や地域住民などを対象に、量的調査や質的調査を実施し、収集したデータを分析した後報告書を作成する。 | 本演習は「社会調査士」の資格科目である。社会の意識やニーズを把握する手法として、社会人になっても大いに役立つため、積極的に受講して欲しい。 |
| 到達目標 | 社会調査の全段階（詳細な調査テーマの決定、調査計画、調査票や質問項目の作成、調査実施、集計・分析、報告書作成）を主体的に実施することができる。 | |

| | |
|---|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント |
| | <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 調査テーマの決定（4月） (2) 調査テーマに関する現状と課題調査（5月） (3) 調査テーマに関する既存のデータ分析（6月） (4) 調査企画書（対象者・対象地域等）の作成（6月） (5) 調査票の作成とサンプリングの実施（7～8月） (6) 調査の実施（9～10月） (7) 調査データの集計と分析、PASWの使用方法（11月） (8) 調査報告書の作成（12～2月） |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：特に指定はない。</p> <p>参考文献：①大谷信介他編著（2013）『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房。 ②原 純輔・浅川達人（2005）『社会調査』放送大学教育振興会。③盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣。④島崎哲彦編（2000）『社会調査の実際—統計調査の方法とデータの分析』学文社。 ⑤社会調査の基礎（2010）『社会調査の基礎—社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂。⑥小木曾道夫（2006）『SPSSによるやさしいアンケート分析』オーム社。</p> |
| | <p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え：グループで社会調査の全工程を実施するため、欠席しないようにする。 途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。</p> <p>学びを深めるために：社会調査士の資格取得希望者は、出来るだけ3年次で単位を取得して欲しい。「社会調査論Ⅰ」と「社会調査論Ⅱ」の単位を取得した後に、本演習を受講することを推奨する。なお、社会調査協会http://jasr.or.jp/のWebページで「社会調査士」の取得科目を確認して下さい。経済学科と地域環境政策学科で、「社会調査士」で指定された資格科目は異なります。</p> |
| <p>評価</p> <p>グループ報告（30%）：グループの調査結果の報告内容を評価します。 報告書（40%）：グループの報告書の水準を評価します。 平常点（30%）：グループ活動における各自の貢献度を評価します。</p> | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ：社会に出ても本演習で習得した思考力、計画性、分析力等を発揮できるように頑張ってください。</p> <p>関連科目：「社会調査論Ⅰ」「社会調査論Ⅱ」「統計学Ⅰ・Ⅱ」「環境統計学Ⅰ・Ⅱ」「統計情報処理Ⅰ・Ⅱ」「計量経済学Ⅰ・Ⅱ」「経済統計処理Ⅱ」は受講して欲しい。</p> |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|---------|------|---------------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 社会調査論 I | 前期 | 土 3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -千住 直広 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 ptt514@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>社会に対するさまざまな問題を調べ、明らかにしていく社会調査は、現代社会を読み解く中で必要な力となります。また、実際、社会に出たとき、自らの仕事として向かい合うことも出てきます。本講義では、卒論及び研究時の社会調査のノウハウを学ぶだけではなく、実社会に出てからも社会を読み解くノウハウとして、社会調査の意義と方法など一連の基本的事項を実例を交えながら学びます。</p> | <p>リサーチリテラシーを高めたいなど、現代社会を読み解く術としての学びの機会ともなります。</p> |

| | |
|------|---|
| 到達目標 | 社会調査の理解、また、社会調査を活用できるよう手段としてのノウハウを身につけられるようにしたいと思います。 |
|------|---|

| | | | |
|----------------|--|--------------------------------|-------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | イントロダクション（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介） | シラバスをよく読むこと |
| | 2 | 社会調査とは（あるれる社会調査、社会調査の意義、用途） | レジュメをよく読むこと |
| | 3 | 社会調査史（社会調査の変遷） | 同上 |
| | 4 | さまざまな社会調査法（社会調査の種類） | 同上 |
| | 5 | 社会調査の実例 | 同上 |
| | 6 | 社会調査をやるにあたって（調査上の倫理、注意事項） | 同上 |
| | 7 | 社会調査の全体像（調査設計から公表まで） | 同上 |
| | 8 | 情報収集の方法（1）（官公庁、図書館等の活用） | 同上 |
| | 9 | 情報収集の方法（2）（インターネットの活用） | 同上 |
| | 10 | 既存の統計データの収集・分析（官公統計の種類と特徴） | 同上 |
| | 11 | 量的調査の実例（量的調査の目的・内容） | 同上 |
| | 12 | 質的調査の実例（質的調査の目的・内容） | 同上 |
| | 13 | 質的調査（1）（聞き取り） | 同上 |
| 14 | 質的調査（2）（参与観察） | 同上 | |
| 15 | 質的調査（3）（ドキュメント分析） | 同上 | |
| 16 | テスト（ふりかえりとまとめ） | | |
| テキスト・参考文献・資料など | テキスト・参考文献・資料など 大谷信介他編著「社会調査へのアプローチ-論理と方法-」ミネルヴァ書房 その都度、レジュメ・資料等を配布します。 | | |
| 学びの手立て | 私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。 病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。 講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。 | | |
| 評価 | レポート及びテスト（50%）、平常点（50%）を総合的に評価する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目として、「統計学」、「計量経済学」などがある。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|---------------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 社会調査論Ⅱ | 後期 | 土3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -千住 直広 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 ptt514@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 社会調査の基本的事項を踏まえた上で、より実践的なノウハウを習得するために、主に量的調査に重点をおいて、収集した資料やデータを整理し、分析するための具体的な調査企画・設計、サンプリング、調査の実施、データの整理・集計・分析等を学びます。実際に、グループ毎にテーマを設定し、調査票を作成後、調査を実施し、調査結果を発表してもらいます。 | メッセージ リサーチリテラシーを高めたいなど、現代社会を読み解く術としての学びの機会ともなります。 |
| | 到達目標 社会調査の理解、また、社会調査を活用できるよう手段としてのノウハウを身につけられるようにしたいと思います。 | |

| | | | |
|-------|--|---------------------------------|-------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | イントロダクション（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介） | シラバスをよく読むこと |
| | 2 | 社会について考える（テーマ設定のための情報収集） | レジュメをよく読むこと |
| | 3 | 概念の活用（定義の重要性、操作概念の活用） | 同上 |
| | 4 | 仮説構成の方法（独立変数と従属変数） | 同上 |
| | 5 | 調査の設計、企画（調査企画） | 同上 |
| | 6 | 調査票の作成（質問文の作成とその注意点） | 同上 |
| | 7 | 調査票の作成（調査票全体構成とその注意点） | 同上 |
| | 8 | 調査票作成の実践（グループ学習） | 同上 |
| | 9 | サンプル数の決定法（算出法）と標本誤差 | 同上 |
| | 10 | 調査の実施方法（量的調査・調査票の配布及び回収法等） | 同上 |
| | 11 | 調査の実施方法（質的調査・調査対象者へのアプローチ等） | 同上 |
| | 12 | 調査票調査の実施（グループによる配布・回収） | 同上 |
| | 13 | データの整理・集計の実際（コーディング・データクリーニング等） | 同上 |
| | 14 | データ分析、報告の方法（グループ学習） | 同上 |
| 15 | グループによるアンケート調査の結果報告 | 同上 | |
| 16 | グループ発表 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など 大谷信介他編著「社会調査へのアプローチ-論理と方法-」ミネルヴァ書房 その都度、レジュメ・資料等を配布します。 | | |
| | 学びの手立て 私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。 病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。 講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。 | | |
| | 評価 レポート及びテスト（50%）、平常点（50%）を総合的に評価する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目として、「統計学」、「計量経済学」などがある。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|---------|------|---------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 集落地理論 I | 前期 | 木 5 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 崎浜 靖 | 2年 | sakihama@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 集落地理論 I では、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定である。とくに絵図資料や地図資料の読解方法、空中写真を用いた景観分析の方法、さらにフィールドワークの方法に重点を置く。また、映像資料、民俗学・地域史などの研究成果を盛り込みながら、沖縄村落の社会構造についてもふれる予定である。 | メッセージ 本講義では、主に沖縄の集落について検討するため、沖縄関連の文献を渉猟していることが望ましい。 |
| | 到達目標 ・村落の立地・景観と社会構造の特性を関連づける。 ・沖縄村落の地理的・歴史的特性を説明できる。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 1 村落地理学の研究史 2 村落と地図①－地形図の基礎－ 3 村落と地図②－地形図の利用方法－ 4 村落と地図③－空中写真の判読と利用方法－ 5 村落と地図④－国土基本図と地籍図－ 6 村落と地図⑤－古地図と絵図資料－ 7 村落の景観①－景観概念－ 8 村落の景観②－沖縄村落の景観－ 9 村落の景観③－景観研究の事例－ 10 村落の景観④－景観調査の方法－ 11 村落の景観⑤－景観調査の実際－ 12 村落の社会構造①－沖縄村落の歴史地理－ 13 村落の社会構造②－村落空間と祭祀構造－ 14 村落の社会構造③－村落社会調査の方法－ 15 村落の社会構造④－村落社会調査の実際 16 期末試験 |
| | テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 【参考文献】 ・仲松弥秀著『神と村』 鳥社 ・田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社 |
| | 学びの手立て ・講義中に課題を出すことも多くあるので、時間内でまとめて提出すること。 |
| | 評価 ・定期テスト（40点） ・レポート（30点） ・平常点：講義中の課題提出と発表（30点）（出席状況については、無断欠席が5回以上になると、「不可」となる） |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 ・「村落」と「都市」との関係性について理解を深める。 ・現代社会の中で、どのような地域政策が必要かを考える契機になります。 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 集落地理論Ⅱ | 後期 | 木5 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -濱里 正史 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 今後の地域と地域住民には自らの力で地域づくりをしていく力を養うことが求められる。そのための基礎は地域を知ることである。本講義では、集落地理のみならず人文・社会科学全般において重要な研究対象の1つである都市について、地理学的視点を重視しつつ身近な地域である「沖縄の集落と都市」を事例に学ぶことで、「地域づくりの力」の涵養に資することを目的とする。 | 地域づくりの力は、皆さんが社会に出て後、1市民としてあるいは職業人として必ず求められる力です。この力をどれだけ多くの人が習得できるかに、今後の沖縄社会、ひいては日本社会の行く末がかかっているといっても過言ではありません。こうした分野に興味を持ち積極的に参加したいという学生は、学年、学科を問わず、広く受け入れますので、ともに学びましょう。 |
| 到達目標 | 地域づくりの力の基礎は、①その地域が形成された過程とそのことに起因する現在の問題・課題を理解する、②それだけでなく、日々変化する地域の問題・課題についてアンテナを張り情報収集する習慣を身に付ける、の2点が重要である。本講義では、我々にとって最も身近な地域である沖縄本島中南部地域を事例に、その歴史と形成過程、その延長としての現在の問題・課題を学ぶだけでなく、新聞情報を活用して、現在進行形の問題・課題やその解決に向けたまちづくり・地域の取り組みを紹介する。そのことを通して、地域を見る目を養い、問題・課題を発見し、論理的に考え、解決策を立案する能力、いわゆる「地域づくりの力」の習得を目指す。 | |

| | | | |
|-------|---------------|-----------------------------------|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイドダンス及び集落地理・都市地理とは？ | |
| | 2 | 戦前における沖縄の集落と都市1（自然条件から見た沖縄の集落と都市） | 第2～10週：下記の通り |
| | 3 | 戦前における沖縄の集落と都市2（歴史過程から見た沖縄の集落と都市） | 予習：配布資料を事前に読み込む |
| | 4 | 沖縄本島中南部地域における戦後の都市形成1（基地と都市） | 復習：紹介図書群を用いた発展学習 |
| | 5 | 沖縄本島中南部地域における戦後の都市形成2（沖縄コナベーション） | |
| | 6 | 戦後の都市形成過程から生じる沖縄本島中南部地域の問題・課題の整理 | |
| | 7 | 戦後那覇市の都市形成と構造1（問題と課題） | |
| | 8 | 戦後那覇市の都市形成と構造2（問題・課題の解決に向けて） | |
| | 9 | 北谷町のまちづくり | |
| | 10 | 読谷村のむらづくり | |
| | 11 | まちづくりと地域振興の先進事例1（県内外） | 第11～13週：下記の通り |
| | 12 | まちづくりと地域振興の先進事例2（県内外） | 最新情報を用いるため復習中心 |
| | 13 | 沖縄におけるまちづくりと地域振興の展望 | 復習：自ら新聞等で先進事例を探す |
| | 14 | 都市国家・国際都市・海洋都市（シンガポール・香港・韓国済州島） | 予習：配布資料を事前に読み込む |
| 15 | 国際都市としての沖縄の未来 | 復習：紹介図書群を用いた発展学習 | |
| 16 | | | |

| | |
|-------|---------------------------------|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など 授業は配布資料を基に行う。 |
|-------|---------------------------------|

| | |
|--------|---|
| 学びの手立て | <p><履修の心構え等>：前期、「集落地理論Ⅰ」を履修していることが望ましい。私語や携帯電話・スマホなど他人の迷惑、授業の妨害になるような行為は禁止（場合によっては退室、受講停止を命じる）。</p> <p><学びを深めるために></p> <p>「地域づくりの力」は短期間で涵養できるものではない。①本講義で紹介する発展学習のための参考図書での学習、②新聞やインターネットなどによる最新情報キャッチの日常習慣化、③実際の地域観察、④様々な人に地域の話聞き・意見交換する習慣の獲得などについて、本講義をキッカケに、講義期間中から可能な範囲で実践・継続することが学びを深める。</p> |
|--------|---|

| | |
|----|--|
| 評価 | <p><評価方法・割合>：出席30点満点（2点×15回）及びレポート70点満点。</p> <p><評価基準>：出席は、単純に出席したか否かではなく、授業内容のまとめやコメント・感想・意見・質問を書く形式。内容によって評価する（0～2点）。名前・学籍番号のみで授業内容のまとめやコメント・感想・意見・質問がないものは0点とするので注意すること。レポートは、①情報収集、②情報の整理、③収集した情報に基づく分析、④自分なりの意見・見解の有無、⑤プレゼン資料としての説得力などの点について評価する。</p> |
|----|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p><次のステージ>「地域づくりの力」には広範な知識、現場に関する見聞・経験が求められる。したがって、①本講義で紹介する発展学習のための参考図書での学習、②新聞やインターネットなどによる最新情報キャッチの日常習慣化、③関連する科目の受講、④実際の地域観察、⑤様々な人に地域の話聞き・意見交換する習慣の獲得などについて、可能な範囲で実践・継続することを望む。</p> |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|---------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 情報産業論 | 後期 | 月 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 根路銘 もえ子 | 3年 | nerome@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>本講義は、情報産業への発展過程をはじめ、コンピュータ産業の現状、コンテンツ産業、メディア産業、インターネットビジネス、移動体通信および情報ビジネスについて学ぶことにより、今後の情報産業の動向や情報産業の発展が現代社会にどのような変化をもたらすのかを考察する。仮登録者数が上限を超えた場合「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。</p> | <p>高度情報化社会の現在、IT・ICT産業はめざましい発展を遂げています。我々が社会で生きていく中で欠かせない技術の一つになっています。そこで、それら産業を学ぶ事で社会の一員としてIT・ICTを活用してもらいたいと思います。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ITおよびICT産業の動向について理解できる。 ITおよびICTの時事問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。 情報産業に関する広い視野を養い、情報産業の将来を展望する能力を身につける。 | |

| | | | |
|----------------|--|---------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス・情報産業とは | |
| | 2 | 産業の流れ | 情報産業についての調べ学習 |
| | 3 | 通信インフラと電話ビジネス(1) | 電話ビジネスについての調べ学習 |
| | 4 | 通信インフラと電話ビジネス(2) | 電話ビジネスについての調べ学習 |
| | 5 | 通信インフラと電話ビジネス(3) | 電話ビジネスについての調べ学習 |
| | 6 | コンピュータおよび家庭用IT機器(1) | デジタル機器についての調べ学習 |
| | 7 | コンピュータおよび家庭用IT機器(2) | デジタル機器についての調べ学習 |
| 8 | ユビキタス・コンピューティング(1) | ユビキタスについての調べ学習 | |
| 9 | ユビキタス・コンピューティング(2) | ユビキタスについての調べ学習 | |
| 10 | 電子商取引 | 電子商取引についての調べ学習 | |
| 11 | 金融サービス | 金融サービスについての調べ学習 | |
| 12 | 電子書籍 | 電子書籍についての調べ学習 | |
| 13 | 広告業界 | 広告業界についての調べ学習 | |
| 14 | 情報犯罪とセキュリティ | セキュリティについての調べ学習 | |
| 15 | 期末試験 | | |
| 16 | まとめ | | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>講義中にレジメを配布する。 参考文献は講義時に紹介する。</p> | | |
| 学びの手立て | <p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義内容および課題は各回毎に異なるため、毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。 学びを深めるために 業界の動き等も紹介するため、新聞記事を読むことも講義の学びを深める助けになる。 | | |
| 評価 | <p>平常点（講義への取組）10%、課題点（課題の内容、課題の提出）20%、期末試験70%。</p> | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
| | <p>(1) 関連科目 「情報社会論」は情報社会について学習する講義であるため、履修すると良いでしょう。</p> <p>(2) 次のステージ 講義で学んだことを踏まえて、卒業研究および社会へ活かして下さい。</p> |

| | | | | |
|--------|---------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 情報社会論 | 前期 | 月1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 根路銘 もえ子 | 3年 | nerome@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>本講義は、情報と社会の関係を学習することによって、情報社会について理解することを目的とする。特に、インターネットの仕組みや情報システムについて学習する。情報化が果たしてきた役割を理解することによって、社会、生活、企業、経済などに与える影響について考察する。仮登録者数が上限を超えた場合「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報社会に関連するキーワードを正しく理解できる。 ・情報社会の時事問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。 | <p>高度情報化社会の現在、情報社会の仕組みを理解することが、我々の生活を豊かにする一助となります。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。</p> |

| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>講義ガイダンス・情報社会とは</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>情報社会・情報と人間の関わり</td><td>情報社会に関する調べ学習</td></tr> <tr><td>3</td><td>コミュニケーションの概念</td><td>コミュニケーション事例紹介</td></tr> <tr><td>4</td><td>ユーザインターフェース</td><td>インターフェースに関する調べ学習</td></tr> <tr><td>5</td><td>コミュニケーションモデル</td><td>コミュニケーションモデル事例紹介</td></tr> <tr><td>6</td><td>情報提示システム</td><td>情報提示システムに関する調べ学習</td></tr> <tr><td>7</td><td>情報ネットワーク</td><td>情報ネットワークに関する調べ学習</td></tr> <tr><td>8</td><td>情報ネットワークと管理</td><td>ネットワーク管理に関する調べ学習</td></tr> <tr><td>9</td><td>インターネットを支える仕組み</td><td>インターネット検索課題</td></tr> <tr><td>10</td><td>情報システム (1)</td><td>情報システム事例紹介</td></tr> <tr><td>11</td><td>情報システム (2)</td><td>情報システム事例紹介</td></tr> <tr><td>12</td><td>情報システム (3)</td><td>情報システム事例紹介</td></tr> <tr><td>13</td><td>情報社会におけるコミュニケーション</td><td>コミュニケーションに事例紹介</td></tr> <tr><td>14</td><td>情報社会におけるセキュリティ</td><td>セキュリティに関する調べ学習</td></tr> <tr><td>15</td><td>期末試験</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>まとめ</td><td></td></tr> </tbody> </table> | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 | 1 | 講義ガイダンス・情報社会とは | | 2 | 情報社会・情報と人間の関わり | 情報社会に関する調べ学習 | 3 | コミュニケーションの概念 | コミュニケーション事例紹介 | 4 | ユーザインターフェース | インターフェースに関する調べ学習 | 5 | コミュニケーションモデル | コミュニケーションモデル事例紹介 | 6 | 情報提示システム | 情報提示システムに関する調べ学習 | 7 | 情報ネットワーク | 情報ネットワークに関する調べ学習 | 8 | 情報ネットワークと管理 | ネットワーク管理に関する調べ学習 | 9 | インターネットを支える仕組み | インターネット検索課題 | 10 | 情報システム (1) | 情報システム事例紹介 | 11 | 情報システム (2) | 情報システム事例紹介 | 12 | 情報システム (3) | 情報システム事例紹介 | 13 | 情報社会におけるコミュニケーション | コミュニケーションに事例紹介 | 14 | 情報社会におけるセキュリティ | セキュリティに関する調べ学習 | 15 | 期末試験 | | 16 | まとめ | | |
|-------|---|------------------|--------------|----------|---|----------------|--|---|----------------|--------------|---|--------------|---------------|---|-------------|------------------|---|--------------|------------------|---|----------|------------------|---|----------|------------------|---|-------------|------------------|---|----------------|-------------|----|------------|------------|----|------------|------------|----|------------|------------|----|-------------------|----------------|----|----------------|----------------|----|------|--|----|-----|--|--|
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | 講義ガイダンス・情報社会とは | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 情報社会・情報と人間の関わり | 情報社会に関する調べ学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | コミュニケーションの概念 | コミュニケーション事例紹介 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | ユーザインターフェース | インターフェースに関する調べ学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | コミュニケーションモデル | コミュニケーションモデル事例紹介 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 情報提示システム | 情報提示システムに関する調べ学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 情報ネットワーク | 情報ネットワークに関する調べ学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 情報ネットワークと管理 | ネットワーク管理に関する調べ学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | インターネットを支える仕組み | インターネット検索課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 情報システム (1) | 情報システム事例紹介 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 情報システム (2) | 情報システム事例紹介 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 情報システム (3) | 情報システム事例紹介 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 情報社会におけるコミュニケーション | コミュニケーションに事例紹介 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 情報社会におけるセキュリティ | セキュリティに関する調べ学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 期末試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 | まとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義中にレジメを配布する。 情報化白書（最新版）．情報通信白書（最新版）．他講義時に紹介する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容および課題は各回毎に異なるため、毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。 ・学びを深めるために ・世の中の動き等も紹介するため、新聞記事を読むことも講義の学びを深める助けになる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>評価</p> <p>平常点（講義への取組）10%、課題点（課題の内容、課題の提出）20%、期末試験70%。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 「情報産業論」は情報産業について学習する講義であるため、履修すると良いでしょう。</p> <p>(2) 次のステージ 講義で学んだことを踏まえて、卒業研究および社会へ活かして下さい。</p> |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 情報処理概論 | 後期 | 木1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -大城 絢子 | 1年 | ptt1071@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|-------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 情報化社会にて必要とされる情報リテラシー力を身につけるために、ITハ スポ ートの内容を中心に学び、情報処理技術の基礎知識・技術を修得することをねらいとします。 | メッセージ 板書や動画を中心に学びます。 |
| | 到達目標 情報処理技術の基礎・プログラミングの概念の修得 | |

| | | | |
|-------|---|--------------------|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 導入-情報とは・コンピュータの歴史- | 板書をノートにまとめ提出 |
| | 2 | ハードウェア | 板書をノートにまとめ提出 |
| | 3 | ハードウェア | 板書をノートにまとめ提出 |
| | 4 | ソフトウェアとマルチメディア | 板書をノートにまとめ提出 |
| | 5 | ソフトウェアとマルチメディア | 板書をノートにまとめ提出 |
| | 6 | ネットワーク | 板書をノートにまとめ提出 |
| | 7 | ネットワーク | 板書をノートにまとめ提出 |
| | 8 | セキュリティ | 板書をノートにまとめ提出 |
| 9 | セキュリティ | 板書をノートにまとめ提出 | |
| 10 | データベース | 板書をノートにまとめ提出 | |
| 11 | データベース | 板書をノートにまとめ提出 | |
| 12 | アルゴリズムとデータ構造 | 板書をノートにまとめ提出 | |
| 13 | アルゴリズムとデータ構造 | 板書をノートにまとめ提出 | |
| 14 | アルゴリズムとデータ構造 | 板書をノートにまとめ提出 | |
| 15 | まとめ・総括 | 板書をノートにまとめ提出 | |
| 16 | 最終テスト | | |
| | テキスト・参考文献・資料など 参考文献: 栢木厚「栢木先生のITハ スポ ート教室」技術評論社 | | |
| | 学びの手立て 板書を自分なりに解釈しノートにまとめることで理解を深めます。各分野毎にITパスポート試験の過去問題を解説します | | |
| | 評価 レポートの提出状況(65%)+最終試験の点数(35%) | | |

| | |
|-------|-------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目: コンピュータ概論 |
|-------|-------------------------------|

| | | | | |
|--------|-----------|------|--------------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 情報リテラシー演習 | 前期 | 月 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 根路銘 もえ子 | 1年 | メールにてお問い合わせ下さい。 nerome@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェア、さらにはプレゼンテーションソフトウェアによる発表資料作成について学習する。 | 高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められています。コンピュータ利用スキルを身につけることで、様々な面で活かす事が可能になります。皆さんの先輩もSAとして、講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談して下さい。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータを操作するために必要な基本知識と基本技術の習得 ② ワープロソフトによる文書作成技能を習得し、大学生活におけるレポート作成やレジュメ作成等へ活かす事ができる。 ③ 表計算ソフト操作とビジネスデータ加工の習得により、2年次以降のデータ分析等へ活かす事ができる。 ④ プレゼンテーションソフト操作と実践を学ぶ事により、今後の調査発表へ研究発表へ活かす事ができる。 ⑤ インターネットの活用を学習することにより、調査等へ活かす事ができる。 | |

| | | | |
|--------|--|---|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション：グループウェアの使い方・OSとは・日本語入力練習 | 日本語入力とポータルシステム操作 |
| | 2 | ワープロソフトの基本操作（1）：文書レイアウト・フォント装飾等 | 案内文書作成 |
| | 3 | ワープロソフトの基本操作（2）：表作成・画像挿入・箇条書き等 | 案内文書作成 |
| | 4 | ワープロソフトの基本操作（3）：段落設定・脚注等の設定 | レジュメ作成 |
| | 5 | インターネットの活用・画像データ処理：情報検索の仕組・著作権等の学習 | 検索課題 |
| | 6 | 発表資料ソフトの基本操作（1）：文字入力・図形挿入・レイアウト・表等 | 発表資料作成 |
| | 7 | 発表資料ソフトの基本操作（2）：画像挿入・アニメーション・スライドショー等 | 発表資料作成 |
| 8 | 表計算ソフトの基本操作（1）：セルを使った計算・関数の利用等 | 表の作成および計算処理 | |
| 9 | 表計算ソフトの基本操作（2）：セルの参照方法・グラフ作成等 | 各種セル参照演習 | |
| 10 | 表計算ソフトの基本操作（3）：統計処理関数の利用等 | 統計関数による計算処理 | |
| 11 | 表計算ソフトの基本操作（4）：相関係数の計算等 | 統計処理演習 | |
| 12 | 表計算ソフトの応用操作（1）：IF関数・条件付き書式設定等 | 条件処理演習 | |
| 13 | 表計算ソフトの応用操作（2）：シート操作・データの並べ替え・絞り込み等 | データ処理演習 | |
| 14 | 文書の統合：表計算ソフトで作成した表やグラフをワープロソフトへ統合 | 統合文書作成 | |
| 15 | 最終課題（期末試験）：各ソフトウェアの基本操作に関する課題 | | |
| 16 | まとめ | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：使用しません。講義にてプリントを配付する。 | |
| 学びの手立て | <ul style="list-style-type: none"> ・履修の心構え 学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。 日本語入力の練習は2回目以降の講義では行わないため、日本語入力が苦手な学生は、各自で入力の練習をすること。 ・学びを深めるために 毎回の講義における課題を行う事で、理解度が確認できます。したがって、毎回の課題にしっかり取り組みましょう。 | | |
| 評価 | <p>平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）70%、期末試験30%。 各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。</p> | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 関連科目 引き続きExcelの応用を学びたい学生は、後期の「プログラミング演習」を履修すると良いでしょう。 (2) 次のステージ 上級情報処理士の資格取得を目指す学生は、後期の「情報処理概論」も履修すると良いでしょう。 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|-----------|------|------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 情報リテラシー演習 | 前期 | 金 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -赤嶺 有平 | 1年 | 講義終了後の教室かメールにてお問合せ下さい。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェア、さらにはプレゼンテーションソフトウェアによる発表資料作成について学習する。 | 高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められています。コンピュータ利用スキルを身につけることで、様々な面で活かす事が可能になります。SAも講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談して下さい。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータを操作するために必要な基本知識と基本技術の習得 ② ワープロソフトによる文書作成技能を習得し、大学生活におけるレポート作成やレジュメ作成等へ活かす事ができる。 ③ 表計算ソフト操作とビジネスデータ加工の習得により、2年次以降のデータ分析等へ活かす事ができる。 ④ プレゼンテーションソフト操作と実践を学ぶ事により、今後の調査発表へ研究発表へ活かす事ができる。 ⑤ インターネットの活用を学習することにより、調査等へ活かす事ができる。 | |

| | | | |
|--------|--|---|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション：グループウェアの使い方・OSとは・日本語入力練習 | 日本語入力とポータルシステム操作 |
| | 2 | ワープロソフトの基本操作（1）：文書レイアウト・フォント装飾等 | 案内文書作成 |
| | 3 | ワープロソフトの基本操作（2）：表作成・画像挿入・箇条書き等 | 案内文書作成 |
| | 4 | ワープロソフトの基本操作（3）：段落設定・脚注等の設定 | レジュメ作成 |
| | 5 | インターネットの活用・画像データ処理：情報検索の仕組・著作権等の学習 | 検索課題 |
| | 6 | 発表資料ソフトの基本操作（1）：文字入力・図形挿入・レイアウト・表等 | 発表資料作成 |
| | 7 | 発表資料ソフトの基本操作（2）：画像挿入・アニメーション・スライドショー等 | 発表資料作成 |
| 8 | 表計算ソフトの基本操作（1）：セルを使った計算・関数の利用等 | 表の作成および計算処理 | |
| 9 | 表計算ソフトの基本操作（2）：セルの参照方法・グラフ作成等 | 各種セル参照演習 | |
| 10 | 表計算ソフトの基本操作（3）：統計処理関数の利用等 | 統計関数による計算処理 | |
| 11 | 表計算ソフトの基本操作（4）：相関係数の計算等 | 統計処理演習 | |
| 12 | 表計算ソフトの応用操作（1）：IF関数・条件付き書式設定等 | 条件処理演習 | |
| 13 | 表計算ソフトの応用操作（2）：シート操作・データの並べ替え・絞り込み等 | データ処理演習 | |
| 14 | 文書の統合：表計算ソフトで作成した表やグラフをワープロソフトへ統合 | 統合文書作成 | |
| 15 | 最終課題（期末試験）：各ソフトウェアの基本操作に関する課題 | | |
| 16 | まとめ | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：使用しません。講義にてプリントを配付する。 | |
| 学びの手立て | <ul style="list-style-type: none"> ・履修の心構え 学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。 日本語入力の練習は2回目以降の講義では行わないため、日本語入力が苦手な学生は、各自で入力の練習をすること。 ・学びを深めるために 毎回の講義における課題を行う事で、理解度が確認できます。したがって、毎回の課題にしっかり取り組みましょう。 | | |
| 評価 | <p>平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）70%、期末試験30%。 各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。</p> | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
| | <ol style="list-style-type: none"> (1) 関連科目 引き続きExcelの応用を学びたい学生は、後期の「プログラミング演習」を履修すると良いでしょう。 (2) 次のステージ 上級情報処理士の資格取得を目指す学生は、後期の「情報処理概論」も履修すると良いでしょう。 |

| | | | | |
|--------|-----------|------|------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 情報リテラシー演習 | 前期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -赤嶺 有平 | 1年 | 講義終了後の教室かメールにてお問合せ下さい。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用方法、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェア、さらにはプレゼンテーションソフトウェアによる発表資料作成について学習する。 | 高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められています。コンピュータ利用スキルを身につけることで、様々な面で活かす事が可能になります。SAも講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談して下さい。 |
| 到達目標 | ① コンピュータを操作するために必要な基本知識と基本技術の習得 | |
| | ② ワープロソフトによる文書作成技能を習得し、大学生活におけるレポート作成やレジュメ作成等へ活かす事ができる。 | |
| 学びの準備 | ③ 表計算ソフト操作とビジネスデータ加工の習得により、2年次以降のデータ分析等へ活かす事ができる。 | |
| | ④ プレゼンテーションソフト操作と実践を学ぶ事により、今後の調査発表へ研究発表へ活かす事ができる。 | |
| | ⑤ インターネットの活用を学習することにより、調査等へ活かす事ができる。 | |

| | | | |
|-------|--|---------------------------------------|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション：グループウェアの使い方・OSとは・日本語入力練習 | 日本語入力とポータルシステム操作 |
| | 2 | ワープロソフトの基本操作（1）：文書レイアウト・フォント装飾等 | 案内文書作成 |
| | 3 | ワープロソフトの基本操作（2）：表作成・画像挿入・箇条書き等 | 案内文書作成 |
| | 4 | ワープロソフトの基本操作（3）：段落設定・脚注等の設定 | レジュメ作成 |
| | 5 | インターネットの活用・画像データ処理：情報検索の仕組・著作権等の学習 | 検索課題 |
| | 6 | 発表資料ソフトの基本操作（1）：文字入力・図形挿入・レイアウト・表等 | 発表資料作成 |
| | 7 | 発表資料ソフトの基本操作（2）：画像挿入・アニメーション・スライドショー等 | 発表資料作成 |
| | 8 | 表計算ソフトの基本操作（1）：セルを使った計算・関数の利用等 | 表の作成および計算処理 |
| | 9 | 表計算ソフトの基本操作（2）：セルの参照方法・グラフ作成等 | 各種セル参照演習 |
| | 10 | 表計算ソフトの基本操作（3）：統計処理関数の利用等 | 統計関数による計算処理 |
| | 11 | 表計算ソフトの基本操作（4）：相関係数の計算等 | 統計処理演習 |
| | 12 | 表計算ソフトの応用操作（1）：IF関数・条件付き書式設定等 | 条件処理演習 |
| | 13 | 表計算ソフトの応用操作（2）：シート操作・データの並べ替え・絞り込み等 | データ処理演習 |
| 14 | 文書の統合：表計算ソフトで作成した表やグラフをワープロソフトへ統合 | 統合文書作成 | |
| 15 | 最終課題（期末試験）：各ソフトウェアの基本操作に関する課題 | | |
| 16 | まとめ | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | | |
| | ・テキスト：使用しません。講義にてプリントを配付する。 | | |
| | 学びの手立て | | |
| | ・履修の心構え 学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。 日本語入力の練習は2回目以降の講義では行わないため、日本語入力が苦手な学生は、各自で入力の練習をすること。 | | |
| | ・学びを深めるために 毎回の講義における課題を行う事で、理解度が確認できます。したがって、毎回の課題にしっかり取り組みましょう。 | | |
| | 評価 | | |
| | 平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）70%、期末試験30%。 各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
| | (1) 関連科目 引き続きExcelの応用を学びたい学生は、後期の「プログラミング演習」を履修すると良いでしょう。 (2) 次のステージ 上級情報処理士の資格取得を目指す学生は、後期の「情報処理概論」も履修すると良いでしょう。 |

| | | | | |
|--------|-------|------|---------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 人口食糧論 | 後期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 小川 護 | 2年 | メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 世界の諸地域をみると、人口の急激に増加しているアジアやアフリカ、ラテンアメリカなどの発展途上国の地域、逆に人口増加の停滞あるいは現象がみられるわが国をはじめアングロアメリカ、ヨーロッパなどの地域があげられる。同時に発展途上国では食糧問題が発生し、先進国では少子高齢化の問題などを抱えている。この授業では、これらの諸問題について考えていきたい。 | 日頃、新聞やネットのニュースを通じて、人口問題、食料問題に関心を持ってもらいたい。 |
| 到達目標 | 人口問題、環境問題についての基本的な問題点について理解できるようにする。さらには、それらの課題解決について少しでも、どのように取り組んだらいいか関心をもつようにする。 | |

| | | | |
|----------------|--|-------------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | この授業の開始にあたって(オリエンテーション) | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 2 | 人の分布と変化を考える | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 3 | 人口の動体と構成 | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 4 | 人口の構成 | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 5 | 発展途上国の人口問題 | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 6 | 先進地域の人口問題 | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| | 7 | 日本の人口問題 | 資料地理の研究、プリントの復習 |
| 8 | 食糧問題と農産物貿易問題 | 資料地理の研究、プリントの復習 | |
| 9 | 土地制度と農地改革 | 資料地理の研究、プリントの復習 | |
| 10 | 世界の農業-1- | 資料地理の研究、プリントの復習 | |
| 11 | 世界の農業-2- | 資料地理の研究、プリントの復習 | |
| 12 | 日本の農業 | 資料地理の研究、プリントの復習 | |
| 13 | 沖縄の農業 | 資料地理の研究、プリントの復習 | |
| 14 | (映像資料)を通じて食料問題を考える。-1- | プリントの復習 | |
| 15 | (映像資料)を通じて食料問題を考える。-2- | プリントの復習 | |
| 16 | テスト | | |
| テキスト・参考文献・資料など | 『新詳高等地図』、帝国書院、1,500円、『新詳 資料地理の研究』、帝国書院、980円 毎回プリントを配布する。 授業の中で適宜紹介する | | |
| 学びの手立て | ①日頃から新聞、ネットのニュースをみて、人口問題、食糧問題、農業問題について関心を持つ。 ②授業で学んだ内容について、配布プリントやテキストである「資料地理の研究」を通じて復習する。 | | |
| 評価 | 出席状況とレポート、テストで総合的に判断する。 | | |

| | |
|-------|----------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 経済地理Ⅰ、経済地理Ⅱ |
|-------|----------------------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 政策金融論 | 後期 | 水4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -屋比久 亨 | 3年 | 授業中もしくは終了後に教室にて受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 産業の振興や中小企業の育成等、政府が特定の政策目的を達成するために、政策金融機関を通じて財政資金の供給を行う「政策金融」の機能を理解し、沖縄振興における政策課題に対応した「政策金融」の役割について学ぶ。 | メッセージ 沖縄公庫の現役金融マンが講義を担当します。沖縄の実体経済や金融に関する最近の動向についても、トピックスとして適宜解説します。 |
| | 到達目標 ・財政投融资及び政策金融の機能を理解できる。 ・沖縄の実体経済・金融構造を把握できる。 ・沖縄振興策における政策金融の役割を理解できる。 | |

| | | | |
|-------|--|--------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 市場経済と政府の役割 | |
| | 3 | 財政投融资の仕組みと特徴 | 参考資料① |
| | 4 | 財政投融资の規模の変遷と財投改革 | 同上 |
| | 5 | 沖縄の実体経済 | 参考資料② |
| | 6 | 沖縄の金融構造 | 同上 |
| | 7 | 沖縄公庫の設立経緯と総合政策金融機能 | 参考資料③ |
| | 8 | 沖縄振興政策の課題の変化と公庫の対応 | 参考資料③④ |
| 9 | 観光産業振興と沖縄公庫 | 参考資料③ | |
| 10 | 創業・ベンチャー支援と沖縄公庫 | 同上 | |
| 11 | 離島振興・地域活性化と沖縄公庫 | 同上 | |
| 12 | 駐留軍用地跡地利用と沖縄公庫 | 同上 | |
| 13 | 政策金融評価の概要 | 同上 | |
| 14 | 政策金融改革と沖縄公庫 | 同上 | |
| 15 | まとめ | | |
| 16 | レポート提出 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用せず、毎回講師が作成したレジュメを配布する。 ・参考資料（講義時に以下の資料を配布） ①「財政投融资レポート2018」（財務省刊） ②「沖縄経済ハンドブック2018年度版」（沖縄公庫刊） ③「Report2018」（沖縄公庫ディスクロージャー誌） ④「沖縄21世紀ビジョン 基本計画と実施計画」（沖縄県刊） | | |
| | 学びの手立て ・履修の心構え 日頃からメディアの金融・経済関連情報に意識を向けて接してもらいたい。 | | |
| | 評価 平常点40%（出席状況に質問や発言を適宜加点します） レポート60% | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「関連科目」金融論ⅠⅡ、財政学Ⅰ、沖縄経済論、経済政策総論ⅠⅡ |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|--------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 生態学概論 | 後期 | 木3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -佐藤 寛之 | 2年 | 授業前後口頭で受け付ける | |

| | | |
|-------|---|------------------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 生態学の基本的な考え方を紹介する。近年叫ばれている環境の劣化，生物の減少といった問題に対するアプローチにも触れる | メッセージ ネットでも参考書でもいいので自分で調べてみることに |
| | 到達目標 生物の振る舞いについて考えが至る人材になることを目指す | |

| | | | |
|-------|--|----------------|---------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスを参照 |
| | 2 | 生態学とは何か | 授業内容を良く復習すること |
| | 3 | 進化の生態学 | 授業内容を良く復習すること |
| | 4 | 遺伝子の生態学 | 授業内容を良く復習すること |
| | 5 | 個体の生態学 1 | 授業内容を良く復習すること |
| | 6 | 個体の生態学 2 | 授業内容を良く復習すること |
| | 7 | 同種間の関係 | 授業内容を良く復習すること |
| | 8 | 異種間の関係 | 授業内容を良く復習すること |
| | 9 | 繁殖の生態学 1 オスとメス | 授業内容を良く復習すること |
| | 10 | 繁殖の生態学 2 | 授業内容を良く復習すること |
| | 11 | 繁殖の生態学 3 | 授業内容を良く復習すること |
| | 12 | 個体群の生態学 1 | 授業内容を良く復習すること |
| | 13 | 個体群の生態学 2 | 授業内容を良く復習すること |
| | 14 | 生物保全の生態学 1 | 授業内容を良く復習すること |
| | 15 | 生物保全の生態学 2 | 授業内容を良く復習すること |
| | 16 | テスト | |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない プリントを配布する | | |
| | 学びの手立て 気になる事柄については自信で調べることに | | |
| | 評価 テストでのみ評価する | | |

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 興味関心を持った分野があれば個別にお勧めする |
|-------|---------------------------------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域開発論 | 前期 | 月 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -藤原 昌樹 | 3年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|-------|
| 学びの準備 | ねらい 本講義では、戦後の日本及び沖縄における地域開発の歴史を概観することを通して、現在の沖縄の地域開発が抱える問題点について考察することを目的とする。 | メッセージ |
| | 到達目標 戦後における日本と沖縄の地域開発の課題について学ぶことを通して、これからの沖縄の地域開発が抱える問題点について理解を深めることを目標とする。 | |

| | | | |
|-------|--|------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 地域開発とは？ | |
| | 3 | 地域開発政策とは？ | |
| | 4 | 戦後日本の開発計画（1） | |
| | 5 | 戦後日本の開発計画（2） | |
| | 6 | 戦後日本の開発計画（3） | |
| | 7 | 戦後沖縄の振興開発（1） | |
| | 8 | 戦後沖縄の振興開発（2） | |
| | 9 | 戦後沖縄の振興開発（3） | |
| | 10 | 戦後沖縄の振興開発（4） | |
| | 11 | 戦後沖縄の振興開発（5） | |
| | 12 | 沖縄における地域開発の課題（1） | |
| | 13 | 沖縄における地域開発の課題（2） | |
| | 14 | 沖縄における地域開発の課題（3） | |
| | 15 | 沖縄における地域開発の課題（4） | |
| | 16 | 期末試験 | |
| | テキスト・参考文献・資料など 講義はレジュメを用いて行い、特にテキストは指定しない。 講義を進める過程で、参考文献や資料などを紹介する。 | | |
| | 学びの手立て | | |
| | 評価 学期末に記述式の試験を行なう。 | | |

| | |
|-------|-------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
|-------|-------------|

※ポリシーとの関連性

専門科目を受講する前に、大学生として身につけるべき統計学、語学、コンピュータなどの基礎科目を提供。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|---|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域環境政策入門 | 後期 | 水4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋5回、他1回（新垣・小川・上江洲薫・呉・友知・根路銘・齋藤・山川・砂川・渡久地、前泊） | 1年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・学科で計画的に学ぶことを意識させる。 ・学科教員の研究内容に興味を持たせる。 | <p>地域環境政策学科に入学して半年が経ち、大学生活にも慣れてきたころだと思えます。この講義を受講することで本学科で何をどう学ぶかを深く考え、今後の学習計画の参考にしてほしいと思います。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学科で学ぶことができる内容を詳しく認識し学習計画を立てる。 ・学科教員の研究・教育内容を知る。 ・学科で学んだことが卒業後どう生かされるかを知る。 | |

| | | | |
|----------------|---|---|----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス（担当：島袋伊津子）9/26 | シラバスをよく読む |
| | 2 | 沖縄における海岸ゴミの現状と課題（担当：山川彩子）10/3 | 配付資料をよく読み復習する。 |
| | 3 | 土の中の小さな生き物の世界-土壌生態学への招待（担当：齋藤星耕）10/10 | 〃 |
| | 4 | G I S入門（担当：小川護）10/17 | 〃 |
| | 5 | 環境問題を経済学の視点より考える（担当：呉錫畢）10/24 | 〃 |
| | 6 | 観光と情報技術（担当：根路銘もえ子）10/31 | 〃 |
| | 7 | 環境文化論～自然と調和した生き方や社会を考える～（担当：砂川かおり）11/7 | 〃 |
| | 8 | 地域経済と環境保全について（担当：渡久地朝央）11/28 | 〃 |
| | 9 | 沖縄から全ての基地と補助金がなくなったら経済的にどうなるか？（担当：友知政樹）12/5 | 〃 |
| | 10 | 環境と観光～エコツーリズムとホテルの環境保全～（担当：上江洲薫）12/12 | 〃 |
| | 11 | 地域経済および環境政策において金融が果たす役割（担当：島袋伊津子）12/19 | 〃 |
| | 12 | 沖縄経済の課題と展望（担当：前泊博盛）1/9 | 〃 |
| | 13 | 沖縄県における自然災害（担当：新垣武）1/16 | 〃 |
| 14 | 中間試験（担当：島袋伊津子）1/23 | 〃 | |
| 15 | 学科の卒業生による講演（担当：島袋伊津子）1/30 | これまでの授業内容を整理する。 | |
| 16 | レポート提出（担当：島袋伊津子）2/6 | 〃 | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>テキストは指定しない。参考文献は「地域と環境ありんくりん」沖縄国際大学公開講座委員会、1500円＋税。 他の参考文献は各回の担当教員が必要に応じて指導する。</p> | | |
| 学びの手立て | <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず欠席する場合は必ず事前にメールすること。 ・この授業で学ぶ内容は、各自の今後の学科での学習計画を立てるうえで重要なことなので、このことを意識しながら受講しましょう。 ・教員の日程調整の都合上、担当の順番が変更になることがあります。 | | |
| 評価 | <p>レポート（20%）＋中間試験（40%）＋平常点（40%） 1/3以上欠席の者は不可。</p> | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>「基礎演習ⅠⅡ」、「地域セミナーⅠⅡ」、「演習ⅠⅡ」、「演習ⅢⅣ」</p> |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|---------|------|-----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域経済学 I | 前期 | 火 3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 2年 | t. toguchi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>地域経済学は地域における様々な現象について経済学を基に解明していく学問です。経済発展を目的に地域企業を対象とする産業組織論としての見方や、地域の経済格差などを分析する公共経済学としての見方、地域環境を評価する環境経済学としての見方など横断的な分野でもあります。授業では身近な事例を交えながら、経済学を背景とした地域経済の基礎理論を中心に学びます。</p> | <p>地域経済学を理解することで経済学に基づく地域や都市の意味を理解することに役立ちます。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・経済学を通して地域や都市の成り立ちや意味を理解する。 ・産業と地域や都市の経済発展を理解する。 ・地域の産業構造と地域間格差を考える。 | |

| | | | |
|----------------|---|--------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 地域の概念とその定義 | 授業ノートを参照 |
| | 2 | 産業立地論（チューネン、ウェーバー） | |
| | 3 | 空間的分業（マッシュィ） | |
| | 4 | 多国籍企業の立地と地域の企業立地 | |
| | 5 | 地域経済モデル | 配布資料を参照 |
| | 6 | 地域の経済発展と企業の生産要因 | |
| | 7 | 地域の成長モデル（カルドア） | |
| 8 | 地域の成長モデル（サールウォール） | | |
| 9 | 地域の成長モデル（ウェーバー） | | |
| 10 | 地域経済と人口移動 | | |
| 11 | 人口移動と重力モデル | | |
| 12 | 技術発展に伴う地域経済の市場規模の変化 | | |
| 13 | 地域的分業と産業構造変化 | | |
| 14 | 地域間格差と失業率 | | |
| 15 | 地域政策と6次産業化の取り組み事例 | | |
| 16 | 試験 | | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>H. アームストロング, J. テイラー 『地域経済学と地域政策』, 流通経済大学出版, 1998. M. E. ポーター 『競争優位の戦略』, ダイヤモンド社, 1985. M. E. ポーター 『競争の戦略』, ダイヤモンド社, 1982.</p> | | |
| 学びの手立て | <ul style="list-style-type: none"> ・必要なときに授業内容を振り返れるよう、授業ノートを作ることが望ましい。 ・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。 | | |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域経済から地域や都市、産業について学び、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」や「地域経済学Ⅱ」の理解に役立て、自分たちが住む場所について考えて欲しい。 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域経済学Ⅱ | 後期 | 火3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 2年 | t. toguchi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 地域経済学は地域における様々な現象について経済学を基に解明していく学問です。本授業は地域経済学Ⅰ（前期）の続きにあたります。より詳細に地域と都市、その発展要因を学び、地域経済の意味を考える。 | メッセージ 地域経済学を理解することで経済学に基づく地域や都市のあり方を考え、将来の沖縄が進むよりよい方向を考えていきましょう。 |
| | 到達目標 ・経済学を通して地域の産業の発展要因を考える。 ・地域の経済成長と地域特性について考える。 ・自分たちの生活する地域の在り方を考える。 | |

| | | | |
|-------|---|----------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 地域経済と労働格差 | 授業ノートを参照 |
| | 2 | 地域経済と教育格差 | |
| | 3 | 地域間の人口移動と配分利得 | |
| | 4 | 地域間の範囲経済 | |
| | 5 | 地域の産業集積と新産業空間 | |
| | 6 | 都市と地域の関係 | |
| | 7 | 地域経済における都市空間論 | |
| | 8 | 地域における基盤産業と非基盤産業の捉え方 | 配布資料を参照 |
| | 9 | 空間経済学による地域経済の視点 | |
| | 10 | 都市規模による産業構造の変化 | |
| | 11 | 都市規模による企業行動の変化 | |
| | 12 | 集積の経済と集積の不経済 | |
| | 13 | 新経済地理学による地域経済の視点 | |
| | 14 | 地域の経済成長と知識の集積 | |
| | 15 | 知識の集積に伴う地域特性の変化 | |
| | 16 | 試験 | |
| | テキスト・参考文献・資料など 高橋孝明『都市経済学』，有斐閣ブックス，2012。 松原宏『経済地理学－立地・地域・都市の理論』，東京大学出版，2006。 藤田昌久『空間経済学』，東洋経済新報社，2000。 | | |
| | 学びの手立て ・必要なときに授業内容を振り返れるよう，授業ノートを作ることが望ましい。 ・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。 | | |
| | 評価 ・中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 ・経済を通して地域や都市，産業について学び，自分たちが住む場所について考え，より専門的な分野を学ぶ糧にして欲しい。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------------------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域経済特別講義Ⅰ（地域経済と産業） | 集中 | 集中 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -桑野 斉 | 3年 | 質問・相談は講義終了後に教室で受け付けます。また、E-Mailでも対応します。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 本講義では、新たな時代の自治体政策を通じ、住民と行政がコミュニティをどのように共創していくのかという観点から、主要分野・テーマ別にまちづくりの現状・課題について考察を行い、今後のコミュニティづくりや地域経済の活性化の方向性について分析・理解する能力を習得することを目指します。 | 明治維新以降150年続いた人口増加・成長型社会が、人口減少・縮小型社会に転じ、まちづくりの考え方・方向性・手法が大きく変化してきています。こうしたなかで、大学生をはじめ若者の知恵や行動力が私たちの生活の場であるコミュニティを活性化する取組が全国で生まれています。コミュニティの活性化の視点から今後のまちづくりを若い皆さんと考察していきたいと思えます。 |
| 到達目標 | 下記の3つを到達目標とします。 ①我が国及び沖縄県・県内市町村の地方自治制度の沿革や自治体政策の動向などに係る基本的な知識の習得 ②コミュニティにおける取組を基に自治体政策やまちづくりの現状や課題についての論点を整理・考察できる能力の習得 ③自治体政策がコミュニティ再生や地域経済の発展に及ぼす効果等を考察できる能力の習得 ④卒業研究、演習（ゼミ）等で適切な研究分野・テーマを選択できる問題意識・能力の涵養 | |

| | | | |
|-------|-------------------------|--------------------------------------|---------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 地方自治の動向と自治体政策の現状（ガイダンス：地方分権、地域創生等） | 講義時に課題を提示します。 |
| | 2 | 総論A 人口減少時代とコミュニティ（人口減少は悪いことか？） | |
| | 3 | 各論① 地域公共交通（マイカー時代に地域の公共交通は必要か？） | |
| | 4 | 各論② 環境・廃棄物（あなたが出したゴミは誰が処理しているのか？） | |
| | 5 | 各論③ 健康・福祉（地域子育て高齢者は誰が見守るのか？） | |
| | 6 | 各論④ 教育・文化（地域の小中学校は誰が経営するのか？） | |
| | 7 | 各論⑤ 中心市街地・商店街（近所にコンビニがあれば商店街は不要か？） | |
| | 8 | 各論⑥ 町内会・自治会（学生は町内会・自治会に加入する必要があるのか？） | |
| | 9 | グループワーク（若者が暮らしやすいまちづくりとは） | |
| | 10 | 総論B コミュニティを活性化する新時代のまちづくり（PPPを中心に） | |
| | 11 | 各論① コンパクトシティと公共施設管理 | |
| | 12 | 各論② 都市内分権と住民参加 | |
| | 13 | 各論③ 民間の人材・手法・実績を活用したまちづくり（PPP） | |
| | 14 | 各論④ コミュニティビジネスの手法と効果 | |
| 15 | グループワーク（10年後を見据えたまちづくり） | | |
| 16 | 講義のとりまとめ（試験） | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など レジメ、参考資料等は授業時に配布します。また、課題図書等は授業時に案内します。 |
|-------|---|

| | |
|--------|---|
| 学びの手立て | 集中講義形式で実施します。講義では、各回のテーマについて学生の皆さん一人ひとりに主体的に考察をしていただくため、アクティブラーニング形式で進めていきます。 |
|--------|---|

| | |
|----|---|
| 評価 | 以下の4点から総合的に評価します。（）内は評価の比率です。 ・平常点（授業、グループワークの参加）（20） ・グループ発表の評価（20） ・個人レポートの提出（30） ・最終テストの点数（30） |
|----|---|

| | |
|-------|-------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
|-------|-------------|

| | | | | |
|--------|----------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナー I | 前期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 齋藤 星耕 | 2年 | 5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 本セミナーでは、自然に親しみ、生物相の調査を行う。得られた生物相データを統計処理することで、環境条件との因果関係や地点間の類似性を考察する。この過程を通じてデータ整理や、スライド作成、プレゼンテーションなどのスキルを向上させる。 | 自然の生物相は、適切な計画・方法に基づいて調査することによって、はじめて、科学的な議論の俎上にのせることができます。自然調査における考え方を学ぶことで、皆さんの社会や実生活での物の見え方も変わってくるかもしれません。 |
| 到達目標 | 生物相の調査法の考え方が理解できる。 グループで役割分担して調査を実施できる。 データの整理が出来る。 調査の結果をまとめ、プレゼンテーションできる。 | |

| | | | |
|--------|---|-------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 事前学習(1) | 資料の見直し |
| | 3 | 事前学習(2) | 資料の見直し |
| | 4 | 事前学習(3) | 資料の見直し |
| | 5 | 事前学習(4) | 資料の見直し |
| | 6 | フィールドワーク(1) | |
| | 7 | フィールドワーク(2) | |
| | 8 | フィールドワーク(3) | |
| | 9 | データ整理(1) | |
| | 10 | データ整理(2) | |
| | 11 | データ整理(3) | |
| | 12 | 発表スライド作成(1) | スライド作成 |
| | 13 | 発表スライド作成(2) | スライド作成 |
| 14 | 発表スライド作成(3) | 発表練習 | |
| 15 | スライド発表 | | |
| 16 | まとめ | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。 | | |
| 学びの手立て | 毎回出席し、やむを得ず欠席の場合には事前に連絡すること。 | | |
| 評価 | 演習における貢献や発表での取り組みにより総合的に評価する。 3分の2以上の出席と発表が必要。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 *関連科目： 土壌学概論、島嶼環境論、環境と農業、演習 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 フィールドワークを通して、地域経済や環境問題への理解をさらに深めます。

[/演習]

| | | | | |
|--------|----------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナー I | 前期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 根路銘 もえ子 | 2年 | nerome@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 実際に地域経済のフィールドに出かけ、現場の空気を肌で感じることで、座学だけでは得られない知見を広めることを目標とする。この講義をきっかけに、受講者が地域経済に興味関心を持つことをねらいとする。 | メッセージ 本講義は事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面談を実施するので、研究室（9-613）に相談に来ること。 |
|-------|---|--|

| | |
|------|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な論文・レポートの書き方のルールを理解し身に付ける。 レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。 大学生生活のルールや学生支援の内容を理解し、4年間の計画および卒業後の目標を立てる。 |
|------|--|

| | |
|-------|--------------------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） |
| | テキスト・参考文献・資料など |
| | 学びの手立て |
| | 評価 |

| | |
|-------|-------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
|-------|-------------|

| | | | | |
|--------|----------|------|---------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナー I | 前期 | 木 4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 友知 政樹 | 2年 | mtomochi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|-----------------------|---|
| 学びの準備 | ねらい 地域を総合的に理解すること。 | メッセージ 地域に対する理解を空間軸と時間軸の両観点から理解するように努めましょう。 |
| | 到達目標 セミナーの際に紹介する。 | |

| | |
|-------|----------------------|
| 学びの準備 | 到達目標 セミナーの際に紹介する。 |
| | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント <u>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</u> セミナーの際に紹介する。 |
| | テキスト・参考文献・資料など セミナーの際に紹介する。 |
| | 学びの手立て セミナーの際に紹介する。 |
| | 評価 セミナーへの参加度やレポートなどで総合的に評価する。 |

| | |
|-------|--------------------------------|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など セミナーの際に紹介する。 |
| | |

| | |
|-------|------------------------|
| 学びの実践 | 学びの手立て セミナーの際に紹介する。 |
| | |

| | |
|-------|----------------------------------|
| 学びの実践 | 評価 セミナーへの参加度やレポートなどで総合的に評価する。 |
| | |

| | |
|-------|-----------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 セミナーの際に紹介する。 |
|-------|-----------------------------|

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|----------|------|---------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナー I | 前期 | 木 4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 小川 護 | 2年 | メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい この授業では、沖縄の自然環境及び社会環境に関する諸問題を地理情報システム(GIS)を使いながら検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、課題にそって、GISを活用しながら主題図を作成し提出してもらう。また、野外学習(フィールドワーク)を行いながら、「現場」において地域発展の視点から環境問題や基地問題などの実態を考察する。 | メッセージ GIS(地理情報システム)を中心とする内容で積み上げ式に授業を展開していきます。休まないようにしてください。 |
| | 到達目標 GISの基礎的な操作方法について取得する。 | |

| | | | |
|-------|--|--|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | プリントによる復習 |
| | 2 | グーグルマップの使い方 | プリントによる復習 |
| | 3 | MANDARAの特徴と地図データ -さまざまな地図の紹介 | プリントによる復習 |
| | 4 | MANDARAで地図をつくろう① -MANDARAで階級区分図をつくる | プリントによる復習 |
| | 5 | MANDARAで地図をつくろう② -階級区分を考える | プリントによる復習 |
| | 6 | コンビニエンスストアの分布図 -競合店の多いコンビニを探す | プリントによる復習 |
| | 7 | 地価分布図の作成 -国土数値情報の地価公示データの利用 | プリントによる復習 |
| | 8 | 東京都八王子市の土地利用変化 -国土数値情報の土地利用メッシュデータの利用 | プリントによる復習 |
| | 9 | 地域の火災危険度と消防施設の立地 -防災関連データの利用 | プリントによる復習 |
| | 10 | 水質調査マップの作成 -現地調査データの地図上への表示方法 | プリントによる復習 |
| | 11 | ヒートアイランドに及ぼす環境パラメータの評価 -環境データどうしの関係を知る | プリントによる復習 |
| | 12 | 地図太郎の使い方① | プリントによる復習 |
| | 13 | 地図太郎の使い方② | プリントによる復習 |
| | 14 | 巡検(エクスカーション)① | 調査事項、説明事項の整理 |
| 15 | 巡検(エクスカーション)② | 調査事項、説明事項の整理 | |
| 16 | まとめ | レポート作成 | |
| | テキスト・参考文献・資料など 毎回、プリントを配布する。 後藤真太郎他著「MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座」(第3版)、古今書院 | | |
| | 学びの手立て 積み上げ式で授業を進めていくので、休まないようにしてください。また、授業で扱ったGIS操作方法は次の時間の授業までに、パソコン上で必ず復習してください。 | | |
| | 評価 提出課題および出欠状況をもとに総合的に判断する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 GIS学術士資格取得を目指す。→ 演習 I、地理情報システム論 I・II。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|----------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナー I | 前期 | 木 4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 呉 錫畢 | 2年 | メール (sukpil@oku.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。 | |

| | | |
|-------|--|--------------------------|
| 学びの準備 | ねらい この授業では、沖縄地域の自然環境及び社会環境に関する諸問題を検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、各自の発表テーマに沿いながら議論する。また、野外学習やデータ分析を行いながら、地域とかかわる諸問題に対して考察し、社会における問題意識が培われることを目標とする。 | メッセージ 地球環境問題は地域から始まる。 |
| | 到達目標 地域の発展のために地域を理解する。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第1週 地域セミナーに関するオリエンテーション 第2週 地域とは何かについて発表 (I) 第3週 地域とは何かについて発表 (II) 第4週 北部地域の経済状況グループで発表 第5.6週 北部地域の環境・基地問題についてグループで発表 第7.8週 北部地域の観光・経済についてグループで発表 第9週 北部地域の経済・環境・観光・基地についてディベート 第10週 沖縄経済振興における開発の功罪について概説(赤土流出を中心に) 第11週 基地から見る辺野古経済を質す 第12週 海洋博からみる沖縄経済と美瀬フクギ並木の環境価値 第13週 国頭村安波から観光経済の未来を探る 第14.15週 地域と経済に関するディベート I. II 第16週 地域発展の視点より総括 |
| | テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて資料を配付する。 講義の中で適宜紹介する。 |
| | 学びの手立て 地域のことについて調べ、地域の巡見を通して肌で感じてもらう。 |
| | 評価 出席状況、授業への参加度、ディベート等で総合的に判断する。 |

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 演習 I・II を深めるための基礎を磨く。 |
|-------|--------------------------------------|

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない実体験できる科目を提供。

[/ 演習]

| | | | | |
|--------|----------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナー I | 前期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋 伊津子 | 2年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 受講者が実際に地域経済のフィールドに出かけ、現場の空気を肌で感じることで、座学だけでは得られない知見を広めること、さらに、この講義をきっかけに地域経済に興味関心を持つことをねらいとする。 | メッセージ フィールドワークをメインとする授業です。地域経済の現場を対象とします。 |
| | 到達目標 フィールドワークを行い、その成果を発表できる。 | |

| | | | |
|-------|--|--------------|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスをよく読む |
| | 2 | 事前学習 | テーマに関する情報収集 |
| | 3 | 事前学習 | 〃 |
| | 4 | 事前学習 | 〃 |
| | 5 | 事前学習報告会 | プレゼン資料を作成する |
| | 6 | フィールドワーク | アポを取る、現地調査する |
| | 7 | フィールドワーク | 〃 |
| | 8 | フィールドワーク | 〃 |
| 9 | フィールドワーク結果報告会 | プレゼン資料を作成する | |
| 10 | フィールドワークの結果に基づく学習 | テーマに関する情報収集 | |
| 11 | フィールドワークの結果に基づく学習 | 〃 | |
| 12 | フィールドワーク | アポを取る、現地調査する | |
| 13 | フィールドワーク | 〃 | |
| 14 | フィールドワーク | 〃 | |
| 15 | フィールドワーク | 〃 | |
| 16 | 最終報告会 | プレゼン資料を作成する | |
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 各グループが設定したテーマに応じて適宜教える。 | | |
| 学びの実践 | 学びの手立て やむを得ない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールしてください。特に、フィールドワークや発表会を無断欠席する場合は不可となります。 | | |
| 学びの実践 | 評価 ・単位取得の条件は、2 / 3 以上の出席、フィールドワーク、報告会の参加である。 ・評価の配分は、事前学習報告 (30%)、フィールドワーク結果報告 (30%)、最終報告 (30%)、レポート (10%) | | |

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「演習 I II」 「演習 III IV」 |
|-------|--------------------------------------|

| | | | | |
|--------|-----------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナー I | 前期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 山川（矢敷） 彩子 | 2年 | メールの場合： a.yamakawa@okiu.ac.jp 研究室： 9号館505室 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 地域セミナーは、沖縄県の地域経済や自然環境について、実際にフィールド（現地）に行って体験学習する。また野外で学んだことについて、書籍やインターネットで情報を収集し、自分なりに整理してレポートにまとめる。 | 本講義は事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面談を実施するので、メールでアポをとり9-505に相談に来ること。 |

| | |
|------|---|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的なレポート、メールの書き方のルールを理解し身に付ける。 レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。 大学生生活のルールや学生支援の内容を理解し、4年間の計画および卒業後の目標を立てる。 |
|------|---|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>沖縄島の成り立ち（地史）、地質や土壌、自然環境（植物）について学ぶ。実習地としては、浦添大公園やピオスの丘、読谷村宇座海岸等があげられる。巡検後、調べ学習し考察を加えレポートとしてまとめる。</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 メールの書き方 第3～4週 事前学習 第5週 フィールドワーク（教員引率） 第6～7週 レポート作成 第8週 先輩との交流会 第8～9週 レポート作成 第10～14週 沖縄の危険生物・外来生物についての調べ発表（PPTプレゼンテーション） 第15週 まとめ</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特に指定しない。 講義中適宜紹介する。</p> |
| | <p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域セミナーI・IIは二年次必修の科目なので必ず出席すること。 やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。 欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。 <p>※無断欠席はグループ作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、グループメンバーに多大な迷惑をかけることになる</p> |
| | <p>評価</p> <p>単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出が必須である。評価は、演習における発言の内容やレポートの内容により総合的に評価する。 授業参加度30%、課題の取組姿勢、出来60%、プレゼンテーション10%とする。</p> |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域セミナーII、演習I・II（山川ゼミ）、島嶼環境論、環境資源論、生態学概論、生物学I・II、自然科学概論I・IIなど。</p> |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|----------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナー I | 前期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 前泊 博盛 | 2年 | メールで対応。下記のメールアドレスへ。 hmaeomari@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>授業のねらい 地域セミナーは、少人数(20名弱)で展開する。自然環境あるいは社会・経済に関するテーマについてゼミ形式で教室での授業を進めながら、同時に野外での巡検・地域学習(エクスカーション)も実施し、実際の沖縄の自然のしくみや環境問題、地域経済(農業、製造業、観光、商業など)について自分の眼や耳、肌で感じ取り、考えていく。このセミナーは3年次からの演習 I の基礎とし</p> | <p>沖縄経済を支えるインフラ(社会資本)の現状と課題をフィールドワークを通して検証します。百聞は一見に如かず。</p> |

| | |
|-------|---|
| 学びの準備 | 到達目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 統計データと実態経済の乖離について調査・分析する手法を身に着ける。 フィールドワークを通して、経済の現場を見聞し、経済の現場で沖縄経済の実相を把握する力を身に着ける。 複数のテーマについて、短時間でまとめ、文章化する力を身に着ける。 読み、書き、話し、表現する力を身に着ける。 |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>本講義では、前期を前泊、後期を上江洲が担当する。 前期は、沖縄振興策で整備された地域振興インフラ(観光施設、商業施設、産業施設など社会資本)の現場視察、調査、研究を通して、沖縄経済の実態を検証します。米軍基地内の調査も実施します。</p> <p>後期は、「琉球石灰岩地域の自然環境と河川水質」をテーマに、2回の巡検(小雨決行)を行う。初回は読谷村・うるま市における廃棄物処分場・リサイクル工場・飛行場跡地・最終処分場・浄化センター・残波岬での植物調査・ホテルなどの現状、2回目には雄樋川(ゆうひかわ:南城市等内の河川)の水質調査を行い、水質浄化方法の議論・提言を行う。</p> <p><前泊担当></p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 講義の概要説明 2: 沖縄振興策の概況 3: 社会インフラ調査・レポート(空港) 4: 社会インフラ調査・レポート(港湾) 5: 社会インフラ調査・レポート(道路) 6: 社会インフラ調査・レポート(学校) 7: 社会インフラ調査・レポート(工業団地) 8: 社会インフラ調査・レポート(観光施設) 9: 社会インフラ調査・レポート(上水道・ダム) 10: 社会インフラ調査・レポート(下水道・下水処理施設) 11: 社会インフラ調査・レポート(公園) 12: 社会インフラ調査・レポート(住宅) 13: 社会インフラ調査・レポート(商業施設) 14: 社会インフラ調査・レポート(米軍基地) 15~17: 米軍基地内調査を含むフィールドワーク(総括) |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>前泊: 前泊博盛著『もっと知りたい! 本当の沖縄』岩波ブックレット 上江洲: テキストを使用しない。参考文献は講義中に紹介する。 随時紹介します。</p> |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>学びの手立て</p> <p>身近なインフラの裏側を、フィールドワークを通して検証します。現場を訪ね、ヒアリングとデータで調査分析します。基本的なデータを、しっかりと整理していきましょう。</p> |
| | <p>評価</p> <p>成績評価は出席および講義への参加姿勢、用語等説明の発表、レポートなどにもとづいておこなう。</p> |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>沖縄経済論 I II、島嶼経済論 I II、近代・現代沖縄経済史</p> |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない実体験できる科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナーⅡ | 後期 | 金2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 齋藤 星耕 | 2年 | 5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 本セミナーでは、自然に親しみ、生物相の調査を行う。得られた生物相データを統計処理することで、環境条件との因果関係や地点間の類似性を考察する。この過程を通じてデータ整理や、スライド作成、プレゼンテーションなどのスキルを向上させる。 | 自然の生物相は、適切な計画・方法に基づいて調査することによって、はじめて、科学的な議論の俎上にのせることができます。自然調査における考え方を学ぶことで、皆さんの社会や実生活での物の見え方も変わってくるかもしれません。 |
| 到達目標 | 生物相の調査法の考え方が理解できる。 グループで役割分担して調査を実施できる。 データの整理が出来る。 調査の結果をまとめ、プレゼンテーションできる。 | |

| | | | |
|--------|---|-------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 事前学習(1) | 資料の見直し |
| | 3 | 事前学習(2) | 資料の見直し |
| | 4 | 事前学習(3) | 資料の見直し |
| | 5 | 事前学習(4) | 資料の見直し |
| | 6 | フィールドワーク(1) | |
| | 7 | フィールドワーク(2) | |
| | 8 | フィールドワーク(3) | |
| | 9 | データ整理(1) | |
| | 10 | データ整理(2) | |
| | 11 | データ整理(3) | |
| | 12 | 発表スライド作成(1) | スライド作成 |
| | 13 | 発表スライド作成(2) | スライド作成 |
| 14 | 発表スライド作成(3) | 発表練習 | |
| 15 | スライド発表 | | |
| 16 | まとめ | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。 | | |
| 学びの手立て | 毎回出席し、やむを得ず欠席の場合には事前に連絡すること。 | | |
| 評価 | 演習における貢献や発表での取り組みにより総合的に評価する。 3分の2以上の出席と発表が必要。 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目： 土壌学概論、島嶼環境論、環境と農業、演習 |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性

地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、地域セミナーなどの実体験できる科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナーⅡ | 後期 | 金2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 砂川 かおり | 2年 | 研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 実際に地域経済のフィールドに出かけ、現場の空気を肌で感じることで、座学だけでは得られない知見を広めることを目標とする。この講義をきっかけに、受講者が地域の経済や環境政策に興味関心を持つことをねらいとする。 | メッセージ 指定されたクラスに登録してください。フィールドワークをメインとする授業です。地域経済や環境に関する現場を対象とします。 |
| | 到達目標 フィールドワークを行い、その成果を発表できる。 | |

| | | | |
|-------|--|-------------------|------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスをよく読む |
| | 2 | 事前学習 | グループで打ち合わせ |
| | 3 | 事前学習 | グループで打ち合わせ |
| | 4 | 事前学習 | グループで打ち合わせ |
| | 5 | 事前学習報告会 | グループで打ち合わせ |
| | 6 | フィールドワーク | グループで打ち合わせ |
| | 7 | フィールドワーク | グループで打ち合わせ |
| | 8 | フィールドワーク | グループで打ち合わせ |
| | 9 | フィールドワーク結果発表 | グループで打ち合わせ |
| | 10 | フィールドワークの結果に基づく学習 | グループで打ち合わせ |
| | 11 | フィールドワークの結果に基づく学習 | グループで打ち合わせ |
| | 12 | フィールドワークの結果に基づく学習 | グループで打ち合わせ |
| | 13 | フィールドワーク | グループで打ち合わせ |
| | 14 | フィールドワーク | グループで打ち合わせ |
| 15 | フィールドワーク | グループで打ち合わせ | |
| 16 | 最終報告会 | 後期の授業の振り返り | |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。随時資料を配布する。 参考文献は、適宜案内する。 | | |
| | 学びの手立て ・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。後日、欠席届を提出すること。 特に、フィールドワークや発表会を無断欠席する場合は不可となります。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。 | | |
| | 評価 ・単位取得の条件は、2/3以上の出席、フィールドワーク、報告会の参加である。 ・評価の配分は、事前学習報告（30%）、フィールドワーク結果報告（30%）、最終報告（30%）、レポート（10%） | | |

| | |
|-------|-------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「演習Ⅰ・Ⅱ」「演習Ⅲ・Ⅳ」 |
|-------|-------------------------------|

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|---------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナーⅡ | 後期 | 木4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 小川 護 | 2年 | メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい この授業では、沖縄の自然環境及び社会環境に関する諸問題を地理情報システム(GIS)を使いながら検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、課題にそって、GISを活用しながら主題図を作成し提出してもらう。また、野外学習(フィールドワーク)を行いながら、「現場」において地域発展の視点から環境問題や基地問題などの実態を考察する。 | メッセージ GIS(地理情報システム)を中心とする内容で積み上げ式に授業を展開していきます。休まないようにしてください。 |
| | 到達目標 GISの基礎的な操作方法について取得する。 | |

| | | | |
|-------|--|--|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | プリントによる復習 |
| | 2 | グーグルマップの使い方 | プリントによる復習 |
| | 3 | MANDARAの特徴と地図データ -さまざまな地図の紹介 | プリントによる復習 |
| | 4 | MANDARAで地図をつくろう① -MANDARAで階級区分図をつくる | プリントによる復習 |
| | 5 | MANDARAで地図をつくろう② -階級区分を考える | プリントによる復習 |
| | 6 | コンビニエンスストアの分布図 -競合店の多いコンビニを探す | プリントによる復習 |
| | 7 | 地価分布図の作成 -国土数値情報の地価公示データの利用 | プリントによる復習 |
| | 8 | 東京都八王子市の土地利用変化 -国土数値情報の土地利用メッシュデータの利用 | プリントによる復習 |
| | 9 | 地域の火災危険度と消防施設の立地 -防災関連データの利用 | プリントによる復習 |
| | 10 | 水質調査マップの作成 -現地調査データの地図上への表示方法 | プリントによる復習 |
| | 11 | ヒートアイランドに及ぼす環境パラメータの評価 -環境データどうしの関係を知る | プリントによる復習 |
| | 12 | 地図太郎の使い方① | プリントによる復習 |
| | 13 | 地図太郎の使い方② | プリントによる復習 |
| | 14 | 巡検(エクスカッション)① | 調査事項、説明事項の整理 |
| 15 | 巡検(エクスカッション)② | 調査事項、説明事項の整理 | |
| 16 | まとめ | レポート作成 | |
| | テキスト・参考文献・資料など 毎回、プリントを配布する。 後藤真太郎他著「MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座」(第3版)、古今書院 | | |
| | 学びの手立て 積み上げ式で授業を進めていくので、休まないようにしてください。また、授業で扱ったGIS操作方法は次の時間の授業までに、パソコン上で必ず復習してください。 | | |
| | 評価 提出課題および出欠状況をもとに総合的に判断する。 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 GIS学術士資格取得を目指す。→ 演習Ⅰ、地理情報システム論Ⅰ・Ⅱ。 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|---------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナーⅡ | 後期 | 木4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 呉 錫畢 | 2年 | メール (sukpil@okiu.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。 | |

| | | |
|-------|--|--------------------------|
| 学びの準備 | ねらい この授業では、沖縄地域の自然環境及び社会環境に関する諸問題を検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、各自の発表テーマに沿いながら議論する。また、野外学習やデータ分析を行いながら、地域とかかわる諸問題に対して考察し、社会における問題意識が培われることを目標とする。 | メッセージ 地球環境問題は地域から始まる。 |
| | 到達目標 地域の発展のために地域を理解する。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第1週 地域セミナーに関するオリエンテーション 第2週 地域とは何かについて発表 (Ⅰ) 第3週 地域とは何かについて発表 (Ⅱ) 第4週 北部地域の経済状況グループで発表 第5.6週 北部地域の環境・基地問題についてグループで発表 第7.8週 北部地域の観光・経済についてグループで発表 第9週 北部地域の経済・環境・観光・基地についてディベート 第10週 沖縄経済振興における開発の功罪について概説(赤土流出を中心に) 第11週 基地から見る辺野古経済を質す 第12週 海洋博からみる沖縄経済と美瀬フクギ並木の環境価値 第13週 国頭村安波から観光経済の未来を探る 第14.15週 地域と経済に関するディベートⅠ.Ⅱ 第16週 地域発展の視点より総括 |
| | テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて資料を配付する。 講義の中で適宜紹介する。 |
| | 学びの手立て 地域のことについて調べ、地域の巡見を通して肌で感じてもらう。 |
| | 評価 出席状況、授業への参加度、ディベート等で総合的に判断する。 |

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 演習Ⅰ・Ⅱを深めるための基礎を磨く。 |
|-------|-----------------------------------|

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない実体験できる科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナーⅡ | 後期 | 金2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 島袋 伊津子 | 2年 | ituko@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 受講者が実際に地域経済のフィールドに出かけ、現場の空気を肌で感じることで、座学だけでは得られない知見を広めること、さらに、この講義をきっかけに地域経済に興味関心を持つことをねらいとする。 | メッセージ 全講義16回のうち、12回は、Project Based Learning(PBL)を行います。 |
| | 到達目標 フィールドワークを行い、その成果を発表できる。 | |

| | | | |
|-------|---|--------------------------------|------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスをよく読む |
| | 2 | PBL (PBLについて、グループ設定、チームビルディング) | グループで打ち合わせ |
| | 3 | PBL (観光協会からの課題説明、質疑応答、課題の把握) | 〃 |
| | 4 | PBL (グループ打ち合わせ) | 〃 |
| | 5 | PBL (グループ打ち合わせ) | 〃 |
| | 6 | PBL (グループ打ち合わせ) | 〃 |
| | 7 | PBL (中間発表) | プレゼン資料作成 |
| | 8 | PBL (グループ打ち合わせ、ヒアリング調査等) | グループで打ち合わせ |
| 9 | PBL (グループ打ち合わせ、ヒアリング調査等) | 〃 | |
| 10 | PBL (報告資料仕上げ) | 〃 | |
| 11 | PBL (リハーサル) | プレゼン資料作成 | |
| 12 | PBL (最終報告) | 〃 | |
| 13 | 事前調査 | グループで打ち合わせ | |
| 14 | フィールドワーク | 〃 | |
| 15 | フィールドワーク | 〃 | |
| 16 | 最終報告会 | プレゼン資料作成 | |
| | テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 各グループが設定したテーマに応じて適宜教える。 | | |
| | 学びの手立て やむを得ない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールしてください。特に、フィールドワークや発表会を無断欠席する場合は不可となります。 | | |
| | 評価 ・単位取得の条件は、2/3以上の出席、フィールドワーク、報告会の参加である。 ・評価の配分は、事前学習報告(30%)、フィールドワーク結果報告(30%)、最終報告(30%)、レポート(10%) | | |

| | |
|-------|-----------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 「演習ⅠⅡ」「演習ⅢⅣ」 |
|-------|-----------------------------|

| | | | | |
|--------|-----------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナーⅡ | 後期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 山川（矢敷） 彩子 | 2年 | メールの場合： a.yamakawa@okiu.ac.jp 研究室： 9号館505室 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 地域セミナーは、沖縄県の地域経済や自然環境について、実際にフィールド（現地）に行って体験学習することが目的である。 | 本講義は地域セミナーIで事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面談を実施するので、メールでアポをとり研究室（9-505）に相談に来ること。 |

| |
|---|
| 到達目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> 基本的な論文・レポートの書き方のルールを理解し身に付ける。 レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。 大学生生活のルールや学生支援の内容を理解し、4年間の計画および卒業後の目標を立てる |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>沖縄島の成り立ち（地史）、地質や土壌、自然環境（植物）について学ぶ。実習地としては、浦添大公園やピオスの丘、読谷村宇座海岸等があげられる。巡検後、調べ学習し考察を加えレポートとしてまとめる。</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 メールの書き方 第3～4週 事前学習 第5週 フィールドワーク（教員引率） 第6～7週 レポート作成 第8週 先輩との交流会 第8～9週 レポート作成 第10～14週 沖縄の危険生物・外来生物についての調べ発表 第15週 まとめ</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特に指定しない。 講義中適宜紹介する。</p> |

| |
|---|
| 学びの手立て |
| <ul style="list-style-type: none"> 地域セミナーⅠ・Ⅱは二年次必修の科目なので必ず出席すること。 やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。 欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。 <p>※無断欠席はグループ作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、グループメンバーに多大な迷惑をかけることになる</p> |

| |
|--|
| 評価 |
| <p>単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出が必須である。評価は、演習における発言の内容やレポートの内容により総合的に評価する。</p> <p>授業参加度30%、課題の取組姿勢、出来60%、プレゼンテーション10%とする。</p> |

| |
|---|
| 学びの継続 |
| <p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域セミナーⅠ、演習Ⅰ・Ⅱ（山川ゼミ）、島嶼環境論、環境資源論、生態学概論、生物学Ⅰ・Ⅱ、自然科学概論Ⅰ・Ⅱなど。</p> |

※ポリシーとの関連性

地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、実体験できる科目を提供。

[/演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|-------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナーⅡ | 後期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 上江洲 薫 | 2年 | 研究室 5-632 kuezu@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 環境問題、地域経済を本質的に理解するためには、問題意識をもってフィールドに出て、観察、調査することが重要です。「地域セミナー」では野外実習と屋内での分析・データ整理とを通じて、実践的なアプローチの基礎、地域調査の手法を学びます。 | 地域セミナーは2年次のゼミになります。地域に向くことで、地域の現状や課題を調査し、その課題の解決方法を考えて下さい。この課題解決方法の思考は社会人になっても役立つはずです。 |
| 到達目標 | ①地域の産業や商業地域の現状・課題を把握するため、事前調査の実施や巡検の内容をまとめることができる。 ②商業地域に関する取り組み事例を考察することができる。 ③商業地域をグループで現地調査を行い、その現状や課題を報告することができる。 ④観光まちづくりや商業地域の課題に対する議論や提言を行うことができる。 | |

| | | | |
|----------------|--|--|---------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 地域セミナーの内容・日程等の説明 | |
| | 2 | 巡検事前調査：巡検中に学生が説明するためキーワード調査 | 各自が説明文の作成 |
| | 3 | 巡検地域の事前調査①：市町村の統計データをもとに表・グラフを作成・分析 | 表・グラフの作成 |
| | 4 | 巡検地域の事前調査②：市町村の統計データをもとに表・グラフを作成・分析 | 表・グラフの分析 |
| | 5 | 地域づくり・観光まちづくりに関する説明 | 配布資料を読む |
| | 6 | 1回目巡検（1日中）の予定ルート：沖縄市・読谷村：リサイクル業・残波岬植生など | 巡検内容の整理 |
| | 7 | 地域づくり・観光まちづくりに関する討論：座喜味集落の地域づくり、巡検レポートの提出・添削 | レポートの作成 |
| | 8 | 巡検レポートの最終提出 | 同上 |
| | 9 | 商店街の現状と対策に関する説明 | 配布資料を読む |
| | 10 | 事前調査①（商店街の現状と対策） | 課題の作成 |
| | 11 | 事前調査②（商店街の現状と対策）：課題提出 | 同上 |
| | 12 | 2回目巡検（半日）：沖縄市の商店街の店舗利用・聞き取り調査 | 巡検内容の整理 |
| | 13 | グループ学習：調査結果の集計、パワーポイント作成 | パワーポイントの作成・修正 |
| 14 | グループ発表①：現状と提言を中心に | 同上 | |
| 15 | グループ発表②：現状と提言を中心に | 同上 | |
| 16 | ワークショップ：商店街の問題点と活性化を議論、まとめ | 課題の提出 | |
| テキスト・参考文献・資料など | テキスト：使用しない。 参考文献：①竹内裕一・加賀美雅弘編（2009）『身近な地域を調べる』古今書院。 ②荒井良雄・箸本健二編（2007）『流通空間の再構築』古今書院。 | | |
| 学びの手立て | 履修の心構え：巡検の場合、雨天延期もあり得るので、事前の講義やメール連絡を確認しましょう。また、見学する企業側に不快な態度を取らず、説明を良く聞き、集中してメモを取るようにすること。 地域の課題を議論する時には、積極的に発言し、討論に参加して下さい。 学びを深めるために：日常的に地域の問題・課題に関心を持ち、新聞や専門図書等を読む。 | | |
| 評価 | レポート（30%） 第1回目の巡検内容で、講師や企業等の説明や巡検で考察した内容を評価します。 課題（20%） 商店街活性化に関する取り組み事例について、既存の取り組みの考察内容を評価します。 グループ発表（30%） 第2回目の巡検内容について、具体的な対策が提言されるかを評価します。 平常点（20%） 演習中や巡検中の発表・討論などを確認します。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 次のステージ：「地域セミナー」で身につけた、地域に対する考察力や課題解決力を、3・4年次のゼミや卒業後の社会で活用できるとして欲しい。 関連科目：「地域セミナーⅠ」「社会調査論Ⅰ・Ⅱ」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|---------|------|-----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地域セミナーⅡ | 後期 | 木4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 2年 | t. toguchi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 沖縄県を対象とした地域の経済や自然環境に関する諸問題を解決する方法を模索する。授業では、問題を解決するために必要なデータ収集とその方法を学習し、地域を考える意識を培う。 | メッセージ 問題解決のための方法を学び、学外研修を通して地域に散在する問題について考えましょう。 |
| | 到達目標 ・データの収集方法を学ぶ。 ・地域に対する問題意識を議論する。 ・自分たちの住む地域の在り方を考える。 | |

| | | | |
|-------|---|--------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義説明 | |
| | 2 | 地域の抱える問題について | |
| | 3 | 解決方法の模索 | |
| | 4 | 地域を表すデータについて | |
| | 5 | 文献サーベイの練習1 | 配布資料を参照 |
| | 6 | 文献サーベイの練習2 | |
| | 7 | データの扱い方1 | |
| | 8 | データの扱い方2 | |
| 9 | 学外研修と調査の準備1 | | |
| 10 | 学外研修と調査の準備2 | | |
| 11 | 学外研修 | | |
| 12 | データ解析についてのサーベイ1 | 配布資料を参照 | |
| 13 | データ解析についてのサーベイ2 | | |
| 14 | 学外研修の調査結果のまとめ パワーポイント作成 | | |
| 15 | 調査結果の発表 | | |
| 16 | 総括 | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など ・適時、資料を用意して配布します。 | | |
| | 学びの手立て ・配布した資料を参考に、地域の諸問題について自身の問題意識を持つ。 | | |
| | 評価 ・出欠とレポート提出、発表内容で評価を行う。 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 ・学外研修から地域の問題意識を考え、「地域経済学Ⅰ」や「地域経済学Ⅱ」の理解に役立て欲しい。 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|-------------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地理情報システム論 I | 前期 | 金 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -渡邊 康志 | 3年 | 授業終了後教室にて受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 地理情報システムの基本概念等を学ぶとともに、GISソフトの基本操作を習得する。本講義では、先ず地理情報システム (GIS) 基本概念の学習を行い、さらにGISソフトを使った基本データ処理演習を行う。基本概念の学習では、地図投影法、GISデータの種類と特徴、データ処理法などの基本概念を解説するとともに実際のGIS利用例なども紹介する。 | メッセージ 地域分析のための重要ツールとして地理情報システムの基本概念等を学び、研究に活用しよう。 |
| | 到達目標 地理情報システムの基本概念等を学ぶとともに、GISソフトの基本操作を習得し、基本的事項を理解操作できるようにする。成績評価の方法は、講義単元ごとのレポート等の課題提出などの内容を総合して判断する。 | |

| | | | |
|-------|--|--------------------------|----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明) | シラバスをよく読むこと |
| | 2 | 地理情報システム概要、GIS利用例 | 講義1での配布資料の予習 |
| | 3 | 地理情報システムと地図投影法 | テキスト1章Lesson 1 |
| | 4 | GISデータの種類と特徴 | 1章Lesson 2 |
| | 5 | ベクトルデータ処理法 | 1章Lesson 3 |
| | 6 | GISにおけるレイヤーコントロール | 1章Lesson 4 |
| | 7 | 個別値主題図作成とマップ | 1章Lesson 5 |
| | 8 | 属性値の編集 | 1章Lesson 6 |
| | 9 | 数値データを使った主題図 | 1章Lesson 7 |
| | 10 | 各種マップの調整とその利用 | 1章Lesson 8 |
| | 11 | 地図投影法 | 2章- 1 |
| | 12 | 公開されているGISデータの利用 | 2章- 2, 3 |
| | 13 | DEM(標高データ)の利用 | 10章- 1, 2 |
| | 14 | 公開されているDEMの利用 | 10章- 3 |
| | 15 | 衛星画像の利用 | 5章 |
| | 16 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストはpdfで配布。 参考文献 『GIS自習室』 SuperMapExpressを使い倒す 古今書院 "Geographic Information Systems and Science" JOHN WILEY & SONS, LTD 張長平著『空間データ分析』 古今書院 地理情報システム学会編『地理情報科学事典』 朝倉書店 | | |
| | 学びの手立て 実習で作成したデータや関連した課題を5回程度提出してもらう。本講義は初歩よりデータや操作を積み重ねていくので、欠席することなく講義に参加すること。止むを得ず欠席した場合は教科書等で講義内容を自習、補ってから次の講義を受けること。 | | |
| | 評価 成績評価の方法は、事業終了時単元ごとに実習で作成したデータや関連した課題などを提出してもらう。その内容を総合して判断する。 | | |

| | |
|-------|----------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 上位科目、地理情報システム論 II |
|-------|----------------------------------|

| | | | | |
|--------|-------------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地理情報システム論 I | 前期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -渡邊 康志 | 3年 | 授業終了後教室にて受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 地理情報システムの基本概念等を学ぶとともに、GISソフトの基本操作を習得する。本講義では、先ず地理情報システム (GIS) 基本概念の学習を行い、さらにGISソフトを使った基本データ処理演習を行う。基本概念の学習では、地図投影法、GISデータの種類と特徴、データ処理法などの基本概念を解説するとともに実際のGIS利用例なども紹介する。 | メッセージ 地域分析のための重要ツールとして地理情報システムの基本概念等を学び、研究に活用しよう。 |
| | 到達目標 地理情報システムの基本概念等を学ぶとともに、GISソフトの基本操作を習得し、基本的事項を理解操作できるようにする。成績評価の方法は、講義単元ごとのレポート等の課題提出などの内容を総合して判断する。 | |

| | | | |
|-------|--|--------------------------|----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | |
| | 1 | オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明) | |
| | 2 | 地理情報システム概要、GIS利用例 | |
| | | 時間外学習の内容 | |
| | 3 | 地理情報システムと地図投影法 | シラバスをよく読むこと |
| | 4 | GISデータの種類と特徴 | 講義1での配布資料の予習 |
| | 5 | ベクトルデータ処理法 | テキスト1章Lesson 1 |
| | 6 | GISにおけるレイヤーコントロール | 1章Lesson 2 |
| | 7 | 個別値主題図作成とマップ | 1章Lesson 3 |
| | 8 | 属性値の編集 | 1章Lesson 4 |
| | 9 | 数値データを使った主題図 | 1章Lesson 5 |
| | 10 | 各種マップの調整とその利用 | 1章Lesson 6 |
| | 11 | 地図投影法 | 1章Lesson 7 |
| | 12 | 公開されているGISデータの利用 | 1章Lesson 8 |
| | 13 | DEM(標高データ)の利用 | 2章- 1 |
| | 14 | 公開されているDEMの利用 | 2章- 2, 3 |
| | 15 | 衛星画像の利用 | 10章- 1, 2 |
| | 16 | | 10章- 3 |
| | | | 5章 |
| | テキスト・参考文献・資料など | | |
| | テキストはpdfで配布。 参考文献 『GIS自習室』 SuperMapExpressを使い倒す 古今書院 "Geographic Information Systems and Science" JOHN WILEY & SONS, LTD 張長平著『空間データ分析』 古今書院 地理情報システム学会編『地理情報科学事典』 朝倉書店 | | |
| | 学びの手立て | | |
| | 実習で作成したデータや関連した課題を5回程度提出してもらう。本講義は初歩よりデータや操作を積み重ねていくので、欠席することなく講義に参加すること。止むを得ず欠席した場合は教科書等で行為内容を自習、補ってから次の講義を受けること。 | | |
| | 評価 | | |
| | 成績評価の方法は、事業終了時単元ごとに実習で作成したデータや関連した課題などを提出してもらう。その内容を総合して判断する。 | | |

| | |
|-------|----------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 上位科目、地理情報システム論 II |
|-------|----------------------------------|

※ポリシーとの関連性

履修の条件は『地理情報システムⅠ』を履修済みであること。地域分析のための重要ツールとして活用をはかる。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|------------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 地理情報システム論Ⅱ | 後期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -渡邊 康志 | 3年 | 授業終了後教室にて受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 地理情報システムⅠで学んだ基本事項をもとに、本講義ではGISデータを自分で作成する方法を学び、さらには属性検索、空間検索等を行うし、空間分析方法の基礎を学ぶ。 | メッセージ 履修条件は『地理情報システムⅠ』を履修済みであること。地域分析のための重要ツールとして地理情報システムを研究に活用する、実践方法を学びましょう。 |
| | 到達目標 地理情報システムの基本概念・操作方法等を使って、GISデータの作成方法学ぶとともに、GISソフトを使った解析手法の基礎を学び、研究に空間分析が利用できるようにする。 | |

| | | | |
|-------|--|--------------------------|-------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明) | シラバスをよく読むこと |
| | 2 | ラスターデータのジオリファレンス | テキスト4章-1, 2 |
| | 3 | ラスターデータのジオリファレンス(2) | 4章-3, 4 |
| | 4 | ベクトルデータセットの作成, ポイントデータ | 3章-1, 2 |
| | 5 | ベクトルデータセットの作成, ラインデータ | 3章-4, 5 |
| | 6 | ベクトルデータセットの作成, ポリゴンデータ | 3章-6, 7 |
| | 7 | ベクトルデータセットの作成, テキストデータ | 3章-4 |
| | 8 | GISデータの投影変換 | 6章-4, 5 |
| 9 | GISデータの座標系変換 | 6章-6 | |
| 10 | 属性検索と検索結果の保存 | 7章-1 | |
| 11 | 属性表を使った演算と属性情報の生成 | 7章-2 | |
| 12 | 空間検索 | 8章-1 | |
| 13 | オブジェクト位置関係を使った空間検索 | 8章-2 | |
| 14 | 空間操作(バッファとボロノイ) | 8章-6, 7 | |
| 15 | オーバーレイによる空間解析 | 9章 | |
| 16 | | | |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストはpdfで配布。 参考文献 『GIS自習室』 SuperMapExpressを使い倒す 古今書院 "Geographic Information Systems and Science" JOHN WILEY & SONS, LTD 張長平著『空間データ分析』 古今書院 地理情報システム学会編『地理情報科学事典』 朝倉書店 | | |
| | 学びの手立て 『地理情報システムⅠ』を履修済みであること。実習で作成したデータや関連した課題を5回程度提出してもらう。本講義は初歩よりデータや操作を積み重ねていくので、欠席することなく講義に参加すること。止むを得ず欠席した場合は教科書等で講義内容を自習、補ってから次の講義を受けること。 | | |
| | 評価 実習で作成したデータや関連した課題を5回程度提出してもらう。本講義は初歩よりデータや操作を積み重ねていくので、欠席することなく講義に参加すること。止むを得ず欠席した場合は教科書等で行為内容を自習、補ってから次の講義を受けること。 | | |

| | |
|-------|--------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 卒論等の研究に利用してほしい。 |
|-------|--------------------------------|

| | | | | |
|--------|----------|------|-----------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 統計情報処理 I | 前期 | 水 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 友知 政樹 | 2年 | メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 本講義では、回帰分析を基軸に基礎的な多変量解析法について学ぶことを目的とする。具体的には、多変量解析法の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用して統計処理し、その方法ならびに結果の解釈について学ぶ。 | メッセージ 統計学+コンピュータを学びます。 |
| | 到達目標 ねらいの達成。 | |

| | | | |
|-------|--|----------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | |
| | 2 | 基本統計量とエクセル (1) | |
| | 3 | 基本統計量とエクセル (2) | |
| | 4 | 基本統計量とエクセル (3) | |
| | 5 | 相関分析 (1) | |
| | 6 | 相関分析 (2) | |
| | 7 | 単回帰分析 (1) | |
| | 8 | 単回帰分析 (2) | |
| 9 | 重回帰分析 (1) | | |
| 10 | 重回帰分析 (2) | | |
| 11 | 回帰モデルの仮説検定と予測 (1) | | |
| 12 | 回帰モデルの仮説検定と予測 (2) | | |
| 13 | ダミー変数 (1) | | |
| 14 | ダミー変数 (2) | | |
| 15 | 最終試験 | | |
| 16 | | | |
| | テキスト・参考文献・資料など 未定 参考文献は講義時に紹介する。 | | |
| | 学びの手立て 毎回出席すること。 | | |
| | 評価 出席状況、レポート、試験などにより総合的に評価する。 | | |

| | |
|-------|--------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 統計情報処理 II |
|-------|--------------------------|

| | | | | |
|--------|---------|------|-----------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 統計情報処理Ⅱ | 後期 | 水2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 友知 政樹 | 2年 | メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---------------------------|
| 学びの準備 | ねらい 本講義では、回帰分析の習得を前提に、多変量解析法について発展的に学ぶことを目的とする。具体的には、多変量解析法の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら統計処理し、その方法ならびに結果の解釈について学ぶ。 | メッセージ 統計学+コンピュータを学びます。 |
| | 到達目標 ねらいの達成。 | |

| | | | |
|-------|--|--------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | |
| | 2 | 回帰分析の復習（1） | |
| | 3 | 回帰分析の復習（2） | |
| | 4 | 回帰分析の復習（3） | |
| | 5 | 時系列重回帰分析（1） | |
| | 6 | 時系列重回帰分析（2） | |
| | 7 | 主成分分析（1） | |
| | 8 | 主成分分析（2） | |
| | 9 | 主成分分析（3） | |
| | 10 | コンジョイント分析（1） | |
| | 11 | コンジョイント分析（1） | |
| | 12 | コンジョイント分析（2） | |
| | 13 | コンジョイント分析（3） | |
| | 14 | 総まとめ | |
| | 15 | 最終試験 | |
| | 16 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など 未定 参考文献は講義時に紹介する。 | | |
| | 学びの手立て 毎回出席すること。 | | |
| | 評価 出席状況、レポート、試験などにより総合的に評価する。 | | |

| | |
|-------|-----------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 計量経済学Ⅰ |
|-------|-----------------------|

| | | | | |
|--------|---------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 島嶼経済論 I | 前期 | 火 4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 前泊 博盛 | 3年 | メールで対応。下記のメールアドレスへ。hm aeomari@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>沖縄本島から離れて「島」に住むことを考えたことがありますか？ 沖縄県は島嶼県。大小多くの島々から成り立っています。有人島もあれば無人島もあり、人口が1万人を超す島もあれば、数人しかいない有人島もあります。人が住む島と住めない島、住まない島の違いは何ですか？ある一定の規模の人が島に住むためには経済活動が不可欠です。島嶼の「経済」の課題と可能性を分析します。</p> | <p>沖縄県にある160の島々の特徴と有人島49の経済の実態を分析し、島嶼県沖縄の課題と可能性を整理します。ウチナーンチュなら沖縄の島の名前と特徴、経済振興策を全部覚えてみませんか？</p> |
| 到達目標 | ①島嶼経済の基本概念を理解する。 ②島嶼経済の課題を理解する。 ③島嶼経済の振興策を調査・研究する基礎力を身に着ける。 ④フィールドワークを通して、情報収集、現状分析力を身に着ける。 | |

| | | | |
|----------------|---|---------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義の狙い（沖縄の島検定） | |
| 2 | 島嶼経済論の系譜 | | |
| 3 | 島嶼経済の理論 | | |
| 4 | 島の定義と分類 | | |
| 5 | 沖縄離島の課題①人口動向 | | |
| 6 | 沖縄離島の課題②交通 | | |
| 7 | 沖縄離島の課題③産業 | | |
| 8 | 沖縄離島の課題④インフラ | | |
| 9 | 沖縄離島の課題⑤生活環境 | | |
| 10 | 沖縄離島の課題⑥教育・文化環境 | | |
| 11 | 沖縄離島の課題⑦情報基盤 | | |
| 12 | 沖縄離島の課題⑧医療・保健 | | |
| 13 | 沖縄の離島振興①農林水産業 | | |
| 14 | 沖縄の離島振興②製造業 | | |
| 15 | 沖縄の離島振興③観光 | | |
| 16 | 島嶼経済論の総括 | | |
| テキスト・参考文献・資料など | 「新沖縄県離島振興計画」沖縄県など。随時指定。 | | |
| 学びの手立て | 島嶼経済論の基本書を読破しましょう。 ①嘉数啓「島しょ経済論」（ひるぎ社） ②松島泰勝「沖縄島嶼経済史」 ③沖縄県「住みよく魅力ある島づくり計画」（平成25年3月） | | |
| 評価 | ・出席を重視。5回欠席で「不可」。欠席時には「欠席届」提出を。 ・毎回、講義の課題回答、感想、質問を提出。その内容も踏まえレポートで総合的に評価します | | |

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 沖縄経済論 I II、近代・現代沖縄経済史 |
|-------|--------------------------------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 島嶼経済論Ⅱ | 後期 | 火4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 前泊 博盛 | 3年 | メールで対応。下記のメールアドレスへ。hm aeomari@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>①島嶼地域特有の経済課題を分析。 ②事例研究を通して、島嶼経済の実態を把握。 ③海外の島嶼地域の振興策を理解する。 ④ネットワーク経済の課題と可能性について整理する。</p> | <p>島嶼経済論のレポート執筆後、フィールドワークで沖縄本島周辺離島の調査を行います。伊計、宮城、平安座、浜比嘉島をはじめ、沖縄本島北部の古宇利、屋我地、瀬底島などケーススタディ対象地を全員で訪問・調査します。</p> |
| | 到達目標 | |
| | <p>①島嶼経済の基本概念を理解する。 ②ケーススタディを通して、島ごとに異なる経済環境の分析力を身に着ける。 ③海外島嶼地域の振興政策の調査・分析を行い、その特徴と課題を理解する。 ④独自の島嶼振興策の構築を行う。 ⑤島の名前と特徴を覚える。</p> | |

| | | | |
|-------|---|---------------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義の狙い（島嶼とは） | |
| | 2 | 島嶼経済の理論 | |
| | 3 | 架橋経済学①（池間、来間、伊良部架橋の経済学） | |
| | 4 | 架橋経済学②（瀬底、古宇利架橋の経済学） | |
| | 5 | 架橋経済学③（伊計、宮城、平安座、浜比嘉の経済学） | |
| | 6 | 島嶼間経済格差（南・北大東島の所得格差比較） | |
| | 7 | 島嶼観光経済学（宮古島と石垣島比較） | |
| | 8 | 島嶼地域経済学①シンガポールⅠ | |
| | 9 | 島嶼地域経済学②シンガポールⅡ | |
| | 10 | 島嶼地域経済学③ハワイⅠ | |
| | 11 | 島嶼地域経済学④ハワイⅡ | |
| | 12 | 島嶼地域経済学⑤フィリピンⅠ | |
| | 13 | 島嶼地域経済学⑥フィリピンⅡ | |
| 14 | 島嶼地域経済学⑦南太平洋地域（グアム、サイパン、テニアン＝マリアナ諸島） | | |
| 15 | 島嶼経済論の課題と展望 | | |
| 16 | フィールドワーク | | |
| | テキスト・参考文献・資料など | | |
| | <p>参考文献 嘉数啓「島しょ経済論」（ひるぎ社） 松島泰勝「沖縄島嶼経済史」 沖縄県「住みよく魅力ある島づくり計画」（平成25年3月） その他、講義の中で適宜紹介します。</p> | | |
| | 学びの手立て | | |
| | 島嶼経済に関する基本図書を、しっかりと読み込んでください。 | | |
| | 評価 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・出席を重視。5回欠席で「不可」。欠席時には「欠席届」提出を。 ・毎回、講義の課題回答、感想、質問を提出。その内容も踏まえレポートで評価します。 | | |

| | |
|-------|-------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
|-------|-------------|

| | | | | |
|--------|-------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 島嶼環境論 | 前期 | 水3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 齋藤 星耕 | 2年 | 5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>島嶼は、他の陸地から海により隔てられた陸地である。この結果、陸上の生物相は独自性を持つが、島の歴史から紐解けばその成立を理解できる。また、亜熱帯に位置する琉球弧では、島の周囲にマングローブ林やサンゴ礁が形成され豊かな生物相を形成している。さらに、生物としての人類の島々への伝播も扱う。これらの内容を通じて島の自然環境への理解を深める。</p> | <p>沖縄の島々は、陸上も海の中も生命に溢れています。生物相は島々によって異なり個性があります。その理由を探っていくと、島相互の地理的な位置関係や、島が形成されてきた歴史に行き当たります。その中で沖縄（や世界）の島々間の共通性や違いにも気が付くかもしれません。皆さんにとって本講義が、足元の島から世界を理解する一助となることを期待します。</p> |
| 到達目標 | <p>① 島の形成過程について地球科学の視点から理解できる ② 島の陸上生物の分布と島の歴史の関係を理解できる ③ マングローブ林やサンゴ礁な熱帯・亜熱帯の島々に特徴的な生態系について理解できる ④ 生物としての人類の島への到達・定住の歴史を理解できる</p> | |

| | | | |
|-------|---------------------------|-----------------------------|------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション 島嶼とは | |
| | 2 | 島の形成 (1) 火山島と環礁の形成 | 配布プリントの見直し |
| | 3 | 島の形成 (2) 地殻変動による島の形成 | 配布プリントの見直し |
| | 4 | 島と気候変動 (1) 氷期と間氷期の周期変動と島 | 配布プリントの見直し |
| | 5 | 島と気候変動 (2) 島と地球温暖化 | 配布プリントの見直し |
| | 6 | 島の陸上生物相 (1) 琉球弧の来歴と陸上生物 | 配布プリントの見直し |
| | 7 | 島の陸上生物相 (2) 移入種問題 | 配布プリントの見直し |
| | 8 | 島の陸上生物相 (3) 島の生物学の諸法則 | 配布プリントの見直し |
| | 9 | マングローブの生物相 (1) 耐塩性をもつ木本植物 | 配布プリントの見直し |
| | 10 | マングローブの生物相 (2) マングローブの生態系機能 | 配布プリントの見直し |
| | 11 | サンゴ礁の生物相 (1) サンゴと褐虫藻の共生 | 配布プリントの見直し |
| | 12 | サンゴ礁の生物相 (2) サンゴ礁がもたらす生物多様性 | 配布プリントの見直し |
| | 13 | 島の人類史 (1) 海を渡った人々 | 配布プリントの見直し |
| | 14 | 島の人類史 (2) 島の人類社会と環境問題 | 配布プリントの見直し |
| 15 | 島の人類史 (3) 現代の沖縄人はどこからきたのか | 配布プリントの見直し | |
| 16 | 定期試験 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは定めない。毎回の授業でA3サイズ2枚程度のプリントを配布する。</p> <p>参考文献 琉球大学理学部編 (2015) 琉球列島の自然講座, ボーダーインク; 鈴木款ほか編 (2011) サンゴ礁学, 東海大学出版会 小滝一夫 (1997) マングローブの生態, 信山社。</p> |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | <p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え: ・ 毎回、講義の最後に小テストを実施する。注意深く講義の内容を聞きノートをとること。 ・ 毎回出欠確認を行う。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に必ずメールにて連絡すること。</p> |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>評価</p> <p>期末試験 (60%)と、毎回の授業の小テスト(40%)により評価する。</p> |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目: 「土壌学概論」、「農業と環境」</p> |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|-------|------|-----------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 都市経済論 | 後期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 崎浜 靖 | 2年 | 研究室13号館208 sakahama@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>本講義では、都市の立地理論、商業・産業集積に関する理論を踏まえ、幾つかの都市空間の特性を取り上げる。また、都市の成り立ちを読み解く政治経済学的アプローチによる方法を援用して、都市経済の構造を検討する。</p> | <p>「都市」を経済学的に考察する場合、およそ「空間」を抜きに分析することは不可能である。よって、経済学以外に、人文地理学、社会学、歴史学、政治学などの研究成果を用いながら、都市経済を検討することが必要である。学際的な視点を身につけて、都市の経済現象を理解して欲しい。</p> |
| 到達目標 | <p>①都市における経済現象を、実際の都市空間において説明できる。 ②講義で取り上げた事例に関して、自分の意見や提案をすることができる。</p> | |

| | | | |
|----------------|---|-------------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスをよく読むこと |
| | 2 | 「都市」とは何か | 事前に配ったプリントを読むこと |
| | 3 | 経済学が忘れてしまった空間 | 同上 |
| | 4 | 立地論の基礎①－オフィス立地と都市システム論 | 同上 |
| | 5 | 立地論の基礎②－クルーグマンの産業立地モデル－ | 同上 |
| | 6 | 立地論の基礎③－ポーターの産業クラスター理論－ | 同上 |
| | 7 | 立地論の基礎④－リストラクチャリング－ | 同上 |
| 8 | 中心地と都市システム①－アメリカ合衆国の事例－ | 同上 | |
| 9 | 中心地と都市システム②－東京都の事例－ | 同上 | |
| 10 | 中心地と都市システム③－沖縄コナベーションの事例－ | 同上 | |
| 11 | 中心地と都市システム④－先島諸島の事例－ | 同上 | |
| 12 | 近代国家と空間編成 | 同上 | |
| 13 | 植民地主義と都市空間①－台北－ | 同上 | |
| 14 | 植民地主義と都市空間②－サイパン島ガラバン－ | 同上 | |
| 15 | 植民地主義と都市空間③－コザ－ | 同上 | |
| 16 | 試験 | | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>特に指定はない。適宜レジュメを配布する。</p> | | |
| 学びの手立て | <p>「地域経済学」「経済地理」などの講義を受講していることが望ましい。授業中に課題を与える場面も多いので、時間内に提出すること。</p> | | |
| 評価 | <p>定期テスト (50点) 平常点：講義中の課題提出・発表 (50点) (出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる)</p> | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ：卒業論文 関連科目：「地域経済学Ⅰ・Ⅱ」「経済地理Ⅰ・Ⅱ」「地域セミナーⅠ・Ⅱ」</p> |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|-------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 土壤学概論 | 前期 | 火4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 齋藤 星耕 | 2年 | 5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>土壌は、陸上生態系の生産者である植物の生育に必要な養分を供給し、人類を含む他の陸上生物を支えている。また土壌は、動植物遺体や排泄物など有機物の分解の場であり、再度植物が利用可能な養分に戻している。土壌は、気象の作用と、生態系との相互作用を通じて、長い時間をかけて岩石が変化して生成されたものである。本講義では陸上生態系の基盤である土壌への理解を深める。</p> | <p>皆さんの日常の中で、土に触れる機会は殆どないかもしれません。しかし、土は人間を含めて、陸上に生きる生物にとって欠くことの出来ないものです。土を考えることを通じて、生態系の仕組みを知り、またその歴史に触れることで、人間という生物の立ち位置が理解できます。そのなかから、環境を保全しなくてはならない理由が見えてくるはずです。</p> |
| 到達目標 | <p>① 土壌と生物との関わりが理解できる ② 土壌が持つ生態系機能について理解できる ③ 土壌形成に影響を及ぼす因子について理解できる ④ 土壌をめぐる環境問題について理解できる</p> | |

| | | | |
|-------|-----------------------------|---|------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | 時間外学習の内容 |
| | 回 | テーマ | |
| | 1 | はじめに 土壌とは | |
| 2 | 土壌と生物(1): 生態系 | | 配布プリントの見直し |
| 3 | 土壌の生物(2): 植物と養分 | | 配布プリントの見直し |
| 4 | 土壌の生物(3): 生分解作用と微生物 | | 配布プリントの見直し |
| 5 | 土壌の生物(4): 土壌動物 | | 配布プリントの見直し |
| 6 | 土壌の発達(1): 土壌の誕生 | | 配布プリントの見直し |
| 7 | 土壌の発達(2): 土壌生成作用 | | 配布プリントの見直し |
| 8 | 土壌の発達(3): 層位の分化、微細構造 | | 配布プリントの見直し |
| 9 | 土壌の機能(1): 養分の保持 | | 配布プリントの見直し |
| 10 | 土壌の機能(2): 水分、地温 | | 配布プリントの見直し |
| 11 | 土壌の種類と分布(1): 土壌の種類 | | 配布プリントの見直し |
| 12 | 土壌の種類と分布(2): 気候帯の影響と、生態系の遷移 | | 配布プリントの見直し |
| 13 | 土壌をめぐる環境問題(1): 土壌浸食 | | 配布プリントの見直し |
| 14 | 土壌をめぐる環境問題(2): 塩類集積、土壌汚染 | | 配布プリントの見直し |
| 15 | 沖縄の土壌 | | 配布プリントの見直し |
| 16 | 定期試験 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など | <p>教科書は使用しない。毎回A3二枚程度のプリントを配布する。 参考文献： 松中照夫「土壌学の基礎」(2003, 農文協)</p> | |
| | 学びの手立て | <p>履修の心構え： ・毎回、講義の最後に小テストを実施する。注意深く講義の内容を聞きノートをとること。 ・レポートを課すことがある。 ・毎回出欠確認を行う。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に必ずメールにて連絡すること。</p> | |
| | 評価 | <p>期末試験 (50%)と、小テスト及びレポート(50%)により評価する。</p> | |

| | |
|-------|-----------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
| | 関連科目： 「農業と環境」、「島嶼環境論」 |

| | | | | |
|--------|-------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 農業と環境 | 後期 | 水3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 齋藤 星耕 | 2年 | 5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>人類は食料の大部分を農業に依存している。農業は、人類にとって有益な生物を育てるために環境を改変する行為であり、環境への影響を避けることができない。本講義では、農業の歴史、人類が直面する環境と食料の問題、農業が生態系に与える影響とその過程を扱う。また、持続可能な農業への取り組みも紹介する。これらにより農業と環境の関係に対する理解を深める。</p> | <p>特に農業は、自然に積極的に働きかけることで食料などの生産物を得る人類の営為です。しかし、歴史的には農業が環境破壊を引き起こし、衰退した地域がいくつもあります。また現代は歴史上かつてない規模に増加した人口を養う必要に直面しています。持続的な農業、ひいては社会を実現するためにはどうすれば良いのか、本講義を通じて各自が考えていく機会となればと思います。</p> |
| | 到達目標 | |
| | <p>①食料問題を農業と環境の観点から理解できる。 ②農業が環境に影響を与える過程を具体的に理解できる。 ③持続的な農業への取り組みを知る。</p> | |

| | | | |
|-------|--|-------------------------|------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション：他の生物を育てて食べる生物 | |
| | 2 | 人類の食料調達史の歴史 | 配布プリントの見直し |
| | 3 | 古代文明の衰退と環境破壊 | 配布プリントの見直し |
| | 4 | 食料と人口問題 | 配布プリントの見直し |
| | 5 | 食料の輸出入 | 配布プリントの見直し |
| | 6 | 緑の革命 | 配布プリントの見直し |
| | 7 | 農地の物質収支 | 配布プリントの見直し |
| | 8 | 肥料・農薬 | 配布プリントの見直し |
| | 9 | 灌漑 | 配布プリントの見直し |
| | 10 | 土壌流出 | 配布プリントの見直し |
| | 11 | 水産資源 | 配布プリントの見直し |
| | 12 | 気候変動と農業 | 配布プリントの見直し |
| | 13 | 有機農業 | 配布プリントの見直し |
| | 14 | 里山・里海 | 配布プリントの見直し |
| | 15 | 農業の持続可能性 | 配布プリントの見直し |
| | 16 | 試験 | |
| | テキスト・参考文献・資料など | | |
| | <p>教科書は使用しない。毎回A3二枚程度のプリントを配布する。 参考文献：西尾他編「環境と農業」（2003、農山漁村文化協会）</p> | | |
| | 学びの手立て | | |
| | <p>履修の心構え： ・毎回、講義の最後に小テストを実施する。注意深く講義の内容を聞きノートをとること。 ・レポートを課すことがある。 ・毎回出欠確認を行う。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に必ずメールにて連絡すること。</p> | | |
| | 評価 | | |
| | <p>期末試験（50%）と、小テスト及びレポート（50%）により評価する。</p> | | |

| | |
|-------|-----------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
| | <p>関連科目：「土壌学概論」、「島嶼環境論」</p> |

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 農業と経済 | 前期 | 月3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -藤原 昌樹 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい 本講義では、農業と食料をめぐる経済的現象を解明する学問である農業経済学の基礎を学ぶことを目的とする。 | メッセージ レジュメを元に講義を行いません。講義の予習・復習にレジュメを活用するようにしてください。また、講義に関連する書籍や論文等を随時紹介するので、これらの書籍や論文等にも目を通すことを推奨します。 |
| | 到達目標 農業と食料に関する（具体的な）諸問題について考察する際にバックボーンとなる農業経済学の理論の基礎を学ぶことを目標とする。 | |

| | | | |
|--|-----------------|-----------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 経済発展と農業（1） | |
| | 2 | 経済発展と農業（2） | |
| | 3 | 経済発展と農業（3） | |
| | 4 | 食料の需要と供給（1） | |
| | 5 | 食料の需要と供給（2） | |
| | 6 | 食料の需要と供給（3） | |
| | 7 | 農産物貿易と農業保護政策（1） | |
| | 8 | 農産物貿易と農業保護政策（2） | |
| | 9 | 世界の人口と食料（1） | |
| | 10 | 世界の人口と食料（2） | |
| | 11 | 資源・環境と農業（1） | |
| | 12 | 資源・環境と農業（2） | |
| | 13 | 日本及び沖縄の農業と食料（1） | |
| 14 | 日本及び沖縄の農業と食料（2） | | |
| 15 | 日本及び沖縄の農業と食料（3） | | |
| 16 | 期末試験 | | |
| テキスト・参考文献・資料など 講義はレジュメを用いて行ない、特にテキストの指定はしない。但し、比較的入手しやすい参考書として、下記の5冊を推薦する。 ・荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学 第4版』（岩波テキストブックス）岩波書店 2015年・速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』岩波書店 2002年・時子山ひろみ・荏開津典生『フードシステムの経済学 第4版』医歯薬出版株式会社 2008年・西村和雄『ミクロ経済学』岩波書店 1996年・原洋之介『北の大地・南の列島の「農」』書籍工房早山 2007年 | | | |
| 学びの手立て | | | |
| 評価 学期末に記述式の試験を行う。 | | | |

| | |
|-------|-------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
|-------|-------------|

| | | | | |
|--------|--------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 廃棄物論 | 前期 | 火1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -玉栄 章宏 | 3年 | 電話：090-8412-1064 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい 本講義では、日本における廃棄物に関する歴史、現状、循環利用の現状、海外における廃棄物問題、沖縄における廃棄物の現状と廃棄物事業（静脈産業）の順に学んでいく。講義を通して日本および世界、沖縄の廃棄物の概要を理解できるようにする。 | メッセージ 国内外、県内の廃棄物に関する新聞、テレビ、ネット情報などを大いに参考にしてください。 |
| | 到達目標 産業は動脈産業（自動車、家電製品製造業など）と静脈産業（廃棄物処理業、リサイクル業など）で成り立っている。その中で沖縄の静脈産業についても学びます。学んだことを学内で発表、新聞投稿が出来ることなどを期待する。 | |

| | | |
|-------|--|----------------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | |
| | 回 | テーマ |
| | 1 | 講義ガイダンス、講師自己紹介、沖縄の一般廃棄物の概要 |
| | 2 | 日本における廃棄物処理の歴史（1） |
| 3 | 日本における廃棄物処理の歴史（2） | |
| 4 | 日本の物質フロー | |
| 5 | 廃棄物とは（一般廃棄物と産業廃棄物） | |
| 6 | 循環的な利用の現状（1）（法制度と3R政策）・DVD（資源有効利用促進法） | |
| 7 | 循環的な利用の現状（2）（バーゼル条約・バーゼル法、廃棄物処理法） | |
| 8 | 循環的な利用の現状（3）（容器包装リサイクル法、家電・自動車リサイクル法） | |
| 9 | 循環的な利用の現状（4）（建設・食品リサイクル法、グリーン購入法） | |
| 10 | 廃棄物関連情報（最終処分場・不法投棄） | |
| 11 | 廃棄物関連情報（1）（ダイオキシン等 DVD なぜゴミを燃やしてはいけないの？19分） | |
| 12 | 廃棄物関連情報（2）（アスベスト等 DVD 健康被害と保障33分） | |
| 13 | 廃棄物関連情報（3）（越境移動、DVD 危害の輸出23分） | |
| 14 | 廃棄物関連情報（4）（海洋漂流廃棄物、人口の海10分orゴミ箱になった海15分） | |
| 15 | 沖縄における廃棄物の現状と廃棄物事業（静脈産業） | |
| 16 | 試験 | |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。DVDや各種配布資料など（ファイルに綴じ、毎回持参する）。 | |
| | 学びの手立て 授業でわからないことがあれば、積極的に質問してください。また、授業中はスマホで検索して学びに活かすことは大いに勧めます。但し、試験中はスマホの使用は禁止です。 | |
| | 評価 ・ 期末試験等により評価する。再試験は実施しない。 ・ 欠席日から2週間以上過ぎた欠席届は受け取らないので注意する。 ・ 以下の場合、単位は与えない・3分の1以上の欠席（欠席理由は考慮しない）。 ・ 出席で代筆が明らかとなった場合、期末試験を受けなかった場合、試験で不正をした場合。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 授業で学んだことを卒業論文に取り上げる場合や、受講後にもっと勉強したいこと等があれば、遠慮なく連絡ください。電話：090-8412-1064、e-mail:tamae-ak@amber.plala.or.jpです。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 社会人として諸問題を解決するために求められる基本的な資質である「知識」「考察力」「表現力」を身につけることができます。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|-------------------|------|-----------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | ファイナンシャル・プランニング I | 前期 | 木 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -名城 佳枝 | 1年 | 講義終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 金融や保険、不動産、税金など社会人として身につけるべきお金に関する知識を学び、「豊かな人生」の実現のために、現状を把握し課題を分析、金銭的問題解決ができることを目的としています。特に金融機関においては、FPの知識を活かして、お客様に総合的アドバイスができます。 | 金融機関において、FPの知識が必須ですが、皆さん自身の「豊かな人生」の実現のためにも有効です。ファイナンシャルプランニングを学ぶことで、個人とお金、社会とお金との関わりを考え、広い視野・選択肢を広げ、適切な判断ができることと思います。 |
| 到達目標 | F P 3 級の内容を学習します。ファイナンシャルプランニング I ・ II を学習することで、F P 技能士 3 級合格を目指します。 | |

| | | | |
|----------------|--|---------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | 授業計画 | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション・登録 | |
| | 2 | ライフプランニングの考え方 | 練習問題を解く |
| | 3 | キャッシュフロー表の作成 | 練習問題を解く |
| | 4 | キャッシュフロー表の作成 | 練習問題を解く |
| | 5 | 社会保険制度 | 練習問題を解く |
| | 6 | 公的年金(1) | 練習問題を解く |
| | 7 | 公的年金(2) | 練習問題を解く |
| | 8 | 公的年金(3) | 練習問題を解く |
| 9 | 生命保険の基礎知識 | 練習問題を解く | |
| 10 | 生命保険と税金 | 練習問題を解く | |
| 11 | 損害保険 | 練習問題を解く | |
| 12 | 経済・金融の基礎知識 | 練習問題を解く | |
| 13 | 金融商品の特徴(1) | 練習問題を解く | |
| 14 | 金融商品の特徴(2) | 練習問題を解く | |
| 15 | まとめ | | |
| 16 | 期末テスト | | |
| テキスト・参考文献・資料など | ファイナンシャルバンクインスティテュート編集 『うかる！FP3級速攻テキスト』日本経済新聞出版社 | | |
| 学びの手立て | 新聞やテレビ、ネットなどで、金融経済に関する記事やニュースに毎日目を通しましょう。 | | |
| 評価 | 期末テスト60%、課題の提出40% | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 F P 3 級の内容の後半部分をファイナンシャルプランニング II で学習するので、後期に履修下さい。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 社会人として諸問題を解決するために求められる基本的な資質である「知識」「考察力」「表現力」を身につけることができます。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|------------------|------|-----------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | ファイナンシャル・プランニングⅡ | 後期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -名城 佳枝 | 1年 | 講義終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 金融や保険、不動産、税金など社会人として身につけるべきお金に関する知識を学び、「豊かな人生」の実現のために、現状を把握し課題を分析、金銭的問題解決ができることを目的としています。特に金融機関においては、FPの知識を活かして、お客様に総合的アドバイスができます。 | 金融機関において、FPの知識が必須ですが、皆さん自身の「豊かな人生」の実現のためにも有効です。ファイナンシャルプランニングを学ぶことで、個人とお金、社会とお金との関わりを考え、広い視野・選択肢を広げ、適切な判断ができることと思います。 |
| 到達目標 | F P 3 級の内容を学習します。ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱを学習することで、F P 技能士3級合格を目指します。 | |

| | | | |
|----------------|--|--------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション・登録 | |
| | 2 | 所得税の基礎(1) | 練習問題を解く |
| | 3 | 所得税の基礎(2) | 練習問題を解く |
| | 4 | 住民税・法人税・消費税 | 練習問題を解く |
| | 5 | 不動産の基礎 | 練習問題を解く |
| | 6 | 不動産に関する法律 | 練習問題を解く |
| | 7 | 不動産に係る税金 | 練習問題を解く |
| 8 | 贈与税のキホン | 練習問題を解く | |
| 9 | 相続のキホン | 練習問題を解く | |
| 10 | 遺産分割 | 練習問題を解く | |
| 11 | 相続税の仕組み | 練習問題を解く | |
| 12 | 相続税の計算 | 練習問題を解く | |
| 13 | キャッシュフロー表事例 | 練習問題を解く | |
| 14 | キャッシュフロー表事例 | 練習問題を解く | |
| 15 | まとめ | 練習問題を解く | |
| 16 | 期末テスト | | |
| テキスト・参考文献・資料など | ファイナンシャルバンクインスティテュート編集 『うかる！FP3級速攻テキスト』日本経済新聞出版社 | | |
| 学びの手立て | 新聞やテレビ、ネットなどで、金融経済に関する記事やニュースに毎日目を通しましょう。 | | |
| 評価 | 期末テスト60%、課題の提出40% | | |

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 自分自身のライフプランを立ててみましょう。 |
|-------|--------------------------------------|

| | | | | |
|--------|---------|------|-------------|------------------------|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 不動産評価論 | 前期 | 木 4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -玉那覇 兼雄 | 3年 | E-mail | ktamanaha@solute.co.jp |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 「不動産鑑定評価基準」の解説を中心に、不動産と人、そして街づくりとの関わりについて、理論と実践を学習します。 | メッセージ 不動産のみならず物全般の価値がどのように決定づけられるかの理論を身につけることができます。 |
| | 到達目標 物の価値を判定する際に、市場性、費用性及び収益性の三つの観点からアプローチし、算定することが出来るように指導します。また、不動産をどのように利用することが最も効率的であるか及び社会的に有用であるかを理解出来るようにつとめます。 | |

| | | | |
|-------|---|----------------------------|--------------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | プロローグ 用語の定義、鑑定評価制度 | 不動産鑑定士とは何か事前に調べる 特になし |
| | 2 | 民法、建築基準法、土地区画整理法及び農地法の基礎知識 | テキスト第1章を事前に読む |
| | 3 | 不動産の鑑定評価に関する基本的考察 (1) | // 第1章を事前に読む |
| | 4 | 不動産の鑑定評価に関する基本的考察 (2) | // 第2章、第3章を事前に読む |
| | 5 | 不動産の種別及び類型、不動産の価格を形成する要因 | // 第4章を事前に読む |
| | 6 | 不動産の価格に関する諸原則 (1) | // 第4章を事前に読む |
| | 7 | 不動産の価格に関する諸原則 (2) | // 第5章を事前に読む |
| | 8 | 鑑定評価の基本的事項 | // 第6章を事前に読む |
| | 9 | 地域分析及び個別分析 | // 第7章第1節を事前に読む |
| | 10 | 鑑定評価の方式 (1) 取引事例比較法、原価法 | // 第7章第2節を事前に読む |
| | 11 | 鑑定評価の方式 (2) 収益還元法 | // 第8章第1節～第4節事前に読む |
| | 12 | 鑑定評価の方式 (3) 賃料の評価手法 | // 第8章5節～10節を事前に読む |
| | 13 | 鑑定評価の手順 | 試験準備 |
| | 14 | 鑑定評価報告書 | |
| | 15 | 沖縄の土地問題 (試験) | |
| | 16 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など テキスト：「不動産鑑定評価基準」(2回目の講義で配布) 参考書：鑑定評価理論研究会編著「要説 不動産鑑定評価基準」(住宅新報社) | | |
| | 学びの手立て ①「履修の心構え」私語を厳に慎むこと。場合によっては退室を命じます。 ②「学びを深めるために」土地問題(基地、開発等)に関する新聞、テレビ等のメディアに注視してもらいます。 | | |
| | 評価 出席を重視し、最終試験により評価します。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 民法、経済学、会計学 (2) 次のステージ 不動産鑑定士、宅地建物取引士等の国家試験へのチャレンジ |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|-----------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | プログラミング演習 | 後期 | 月 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 根路銘 もえ子 | 1年 | nerome6@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 必要な情報を的確に収集し、それを活用する能力を身につける。本講義では、情報リテラシー演習で学んだ基礎知識に続き、データ分析に必要な表計算ソフトウェアのプログラミングについて学習する。また、収集したデータの見せ方や画像処理の方法、情報提供の場としてWebページの制作やJavaScriptに関して学習する。 | プログラミングに関して学習することがはじめての方が多いと思いますが、焦らず取り組みればできることが広がる講義だと思います。大量のデータの処理やその自動化の方法、分析の方法は今後も求められる能力です。質問や講義への取り組み含め、積極的な参加を期待します。皆さんの先輩もSAとして、講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談してください。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトの習得とビジネスデータ加工ができる。 プログラミングやマクロの機能を活用して作業の効率化ができる。 画像データ加工処理操作の習得。 情報の種類やニーズに合わせた適切な情報公開ができる。 | |

| | | | |
|--------|---|-----------------------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | 授業計画 | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス・表計算ソフトウェアの復習 | 表計算ソフトの復習 |
| | 2 | 表計算ソフトの応用(1)：マクロの基本 | マクロの記録と実行 |
| | 3 | 表計算ソフトの応用(2)：マクロの基本・データ管理 | マクロの記録と実行・データ管理 |
| | 4 | 表計算ソフトの応用(3)：VBAプログラミングの基本 | 繰り返し処理 |
| | 5 | 表計算ソフトの応用(4)：VBAプログラミングの基本 | デバッグ処理 |
| | 6 | 表計算ソフトの応用(5)：VBAプログラミングの基本 | データ処理演習 |
| | 7 | 表計算ソフトの応用(6)：VBAプログラミングの応用 | 条件処理 |
| | 8 | 表計算ソフトの応用(7)：VBAプログラミングの応用(データ処理) | データ処理演習 |
| 9 | HTMLの基本(1)：基本ルールの学習、タイトル・文字・リンク等 | Webページ制作 | |
| 10 | HTMLの基本(2)：画像の貼り付け・レイアウト・表組・背景等 | Webページ制作 | |
| 11 | JavaScript：JavaScriptによる条件表示等 | Webページ制作 | |
| 12 | 画像処理(1) | 画像データ処理 | |
| 13 | 画像処理(2) | 画像制作 | |
| 14 | プログラミング・画像処理の復習 | データ処理演習 | |
| 15 | 期末試験 | 事前、事後に講義の復習 | |
| 16 | まとめ | 事前、事後に講義の復習 | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | 講義にてプリントを配布する。 | |
| 学びの手立て | 履修の心構え ・演習により講義を進めるため、毎回の課題にしっかり取り組むこと。 学びを深めるために ・情報リテラシー演習で取り扱ったアプリケーションソフトの操作に慣れる。 ・情報関連の資料はWeb上で取得できることも多いため、インターネットによる情報収集を活用する。 | | |
| 評価 | 平常点(講義への取組、課題の内容、課題の提出)70% 期末試験30% 各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目として、「情報処理概論」「統計情報処理I・II」があげられる。 受講終了後においては、多くのデータを扱う場合や、繰り返しのある作業などについて効率化できないか検討したり調査してみると良いと思います。 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|-----------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | プログラミング演習 | 後期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 根路銘 もえ子 | 1年 | nerome@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 必要な情報を的確に収集し、それを活用する能力を身につける。本講義では、情報リテラシー演習で学んだ基礎知識に続き、データ分析に必要な表計算ソフトウェアのプログラミングについて学習する。また、収集したデータの見せ方や画像処理の方法、情報提供の場としてWebページの制作やJavaScriptに関して学習する。 | プログラミングに関して学習することがはじめての方が多いと思いますが、焦らず取り組みればできることが広がる講義だと思います。大量のデータの処理やその自動化の方法、分析の方法は今後も求められる能力です。質問や講義への取り組み含め、積極的な参加を期待します。皆さんの先輩もSAとして、講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談してください。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトの習得とビジネスデータ加工ができる。 プログラミングやマクロの機能を活用して作業の効率化ができる。 画像データ加工処理操作の習得。 情報の種類やニーズに合わせた適切な情報公開ができる。 | |

| | | | | |
|--------|---|-----------------------------------|-----------------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 | |
| | 1 | 講義ガイダンス・表計算ソフトウェアの復習 | 表計算ソフトの復習 | |
| | 2 | 表計算ソフトの応用(1)：マクロの基本 | マクロの記録と実行 | |
| | 3 | 表計算ソフトの応用(2)：マクロの基本・データ管理 | マクロの記録と実行・データ管理 | |
| | 4 | 表計算ソフトの応用(3)：VBAプログラミングの基本 | 繰り返し処理 | |
| | 5 | 表計算ソフトの応用(4)：VBAプログラミングの基本 | デバッグ処理 | |
| | 6 | 表計算ソフトの応用(5)：VBAプログラミングの基本 | データ処理演習 | |
| | 7 | 表計算ソフトの応用(6)：VBAプログラミングの応用 | 条件処理 | |
| | 8 | 表計算ソフトの応用(7)：VBAプログラミングの応用(データ処理) | データ処理演習 | |
| 9 | HTMLの基本(1)：基本ルールの学習、タイトル・文字・リンク等 | Webページ制作 | | |
| 10 | HTMLの基本(2)：画像の貼り付け・レイアウト・表組・背景等 | Webページ制作 | | |
| 11 | JavaScript：JavaScriptによる条件表示等 | Webページ制作 | | |
| 12 | 画像処理(1) | 画像データ処理 | | |
| 13 | 画像処理(2) | 画像制作 | | |
| 14 | プログラミング・画像処理の復習 | データ処理演習 | | |
| 15 | 期末試験 | 事前、事後に講義の復習 | | |
| 16 | まとめ | 事前、事後に講義の復習 | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | 講義にてプリントを配布する。 | | |
| 学びの手立て | 履修の心構え ・演習により講義を進めるため、毎回の課題にしっかり取り組むこと。 学びを深めるために ・情報リテラシー演習で取り扱ったアプリケーションソフトの操作に慣れる。 ・情報関連の資料はWeb上で取得できることも多いため、インターネットによる情報収集を活用する。 | | | |
| 評価 | 平常点(講義への取組、課題の内容、課題の提出)70% 期末試験30% 各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。 | | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目として、「情報処理概論」「統計情報処理I・II」があげられる。 受講終了後においては、多くのデータを扱う場合や、繰り返しのある作業などについて効率化できないか検討したり調査してみると良いと思います。 |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性 実務的な経済取引などを紹介し、簿記の重要性を理解する。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|-------|------|-----------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 簿記原理Ⅰ | 前期 | 月4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -緑間 優 | 1年 | 講義終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 簿記とは、企業の日々の経済活動を正しく記録し、計算し、整理し、そして株主又は債権者へ報告するための技術的な方法です。その簿記の技術を習得し、財務諸表を読み解く力を身につけます。 | メッセージ 簿記の知識は、仕事内容が経理事務等であれば必要な知識ではあることは当然です。しかし、営業や製造管理者にとっても簿記の知識を身につけていれば、業務を理解しやすくなると思います。 |
| | 到達目標 授業を履修し、学習目標を達した結果、日商簿記検定試験3級に合格した場合、簿記の基本的な知識は習得したとみなされ、企業の会計業務のうち、伝票・帳簿入力業務を理解しやすい。 | |

| | | | |
|-------|--|------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 簿記の意味・目的・種類、基本概念 | |
| | 3 | 取引と勘定記入 | |
| | 4 | 仕訳と転記 | |
| | 5 | 仕訳帳と総勘定元帳 | |
| | 6 | 試算表の意味と種類 | |
| | 7 | 精算表のしくみ | |
| | 8 | 決算と財務諸表の作成 | |
| | 9 | 現金・預金 | |
| | 10 | 商品売買 | |
| | 11 | 売掛金と買掛金 | |
| | 12 | その他の債権・債務 | |
| | 13 | 手形取引 ① | |
| | 14 | 貸倒損失と貸倒引当金 | |
| | 15 | 前期末テスト | |
| | 16 | テストの解答解説 | |
| | テキスト・参考文献・資料など 段階式 日商簿記3級商業簿記 【第14版】 段階式 日商簿記ワークブック 3級商業簿記 【6訂版】 | | |
| | 学びの手立て テキストやトレーニング集以外の教材を、独自で入手し、自習時間を確保し日商簿記試験3級の合格をめざす。 | | |
| | 評価 出席状況、期末テストから総合的に判断する。 | | |

| | |
|-------|---------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 簿記原理Ⅱ、環境会計 |
|-------|---------------------------|

| | | | | |
|--------|-------|------|-----------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 簿記原理Ⅱ | 後期 | 月4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -緑間 優 | 1年 | 講義終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 簿記とは、企業の日々の経済活動を正しく記録し、計算し、整理し、そして株主又は債権者へ報告するための技術的な方法です。その簿記の技術を習得し、財務諸表を読み解く力を身につけます。 | メッセージ 簿記の知識は、仕事内容が経理事務等であれば必要な知識ではあることは当然です。しかし、営業や製造管理者にとっても簿記の知識を身につけていれば、業務を理解しやすくなると思います。 |
| | 到達目標 授業を履修し、学習目標を達した結果、日商簿記検定試験3級に合格した場合、簿記の基本的な知識は習得したとみなされ、企業の会計業務のうち、伝票・帳簿入力業務を理解しやすい。 | |

| | | | |
|-------|--|-------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス・前期の復習 | |
| | 2 | 有価証券 | |
| | 3 | 固定資産① | |
| | 4 | 固定資産② | |
| | 5 | 費用・収益 | |
| | 6 | 純資産と税金 | |
| | 7 | 帳簿と伝票 | |
| | 8 | 決算① | |
| 9 | 決算② | | |
| 10 | 決算③ | | |
| 11 | 損益計算書の作成 | | |
| 12 | 貸借対照表の作成 | | |
| 13 | 総合問題① | | |
| 14 | 総合問題② | | |
| 15 | 後期末テスト | | |
| 16 | テストの解答解説 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など 段階式 日商簿記3級商業簿記 【第14版】 段階式 日商簿記ワークブック 3級商業簿記 【6訂版】 | | |
| | 学びの手立て テキストやワークブック以外の教材を、自分で入手し、自習時間を確保し日商簿記試験3級の合格をめざす。 | | |
| | 評価 出席状況、期末テストから総合的に判断する。 | | |

| | |
|-------|---------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 環境会計 |
|-------|---------------------|

| | | | | |
|--------|----------|------|-----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | マクロ経済学 I | 前期 | 火 4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 2年 | t. toguchi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい マクロ経済学は国単位での経済活動について論じる経済学の基礎科目の1つです。財政学や公共経済学、金融論など様々な分野に共通する基礎理論でもあり、現実の経済を理解する上でも必要な科目になります。授業ではマクロ経済学の基礎的な考えや分析方法をできるだけ簡易に解説していきます。 | メッセージ マクロ経済学を理解して、経済学に興味を持ってください。授業は公務員専門試験の範囲と内容に準じます。 |
| | 到達目標 ・マクロ経済学初級と中級レベルまで理解する。 | |

| | | | |
|-------|--|------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | マクロ経済学の考え方 | 授業ノートを参照 |
| | 2 | 経済指標の見方-GDPとGDE | |
| | 3 | 経済指標の見方-物価指数 | |
| | 4 | 国民所得の考え方-45度線モデル | |
| | 5 | 消費と貯蓄-消費関数 | |
| | 6 | 消費と貯蓄-貯蓄関数 | |
| | 7 | 投資行動と投資関数 | |
| | 8 | 政府支出と政府の役割 | |
| 9 | 貨幣市場と貨幣需要 | | |
| 10 | 貨幣市場と投資 | | |
| 11 | 貨幣市場と証券市場 | | |
| 12 | IS-LM分析の基礎 | 配布資料を参照 | |
| 13 | IS-LM分析と財政政策 | | |
| 14 | IS-LM分析と金融政策 | | |
| 15 | IS-LM分析の応用 | | |
| 16 | 試験 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など マンキュー『マクロ経済学 I』 辻正次, 田岡文夫, 吉本佳生『演習マクロ経済学』 伊藤元重『マクロ経済学』 | | |
| | 学びの手立て ・必要なときに授業内容を振り返れるよう、授業ノートを作ることが望ましい。 ・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。 | | |
| | 評価 ・中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 ・マクロ経済から経済学の基礎理論を学び、「財政学」、「公共経済学」や「金融論」の理解に役立て、経済動向についても考えて欲しい。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|---------|------|-----------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | マクロ経済学Ⅱ | 後期 | 火4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 渡久地 朝央 | 2年 | t. toguchi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい マクロ経済学は国単位での経済活動について論じる経済学の基礎科目の1つです。財政学や公共経済学、金融論など様々な分野に共通する基礎理論でもあり、現実の経済を理解する上でも必要な科目になります。 本授業はマクロ経済学Ⅰの続きとなります。 | メッセージ マクロ経済学を理解して、経済学に興味を持ってください。 授業は公務員専門試験の範囲と内容に準じます。 |
| | 到達目標 ・マクロ経済学初級と中級レベルまで理解する。 | |

| | | | |
|-------|--|------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 物価の考え方ー物価の変化 | 授業ノートを参照 |
| | 2 | 物価の考え方ー失業率 | |
| | 3 | AD-ASモデルの基礎 | 配布資料を参照 |
| | 4 | AD-ASモデルの事例 | |
| | 5 | インフレと失業 | |
| | 6 | フィリップス曲線の考え方 | |
| | 7 | 国際マクロと為替ー為替の基礎知識 | |
| | 8 | 国際マクロと為替ーワルラスの法則 | |
| 9 | マンデル・フレミングモデルの基礎 | 配布資料を参照 | |
| 10 | マンデル・フレミングモデルの事例 | | |
| 11 | ポリシー・ミックス | | |
| 12 | 二国モデルと政策協調 | | |
| 13 | マクロ・ダイナミクスーコブ・ダグラスモデル | 配布資料を参照 | |
| 14 | マクロ・ダイナミクスーソローモデル | | |
| 15 | 経済成長理論 | | |
| 16 | 試験 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など マンキュー『マクロ経済学Ⅰ』 辻正次, 田岡文夫, 吉本佳生『演習マクロ経済学』 伊藤元重『マクロ経済学』 | | |
| | 学びの手立て ・必要なときに授業内容を振り返れるよう、授業ノートを作ることが望ましい。 ・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。 | | |
| | 評価 ・中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 | | |

| | |
|-------|-------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 授業ノートを参照 |
|-------|-------------------------|

| | | | | |
|--------|----------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | ミクロ経済学 I | 前期 | 水 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -藤原 昌樹 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|-------|
| 学びの準備 | ねらい 人々は経済活動なしには生活できない。経済活動の舞台となる市場のメカニズムを理解するためのツールがミクロ経済学である。ミクロ経済学の基礎的な理論を理解することを目的とする。 | メッセージ |
| | 到達目標 ミクロ経済学の基礎的な理論を理解することを目的とする。 | |

| | | |
|-------|--|---------------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | |
| | 回 | テーマ |
| | 1 | ミクロ経済学と経済生活 |
| | 2 | 市場とは何か？ 資源とは何か？ 資源の希少性とは？ |
| | 3 | 財とは何か？ |
| | 4 | 価格とは何か？ |
| | 5 | 時間と財の関係 |
| | 6 | リスクと財の関係 |
| | 7 | オークションとその仕組み |
| | 8 | 市場の失敗と市場の構築 |
| | 9 | 需要の価格弾力性 |
| | 10 | 消費者余剰 |
| | 11 | 複数財の選択と無差別曲線 |
| | 12 | 消費者の最適選択 |
| | 13 | 所得の変化と需要の変化 |
| | 14 | 代替効果と所得効果 |
| | 15 | 貯蓄の決定 |
| | 16 | 期末試験 |
| | テキスト・参考文献・資料など 講義はレジュメを使用して行うので、特にテキストは指定しない。 ミクロ経済学のテキストは多数存在するので、講義内にてテキストを推薦する。 | |
| | 学びの手立て | |
| | 評価 学期末に記述式の試験を行う。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 ミクロ経済学 I では消費理論を中心に解説し、ミクロ経済学 II では供給理論を中心に取り上げる。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|---------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | ミクロ経済学Ⅱ | 後期 | 水2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -藤原 昌樹 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|-------|
| 学びの準備 | ねらい 人々は経済活動なしには生活できない。経済活動の舞台となる市場のメカニズムを理解するためのツールがミクロ経済学である。ミクロ経済学の基礎的な理論を理解することも目的とする。 | メッセージ |
| | 到達目標 ミクロ経済学の基礎的な理論を理解することを目的とする。 | |

| | | | |
|-------|--|-------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 企業の行動と供給曲線 | |
| | 2 | 供給の価格弾力性 | |
| | 3 | 企業の販売意欲 | |
| | 4 | 生産者余剰 | |
| | 5 | 生産とは何か？ | |
| | 6 | 費用最小化 | |
| | 7 | 短期と長期 | |
| | 8 | 限界費用と限界費用曲線 | |
| 9 | 平均費用と平均費用曲線 | | |
| 10 | 短期供給曲線 | | |
| 11 | 長期供給曲線 | | |
| 12 | 市場均衡とその望ましさ | | |
| 13 | 市場の失敗 | | |
| 14 | 外部効果の問題点 | | |
| 15 | 外部効果の解決方法 | | |
| 16 | 期末試験 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など 講義はレジュメを使用して行うので、特にテキストは指定しない。 ミクロ経済学のテキストは多数存在するので、講義内にてテキストを推薦する。 | | |
| | 学びの手立て | | |
| | 評価 学期末に記述式の試験を行う。 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 ミクロ経済学Ⅰでは消費理論を中心に解説し、ミクロ経済学Ⅱでは供給理論を中心に取り上げる。 |
|-------|---|